

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期）
施策検証結果報告書（令和3年度）



▲ 「近江日野産日野菜」（写真:農林課提供）

日野町の伝統野菜である日野菜が「近江日野産日野菜」として、令和4年10月21日、地理的表示（GI）保護制度の認証を受けました。

令和4年11月

日野町総合計画懇話会

目 次

1. はじめに.....	1
2. 検証方法.....	3
3. 基本目標別検証結果.....	7
4. 施策検証結果一覧.....	17
基本目標（1）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	18
基本目標（2）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる.....	21
基本目標（3）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる.....	23
基本目標（4）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる.....	25
5. 施策別検証内容（施策検証シート）.....	29
基本目標（1）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる.....	30
基本目標（2）地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる.....	41
基本目標（3）まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる.....	49
基本目標（4）くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる.....	55
6. 地方創生交付金事業の検証.....	70
7. 検証のまとめ.....	72
1) 量的（KPI）検証のまとめ.....	73
2) 質的（取組内容）検証のまとめ.....	74
3) 基本目標別のまとめ.....	75
4) まとめ.....	78
8. 資料編.....	83
1) 用語解説.....	84
2) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会の開催.....	87
3) 総合計画懇話会総合戦略検証分科会委員名簿.....	87

1. はじめに

1) 総合戦略の検証の実施について

日野町では、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定される市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略として、平成27年10月に「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」（以下「総合戦略」）を策定しました。

第2期総合戦略は、人口減少が進むなか、安心して暮らせるまちをつくりそのまちの魅力で交流人口および定住者人口を増やし、持続的に発展する日野町をつくることを目指し、平成27年度からの6年間の基本的な方向と施策の取り組みを定めた第1期総合戦略の取り組みを踏まえ、まちづくりの指針として策定した第6次日野町総合計画の取り組みのなかから、人口減少、超高齢社会対策に特化した施策を総合戦略の取り組みとしています。

総合戦略の取り組みは、その効果を定期的・多角的に評価し、検証結果を踏まえ、さらに効果的・効率的な取り組みを推進していくことが求められます。このことから、毎年度の事業完了後に基本目標と施策についての取り組み状況を外部有識者等の参画のもとに効果検証することにより、その検証結果を踏まえた施策の見直しや総合戦略の改訂を行うPDCAサイクルを確立し、総合戦略を着実に推進するために実施するものです。

2) 検証にあたっての着目点など

総合戦略の検証を進めるにあたって、次の着目点により検証を実施しました。

- ① 総合戦略に掲げる「めざす姿」の実現に向けて、4つの基本目標の総合的な自己点検が実施され、事業の見直しも含めた今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。

（めざす姿）

人と人がつながり、顔の見える関係のもと、結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえるとともに、本町の強みや魅力を活かした取り組みを進めることで、暮らしを支える雇用をつくります。

また、歴史文化や町並み等を活かし、地域の魅力を育むことで、新たな人の流れをつくるとともに、住民が自ら考え自ら行動することで、人が集い安心して暮らせる地域をつくることをめざします。

さらに、観光、農業、商工業などの本町の特性を活かし、本町の外ともつながり、域外からも活力を呼び込むとともに、地域内経済循環につなげ、地域の経済を強く保っていくことをめざします。

また、人口減少は、その歯止め時間に時間を要し、歯止めをかけたとしても一定の人口減少が進行していくと見込まれます。地域での暮らしや教育・福祉が確保され、まち全体の生産性の向上を継続していく等、人口減少に適応した地域を着実に作っていくことをめざします。

- ② 施策の取り組みについて、基本目標および基本的方向性を踏まえた取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ③ 施策の取り組みについて、施策の内容を十分に理解したうえで取り組み状況を自己点検し、今後の取り組みについてビジョンが明示されているか。
- ④ 施策の取り組みについて、重要業績評価指標（KPI）の実績だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実ができていないか。

2. 検証方法

1) 施策の検証方法

施策の検証については、施策毎に取り組み状況等をまとめた「施策検証シート」を作成し、懇話会委員の合議性により検証を実施しました。

「施策検証シート」の検証項目には、施策毎の目標値にあたる「重要業績評価指標（KPI）の達成度」だけでなく、施策の取り組み内容の質について検証を行うため、「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」を加えた5項目としました。

2) 施策の検証結果

検証結果については、30点満点とし、「施策の検証基準」に基づき、量的検証項目として重要業績評価指標（KPI）の達成度、質的検証項目として4項目の採点を行い、5項目の合計点数により5段階の検証結果としました。

【量的検証項目】・・・点数配分10点

量的な検証として、年度別の重要業績評価指標（KPI）の目標値に対する実績値の達成度を検証しました。なお、重要業績評価指標（KPI）が複数設定されている施策については、平均点を点数としました。

検証による点数配分は、次のとおりです。

点数	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
KPIの達成度	100%	100% 未満～ 90%以上	90% 未満～ 80%以上	80% 未満～ 70%以上	70% 未満～ 60%以上	60% 未満～ 50%以上	50% 未満～ 40%以上	40% 未満～ 30%以上	30% 未満～ 20%以上	20% 未満～ 10%以上	10% 未満～ 0%以上

年度別の重要業績評価指標（KPI）に関する検証結果を次のとおり5段階としました。

KPIの検証結果	重要業績評価指標（KPI）の達成度	重要業績評価指標（KPI）の検証点数
量S	100% ～ 90%以上	10点 ～ 9点
量A	90%未満 ～ 70%以上	8点 ～ 7点
量B	70%未満 ～ 50%以上	6点 ～ 5点
量C	50%未満 ～ 30%以上	4点 ～ 3点
量D	30%未満 ～ 0%以上	2点 ～ 0点

【質的検証項目】・・・点数配分20点

「施策の取り組み状況」、「施策の今後の取り組み」、「基本目標・基本的方向を踏まえた取り組み状況」、「基本目標・基本的方向を踏まえた今後の取り組み」の4項目について検証を行った。

検証による点数配分は、次のとおりです。

検証項目	5点	4点	3点	2点	1点
【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証が できているか	施策の内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	施策の内容を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	施策の内容を理解し取り組みができている	概ね施策の内容を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	施策の内容を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	施策の内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	施策の内容を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね施策の内容を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり施策の内容を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない
【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、取り組みにより達成している	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決と達成に向け取り組みができている	基本目標と基本的方向を理解し取り組みができている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえて取り組めていない
【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	基本目標と基本的方向を十分に理解し、達成した取り組みを維持、または更に改善しようとしている	基本目標と基本的方向を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	基本目標と基本的方向を理解し、課題解決や達成に向けた取り組みが明示されている	概ね基本目標と基本的方向を踏まえているが、課題解決や達成に向けた取り組みが不十分	あまり基本目標と基本的方向を踏まえず、課題解決や達成に向けた取り組みが示されていない

質的検証を行った4項目の合計点数により、質的な検証結果を次のとおり5段階としました。


質的検証結果	質的検証結果の内容	質的検証を行った4項目の合計点数
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	20点 ～ 17点
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている	16点 ～ 13点
質B	内容を理解し、取り組みができている	12点 ～ 9点
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	8点 ～ 5点
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	4点 ～ 1点

【検証結果】

量的検証項目（KPI）および質的検証項目（4項目）の検証点数の合計点数により次のとおり、施策の検証結果とすることとしました。

検証結果	検証結果内容	5項目の合計点数
S	目標を達成している	30点～25点
A	優れている	24点～19点
B	実施できている	18点～13点
C	工夫が必要	12点～7点
D	改善が必要	6点～1点

【施行策の検証基準】

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略		施策の検証基準											
30点満点		達成		優		良		発展途上		改善が必要			
数量的検証	①	KPIの達成度 ※KPIが複数の場合は、平均点	10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点
		100%	100%未満～90%以上	90%未満～80%以上	80%未満～70%以上	70%未満～60%以上	60%未満～50%以上	50%未満～40%以上	40%未満～30%以上	30%未満～20%以上	20%未満～10%以上	10%未満～0%以上	
質的検証	②	【取り組み状況】 施策の内容を踏まえた取り組みと検証ができていますか	5点		4点		3点		2点		1点		
	③	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、施策の内容を踏まえ、改善策等を明記しているか	5点		4点		3点		2点		1点		
	④	【取り組み状況】 基本目標と基本的方向を踏まえた取り組みと検証ができていますか	5点		4点		3点		2点		1点		
	⑤	【今後の取り組み】 今後の取り組みは、基本目標と基本的方向性を踏まえ、改善策等を明記しているか	5点		4点		3点		2点		1点		
	合計検証点数		5点		4点		3点		2点		1点		
													
合計検証点数		30点～25点	24点～19点		18点～13点		12点～7点		6点～1点				
⑥検証結果		S	A		B		C		D				
		目標を達成している	優れている		実施できている		工夫が必要		改善が必要				

3) 基本目標別の検証

基本目標の検証については、めざす姿の実現に向けて、基本目標別にまとめられた取り組み状況と今後の取り組み、基本目標を構成する施策の検証結果を踏まえ、総合的に基本目標を検証し、その検証内容をコメントとしてまとめました。

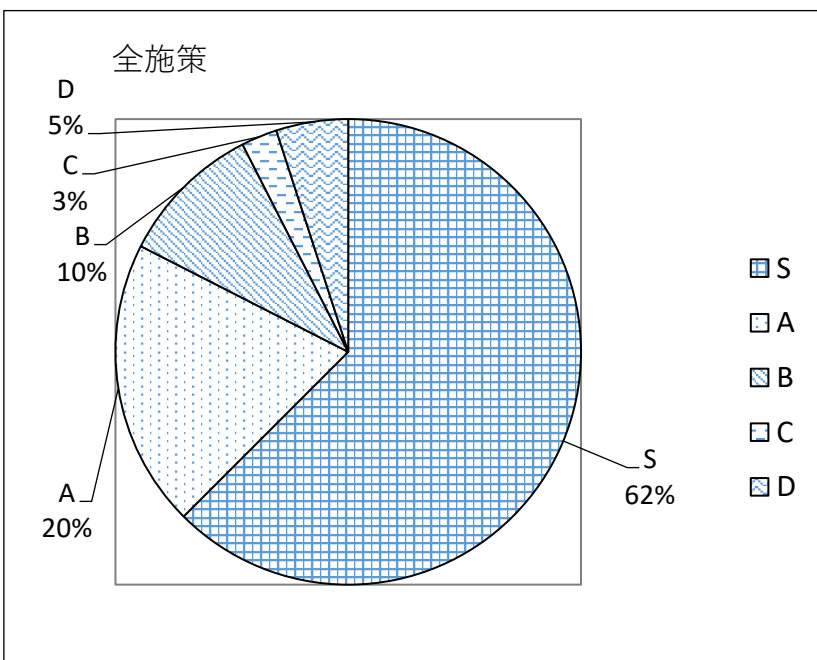
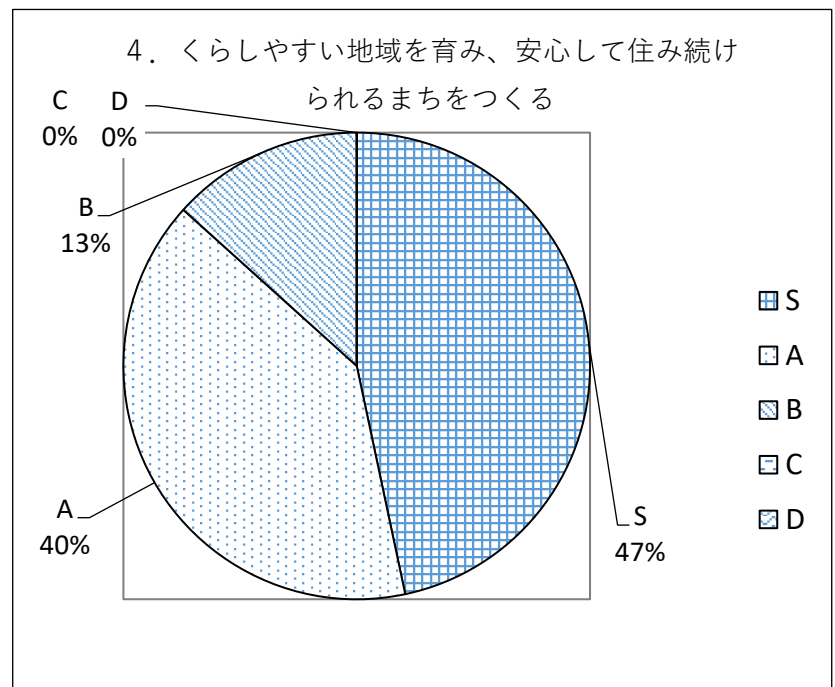
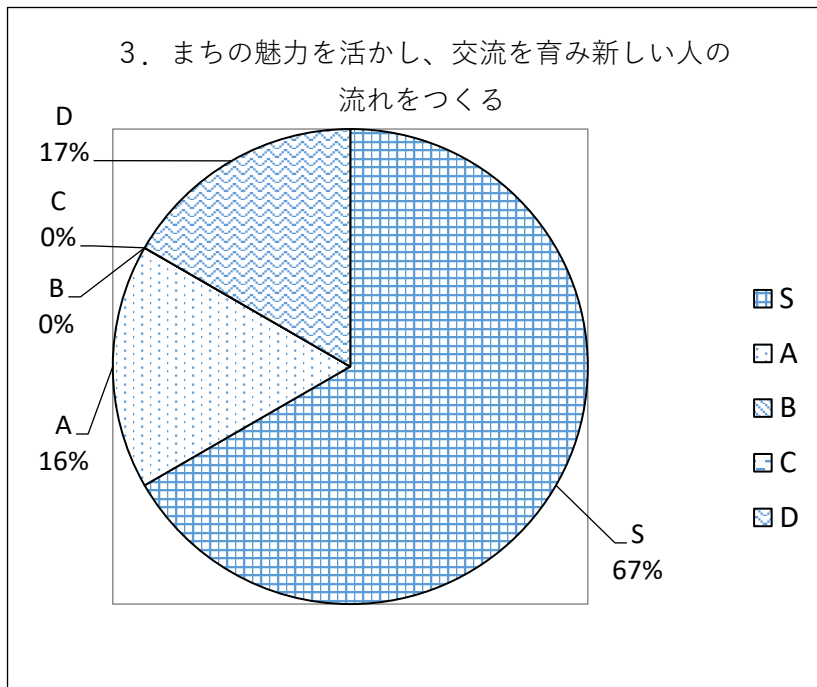
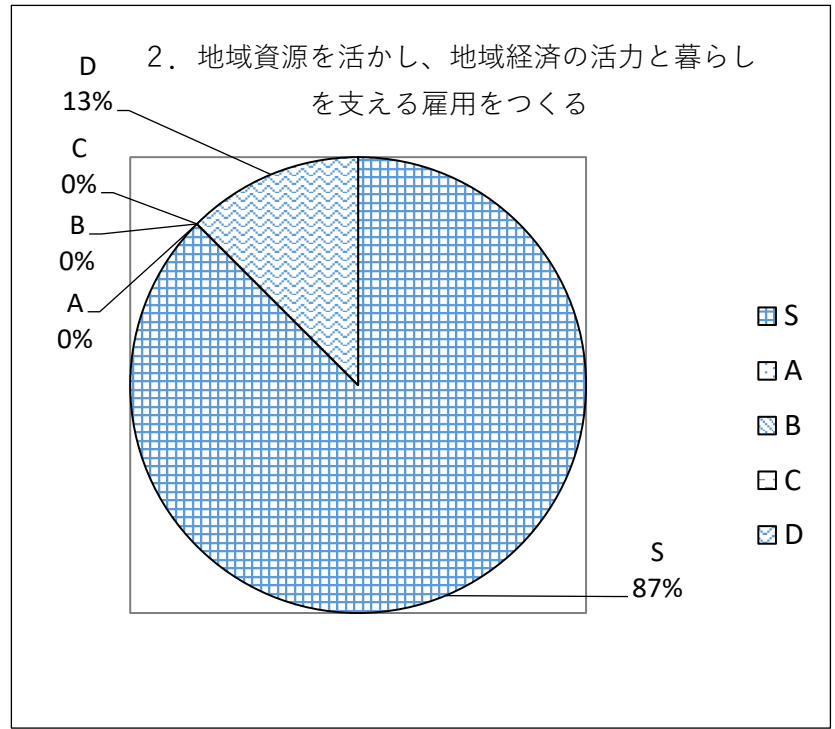
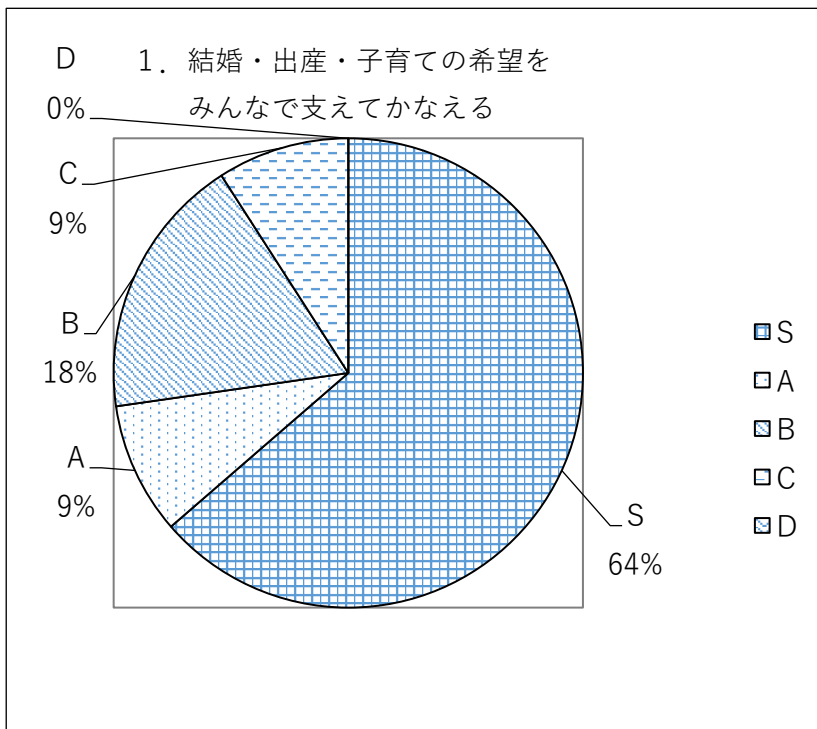
4) 地方創生交付金事業の検証

地方創生交付金事業の検証については、国から外部有識者による効果検証が求められていることから、総合計画懇話会で検証を行うこととしました。効果検証については、重要業績評価指標（KPI）の達成度に加え、関連する施策の検証結果を踏まえ、事業として有効であったかを検証することとしました。

3. 基本目標別検証結果

No.	基本目標	年度	検証結果					合計
			達成度 100%～90%以上	達成度 90%未満～70%以上	達成度 70%未満～50%以上	達成度 50%未満～30%以上	達成度 30%未満～0%以上	
			量S	量A	量B	量C	量D	
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	R3	7	1	2	1	0	11
		R4						
		R5						
		R6						
		R7						
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	R3	7	0	0	0	1	8
		R4						
		R5						
		R6						
		R7						
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	R3	4	1	0	0	1	6
		R4						
		R5						
		R6						
		R7						
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	R3	7	6	2	0	0	15
		R4						
		R5						
		R6						
		R7						
総合計		R3	25	8	4	1	2	40
		R4						
		R5						
		R6						
		R7						

基本目標別量的（KPI）検証結果

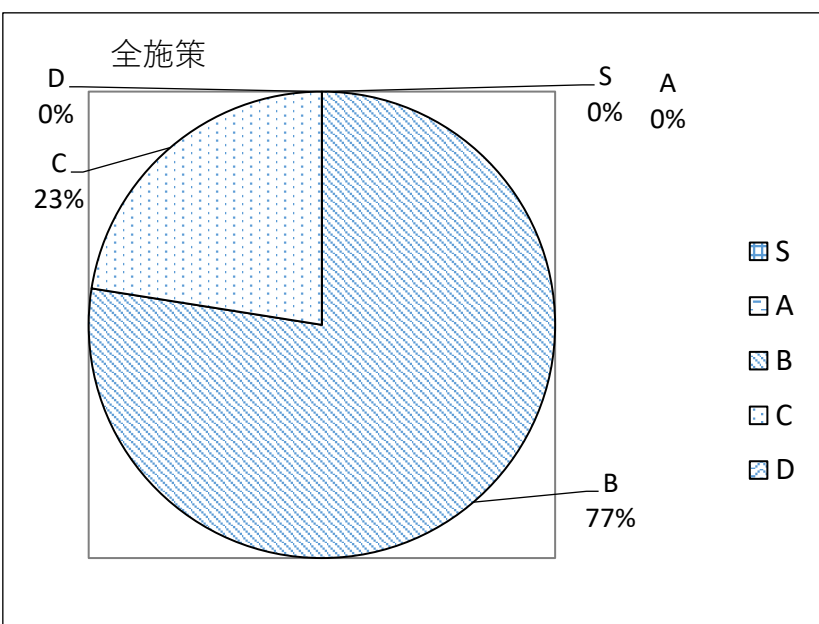
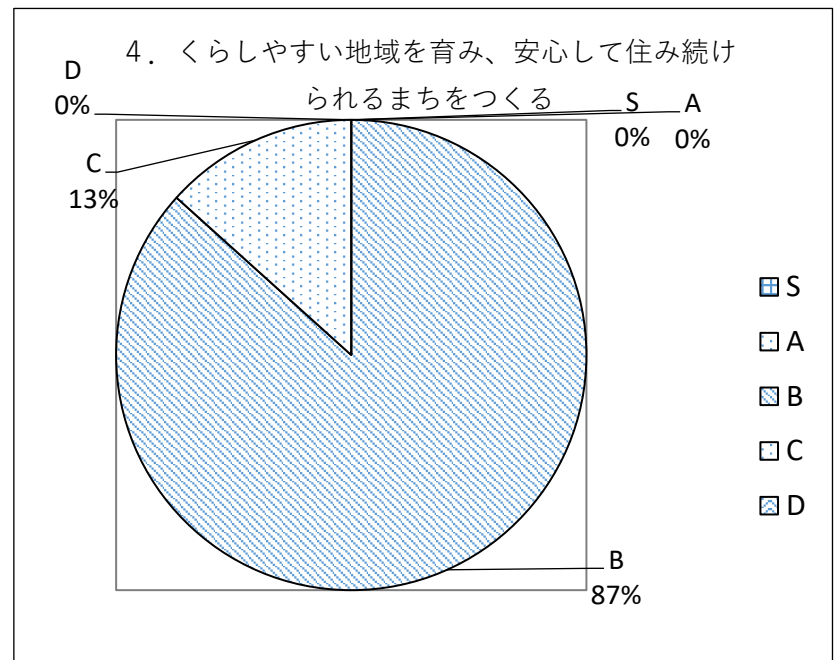
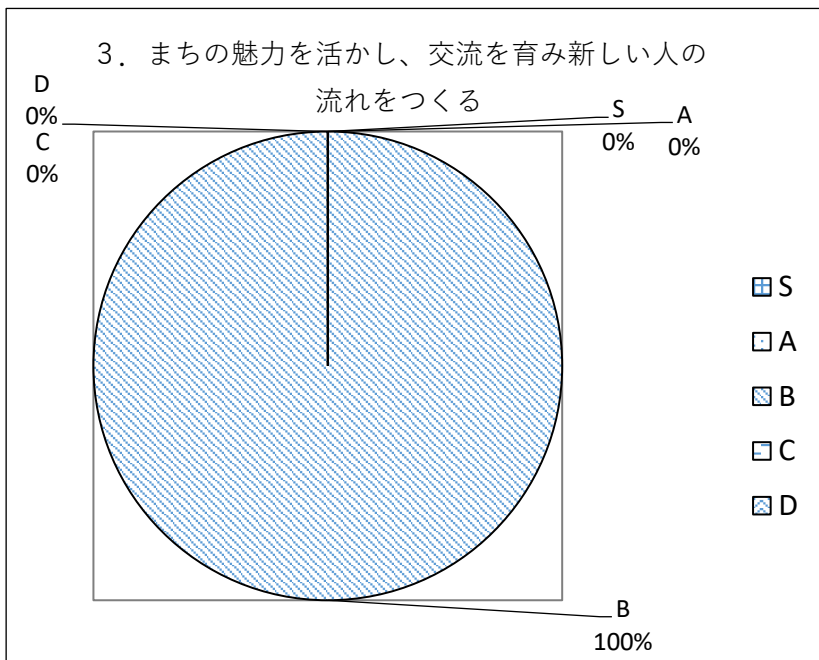
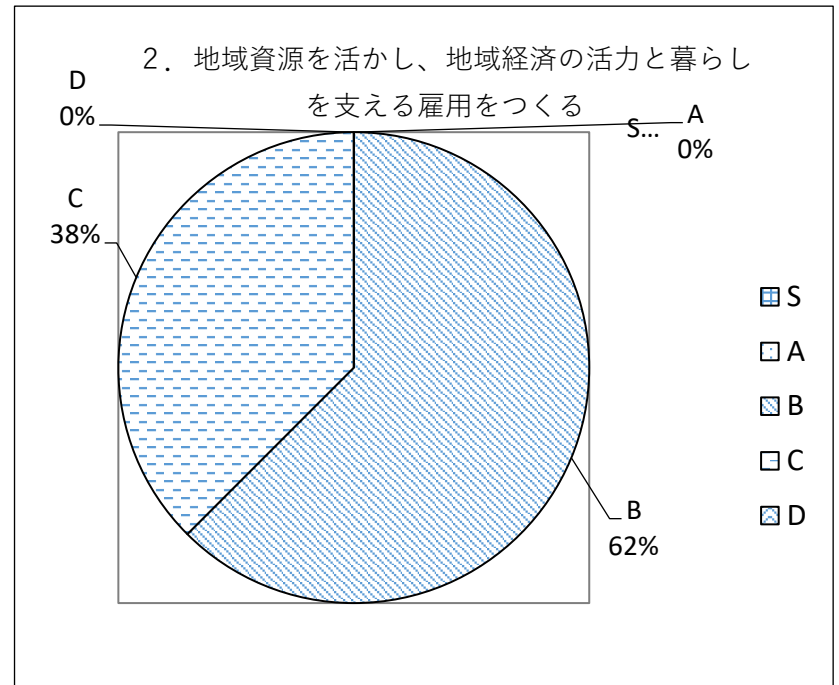
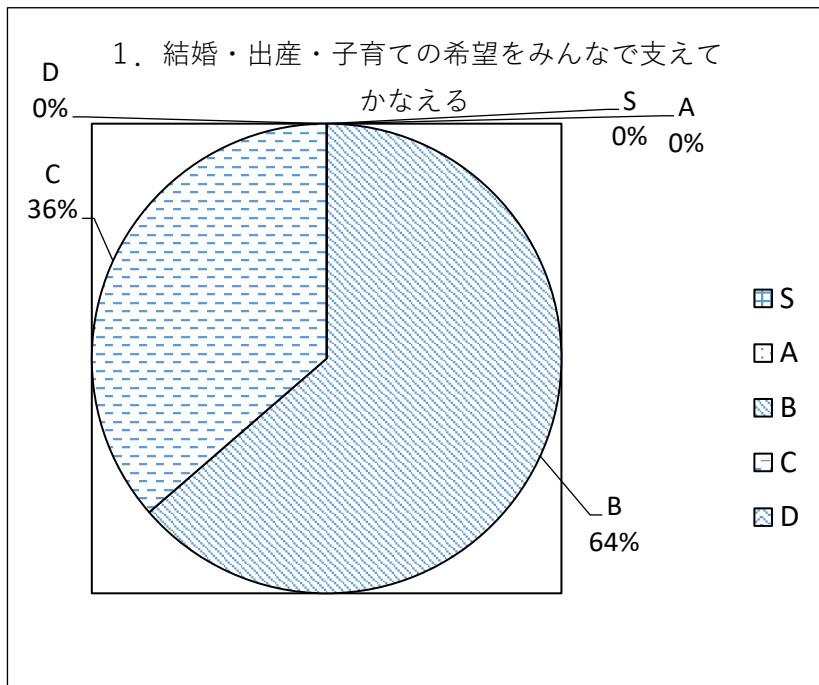


全施策の量的（KPI）検証結果では、量S（達成度100%～90%）が25施策、62%と最も多く、次いで、量A（達成度90%～70%）が8施策、20%となりました。

また、基本目標別の量的（KPI）検証結果でも、4つの基本目標とも、量S（達成度100%～90%）が最も多くなりました。

No.	基本目標	年度	検証結果					合計
			内容を十分に理解し、取組みにより達成している	内容を理解した取組みを実施し、課題解決や達成に向けた取組みができています	内容を理解し、取組みができています	概ね内容を踏まえているが、取組みが不十分	あまり内容を踏まえて取組めていない	
			質S	質A	質B	質C	質D	
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	R3	0	0	7	4	0	11
		R4						0
		R5						0
		R6						0
		R7						0
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	R3	0	0	5	3	0	8
		R4						0
		R5						0
		R6						0
		R7						0
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	R3	0	0	6	0	0	6
		R4						0
		R5						0
		R6						0
		R7						0
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	R3	0	0	13	2	0	15
		R4						0
		R5						0
		R6						0
		R7						0
総合計		R3	0	0	31	9	0	40
		R4						
		R5						
		R6						
		R7						

基本目標別質的（取組内容）検証結果



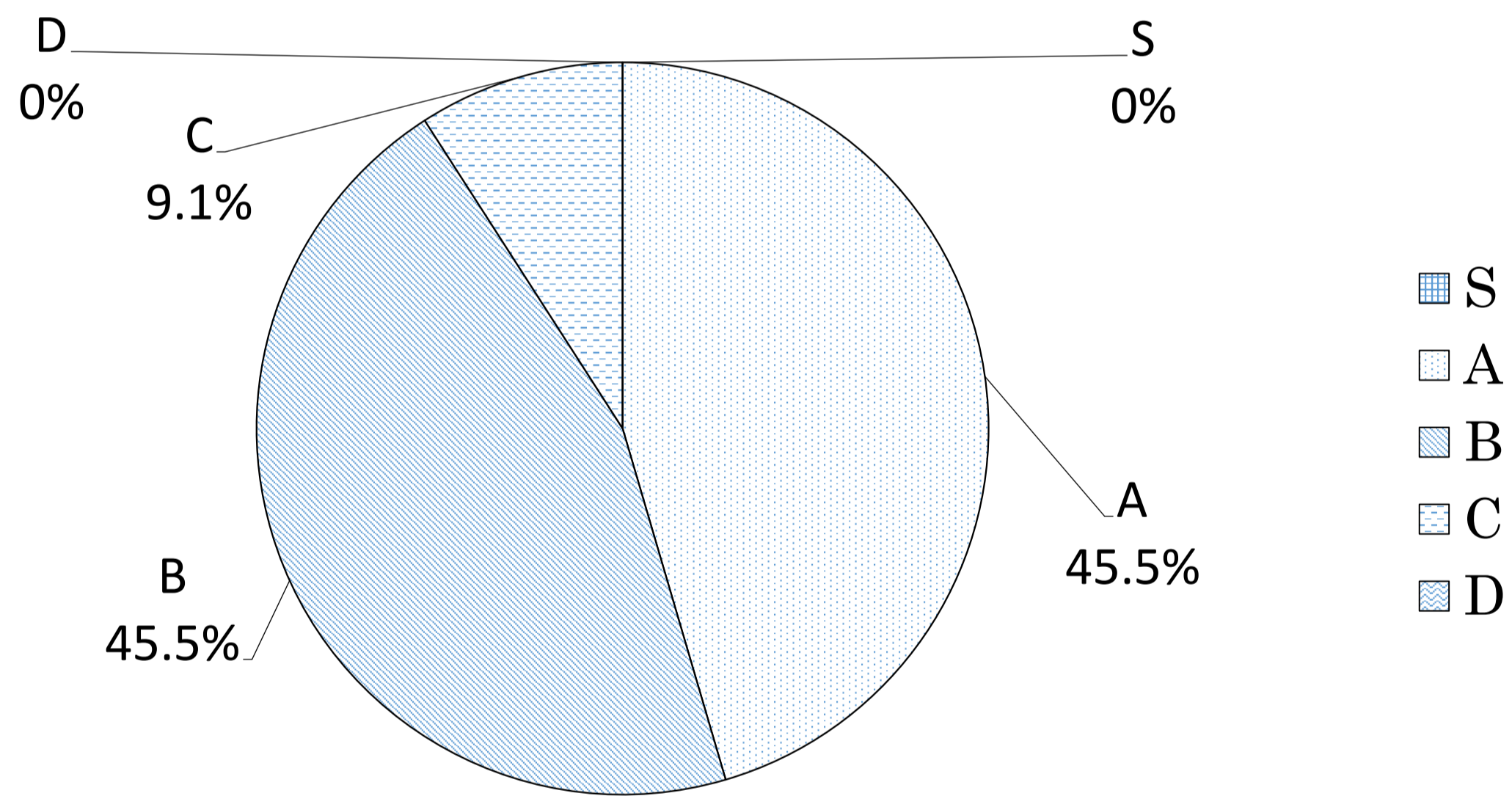
全施策の質的（取組内容）検証結果では、質B（内容を理解し、取り組みができています）が31施策、77%と最も多く、次いで、質C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）が9施策、23%となりました。

また、基本目標別の質的（取組内容）検証結果でも、4つの基本目標とも、質B（内容を理解し、取り組みができています）が最も多くなりました。

基本目標 (1)	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる
地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	

重要業績評価指標 (KPI)							
指標名	基準値 (R1)		R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)
1 出生数 (住民基本台帳) 過去3年平均	149人	目標	156人	160人	163人	166人	170人
		実績	135人				
		達成率	86.5%				
取り組みに関する基本的方向		○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。					
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	R3	0	5	5	1	0	11
	R4						0
	R5						0
	R6						0
R7						0	

1. 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる



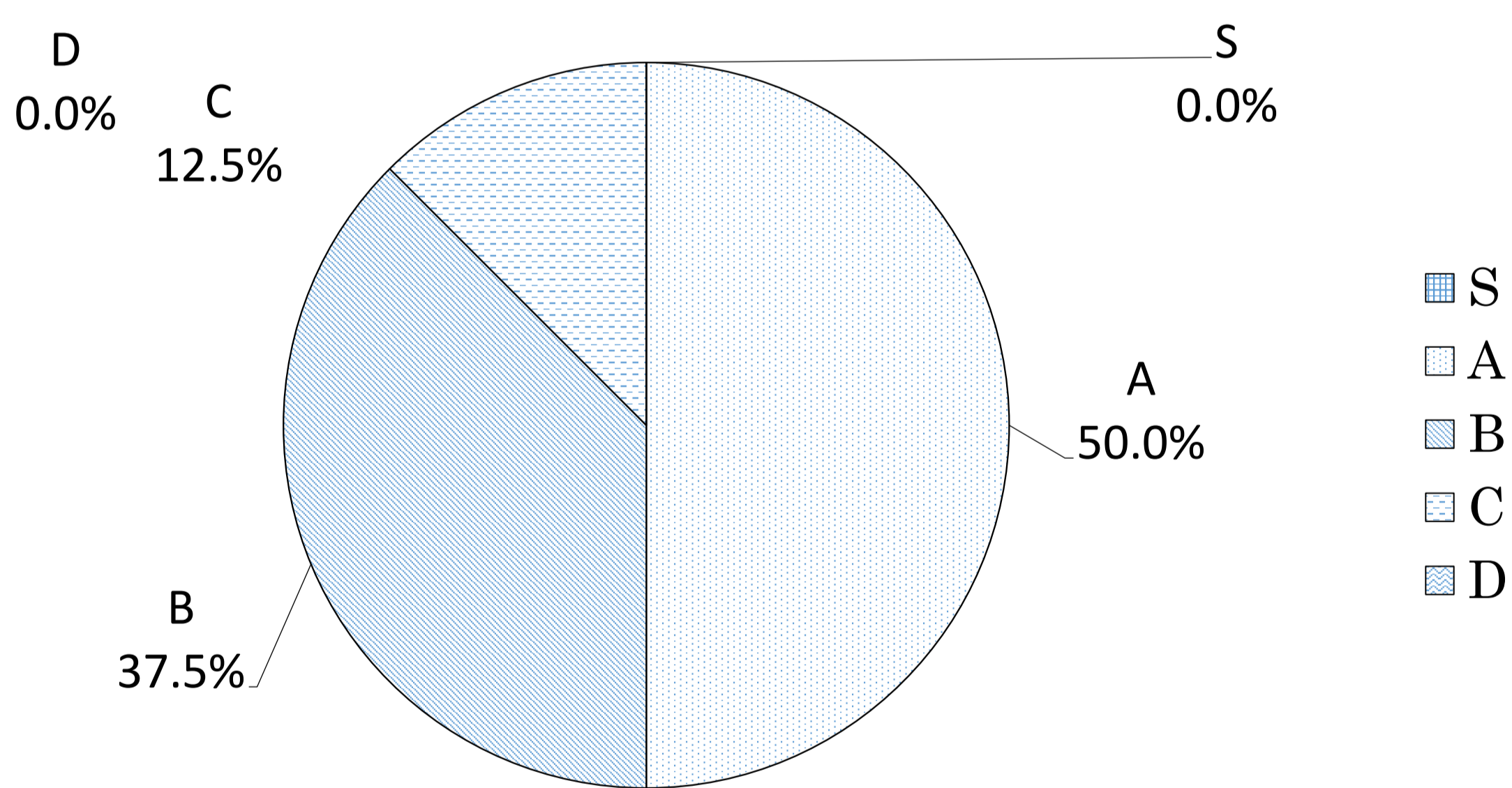
基本目標①「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」を構成する施策の検証結果は、A (優れている) が5施策、45.5%となりました。
 また、B (実施できている) も5施策、45.5%となりました。
 次いで、C (工夫が必要) が1施策、9.1%となりました。

基本目標に対するコメント (まとめはP.75参照)	<ul style="list-style-type: none"> 結婚から出産、子育てまで、その時々ニーズは常に変化しているため、その変化を的確に捉え、対応するようにしてください。 保護者が他人任せにならず、当事者として子育て世代の自覚を育む施策となるよう工夫してください。 乳幼児期から日野のまちの良さを体験でき、実感できることが、のちに日野へ帰ってくることににつながるため、手厚く取組を進めてください。
---------------------------	--

基本目標 (2)	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる
まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	

重要業績評価指標 (KPI)							
指標名	基準値 (R1)		R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)
1 創業件数	12 件	目標	15 件	17 件	19 件	22 件	25 件
		実績	16 件				
		達成率	100.0%				
2 町内企業への新規学卒就職者の町内在住者比率	19.9 %	目標	20.3 %	20.7 %	21.1 %	21.5 %	22.0 %
		実績	23.9 %				
		達成率	100.0%				
取り組みに関する基本的方向		○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。					
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	R3	0	4	3	1	0	8
	R4						0
	R5						0
	R6						0
R7						0	

2. 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる



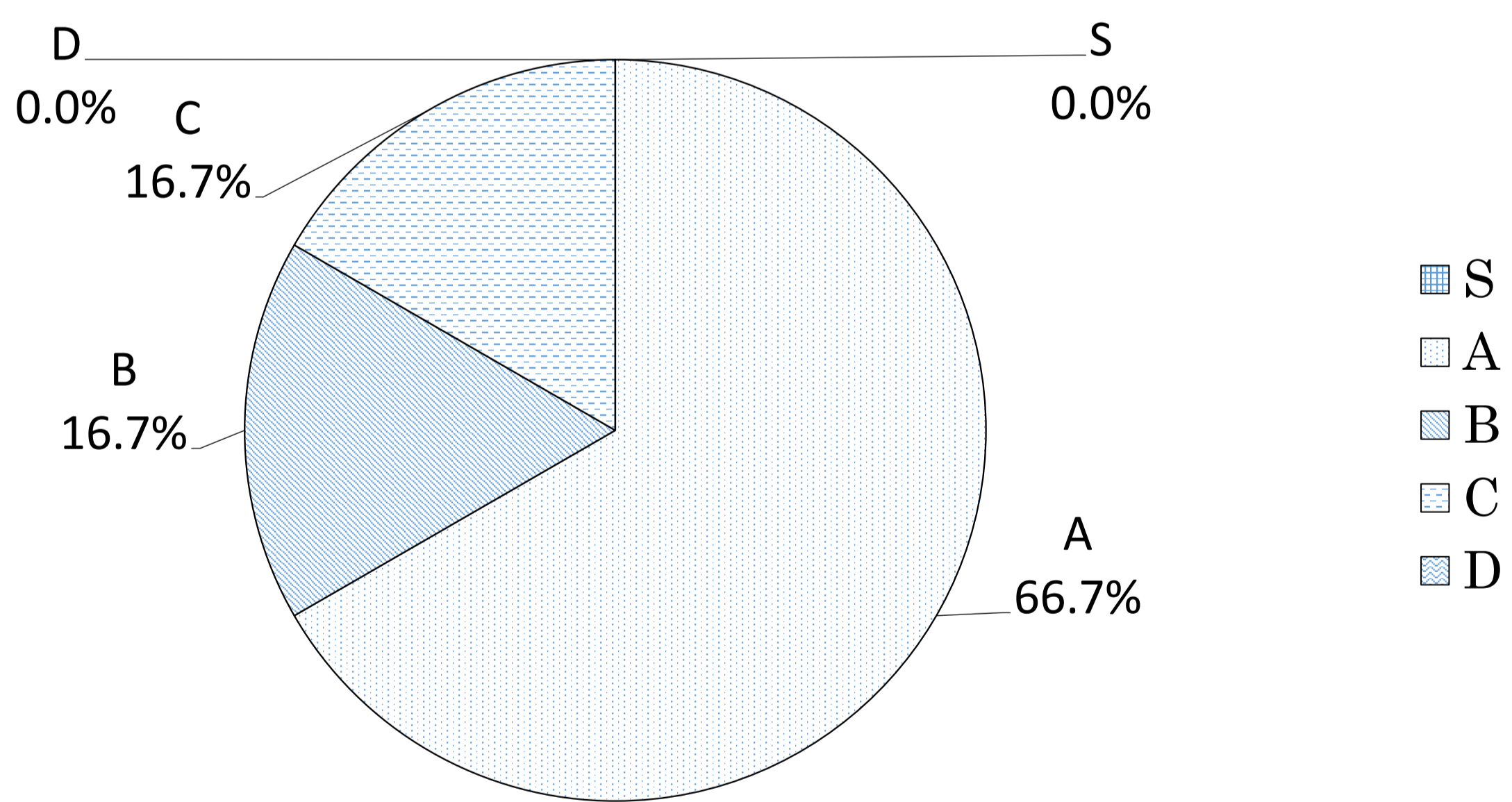
基本目標②「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が4施策、50.0%となりました。
 また、B（実施できている）は3施策、37.5%となりました。
 次いで、C（工夫が必要）が1施策、12.5%となりました。

基本目標に対するコメント (まとめはP.75~P.76参照)	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標②の施策は、そのすべてが「地域内経済循環の推進」に関わるため、地元のものを買って、地域を守ることに意味があることを知ることから、推し進め、まちの経済の質的転換を図るよう工夫してください。 まちの経済の質的転換を図るとともに、時代の変化に対応し、新たな産業分野の誘致と創出が図れるよう、まちの雰囲気づくりをすすめてください。
-----------------------------------	--

基本目標 (3)	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる
まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。	

重要業績評価指標 (KPI)								
指標名	基準値 (R1)		R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)	
1 観光入込客数 (年間) 過去3年平均	623,900 人	目標	550,000 人	550,000 人	580,000 人	610,000 人	650,000 人	
		実績	535,948 人					
		達成率	97.4%					
2 転入者数 (住民基本台帳) 過去3年平均	777 人	目標	778 人	778 人	779 人	779 人	780 人	
		実績	746 人					
		達成率	95.9%					
3 転出者数 (住民基本台帳) 過去3年平均	760 人	目標	744 人	735 人	727 人	719 人	710 人	
		実績	766 人					
		達成率	97.1%					
取り組みに関する基本的方向		○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持とうとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。						
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計	
		S	A	B	C	D		
	R3	0	4	1	1	0	6	
	R4						0	
	R5						0	
	R6						0	
R7						0		

3. まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる



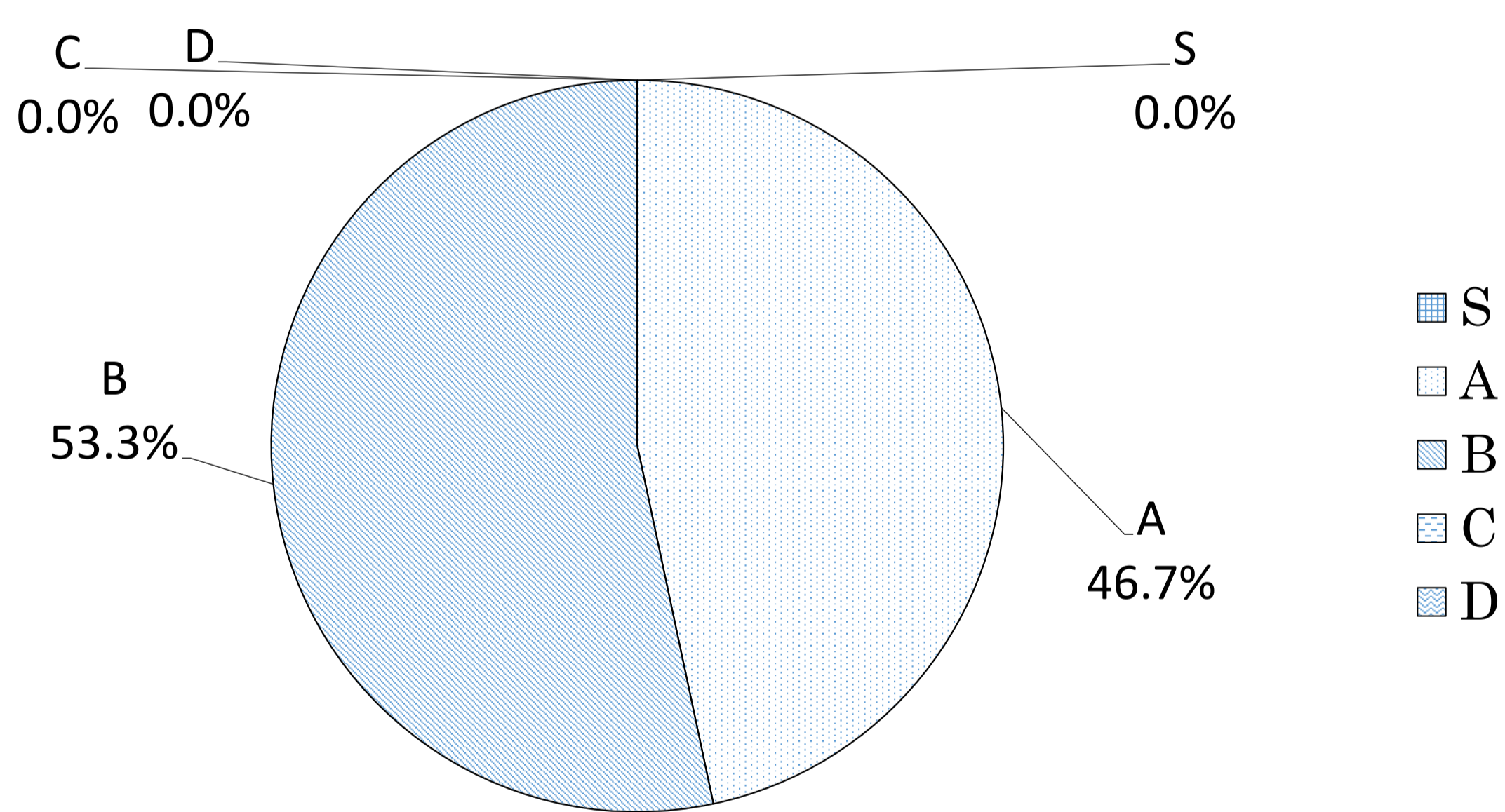
基本目標③「まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる」を構成する施策の検証結果は、A（優れている）が4施策、66.7%となりました。
 次いで、B（実施できている）が1施策、16.7%、C（工夫が必要）が1施策、16.7%となりました。

基本目標に対するコメント (まとめはP.76参照)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム付き商品券や住宅リフォーム助成などの施策による経済効果について、地元調達率を把握するため、仕入先をアンケート調査するなどして捉え、検証し、波及効果が高めるよう工夫してください。 ・ポストコロナに備え、民泊のみならず、新たな体験型観光の開発から移住、地域経済の活性化につながるよう取組を進めてください。
------------------------------	---

基本目標 (4)	<p>「くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる」</p> <p>家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。</p>
----------	--

重要業績評価指標 (KPI)							
指標名	基準値 (R1)		R3	R4	R5	R6	目標値 (R7)
1 人と人（複数の地域コミュニティ）をつなぐ場の創出	20 か所	目標	22 か所	24 か所	26 か所	28 か所	30 か所
		実績	21 か所				
		達成率	95.5%				
取り組みに関する基本的方向	<p>○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。</p> <p>○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。</p> <p>○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。</p> <p>○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。</p> <p>○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。</p> <p>○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。</p>						
施策の検証結果状況	年度	目的を達成している	優れている	実施できている	工夫が必要	改善が必要	合計
		S	A	B	C	D	
	R3	0	7	8	0	0	15
	R4						0
	R5						0
	R6						0
R7						0	

4. くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる

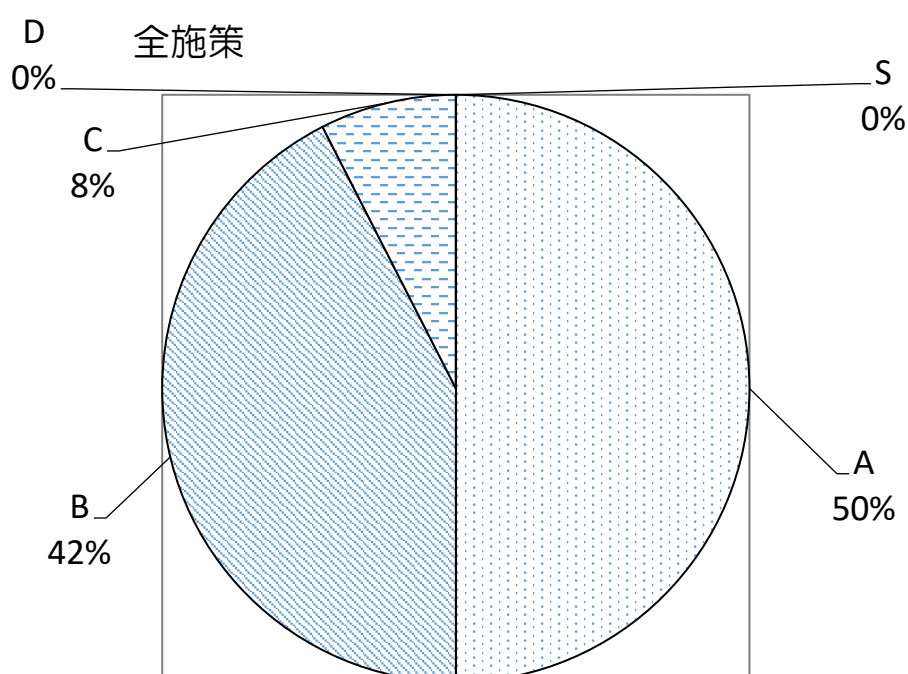


基本目標④「くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる」を構成する施策の検証結果は、B（実施できている）が8施策、53.3%となりました。

次いで、A（優れている）が7施策、46.7%となりました。

<p>基本目標に対するコメント (まとめはP.77参照)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIはおおむね達成していますが、数字だけではわからない部分を検証する内部検証では取組内容が一部見られない施策もあったことから、十分な内部検証をおこなってください。 ・UIJターンによる移住者から就労のため入国する外国籍の住民まで、多様な住民が安心して暮らせる、住みやすいまちとなるよう取組を進めてください。 ・「関係人口の創出」は、「特産品の振興」や「新たな産業分野の誘致と創出」にも接点があり、まちおこしや地域産業の発展から文化の継承を考えることにもつなげてください。
--------------------------------------	---

No.	基本目標	めざす姿		検証結果					検証委員からのコメント	
				目的を達成している S	優れている A	実施できている B	工夫が必要 C	改善が必要 D		合計
1	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。	R3	0	5	5	1	0	11	<ul style="list-style-type: none"> 結婚から出産、子育てまで、その時々ニーズは常に変化しているため、その変化を的確に捉え、対応するようにしてください。 保護者が他人任せにならず、当事者として子育て世代の自覚を育む施策となるよう工夫してください。 乳幼児期から日野のまちの良さを体験でき、実感できることが、のちに日野へ帰ってくることもつながるため、手厚く取組を進めてください。
			R4						0	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
2	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	まちの「だから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。	R3	0	4	3	1	0	8	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標②の施策は、そのすべてが「地域内経済循環の推進」に関わるため、地元のものを買ひ、地域を守ることに意味があることを知ることから、推し進め、まちの経済の質的転換を図るよう工夫してください。 まちの経済の質的転換を図るとともに、時代の変化に対応し、新たな産業分野の誘致と創出が図れるよう、まちの雰囲気づくりをすすめてください。
			R4						0	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
3	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。	R3	0	4	1	1	0	6	<ul style="list-style-type: none"> プレミアム付き商品券や住宅リフォーム助成などの施策による経済効果について、地元調達率を把握するため、仕入先をアンケート調査するなどして捉え、検証し、波及効果が高めるよう工夫してください。 ポストコロナに備え、民泊のみならず、新たな体験型観光の開発から移住、地域経済の活性化につながるよう取組を進めてください。
			R4						0	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
4	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	家庭でのきずなはもとより、地域での人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。	R3	0	7	8	0	0	15	<ul style="list-style-type: none"> KPIはおおむね達成していますが、数字だけではわからない部分を検証する内部検証では取組内容が一部見られない施策もあったことから、十分な内部検証をおこなってください。 Uターンによる移住者から就労のため入国する外国籍の住民まで、多様な住民が安心して暮らせる、住みやすいまちとなるよう取組を進めてください。 「関係人口の創出」は、「特産品の振興」や「新たな産業分野の誘致と創出」にも接点があり、まちおこしや地域産業の発展から文化の継承を考えることにもつなげてください。
			R4						0	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	
総合計			R3	0	20	17	3	0	40	
			R4						0	
			R5						0	
			R6						0	
			R7						0	



総合戦略の全施策の検証結果では、A（優れている）が20施策、50%と最も多くなりました。

次いで、B（実施できている）が17施策、42%、C（工夫が必要）が3施策、8%となりました。

また、基本目標別の検証結果では、基本目標①「結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる」はA（優れている）とB（実施できている）が同数となりました。

一方、基本目標②「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」、③「まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる」では、A（優れている）が最も多くなりました。

また、基本目標④「くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる」では、B（実施できている）が最も多くなりました。

4. 施策検証結果一覧

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証			検証結果	
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	1	安心して妊娠・出産・子育てができるための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの設定が「母子手帳交付時の面談実施率」となっていますが、面談実施100%となり、あたりまえのことがきちんとできており良いと評価します。一方で、過去の面談実施率は低かったでしょうか。実態を踏まえて、KPIを設定できていたでしょうか。 ・地域や関係機関との連携の取組、今後が見えにくいです。相談に対応し、交流の場づくりをしているところは分かりますが、地域との連携、各関係機関との連携が不要なのか、できていないのかも分からない内部検証となっています。KPIに掲げた母子手帳交付時の面談実施率に引きずられた内部検証となっています。 ・連携による切れ目のない支援の構築はどのようなことができており、何ができていないのか検証して下さい。 ・マタニティ・キーホルダーを渡していますが、地域への啓発を行い、「取り組みの方向」にある「風土づくり」、また、地域社会全体で子どもを育てる取組を進めてください。 ・「めざす姿」を考えると「地域とのつながりを深める」ことが重要になります。④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、地域との多様なつながりが、「子育てに希望をもてるまちづくり」につながるのか、主管課、連携する関係機関のなかでのビジョンの共有が必要です。 ・地域とのつながりには、民生委員などつながる段階から地域社会全体と子育て世代がつながる段階まで、いくつかの段階があると思われます。「子育てにやさしい風土づくり」に向けて取組をお願いします。 ・家庭訪問に入ったときに、家庭の状況が見える。これは保健師にしかできないことであり、重要なことである。 ・生まれる前から準備ができること＝「安心」につなげるため、支援の準備ができていることを伝える必要がある。 ・育児休暇は女性だけでなく男性も取得できるよう普及を進める必要がある。さらに、面談は母だけでなく父も含め夫婦への面談とすることで、夫婦の関係性や虐待の有無について様子を見ることが出来る。 	R3	10	2	2	2	2	18
				R3	量S	質C			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R3	9	2	3	2	3	19
				R3	量S	質B			A	
	R4									
	R5									
	R6									
	R7									
	R3	4	2	2	2	2	12			
	R3	量C	質C			C				
	R4									
	R5									
R6										
R7										
R3	9	2	2	2	2	17				
R3	量S	質C			B					
R4										
R5										
R6										
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数	
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
					量的検証	質的検証			検証結果		
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	5	地域ぐるみでの 子どもの居場所 づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの「子育てサポーター数」が、R7目標値が10人で、R3には既に実現できました。達成は評価しますが、今後、10名以上のサポーターは必要ないのでしょうか。達成可能性だけでなく、住民にとって必要な人数という視点でもKPIの設定を考えて下さい。サポーターを増やす意思がないように読み取られかねません。 ・切れ目のない支援の一つとして「子どもの居場所づくり」に取り組んでいますが、この取組を通じて「まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくり」につながるような工夫をして下さい。例えば、夏休みに、町出身の大学生、高校生をアルバイト雇用するなどして、学童クラブ陰影を手伝ってもらうなど、まちの担い手の経験を若い時にもしてもらって下さい。年の離れた多世代交流だけでなく、年の近い多世代交流をつくり、地域の教育力の向上にもつなげて下さい。 ・地域の教育力の向上を意識して施策の工夫を行って下さい。現状では、連携を進めたり、場づくりができていないことは分かりますが、「教育力の向上につながっている」と検証が持てる内部検証ができていません。 ・今後の課題として、施設の増設、老朽化した施設の改善も指摘されています。子どもの居場所として必要な施設の充実を図ってください。 ・こどもの居場所をつくることは、安全・安心に過ごせて、多様な経験・良質な経験ができること、そこから、まちへの愛着を育む効果も期待されています。④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証では、基本目標、基本的方向等を踏まえた豊かな内容となるように検討して下さい。 ・子育てサポーターが必要な人数を把握するために、ニーズを把握するとともに、地域の人材として、関係課への横展開ができる可能性を検討する必要があります。 ・地域における子育て支援、家庭教育の人材育成は、講習だけでは増えないため、仲間を増やすための工夫や議論が必要である。 	R3	10	3	3	2	2	20	
				R4	量S	質B			A		
				R5							
				R6							
				R7							
				R3	9	2	2	1	1	15	
				R4	量S	質C			B		
				R5							
				R6							
				R7							
				R3	6	3	3	3	3	18	
				R4	量B	質B			B		
R5											
R6											
R7											
R3	6	3	3	3	3	18					
R4	量B	質B			B						
R5											
R6											
R7											

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	検証項目					合計 検証点数	
				①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み		
				量的検証	質的検証			検証結果		
(1) 結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	9	住民の主体的な文化芸術活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・1-9「住民の主体的な文化芸術活動への支援」の取組内容の成果指標として、KPIが文化祭参加者数、出演者・出展者数となっていますが、この指標だけでは測れない成果を把握するようにしてください。 ・1-9「住民の主体的な文化芸術活動への支援」の取組内容が、「生涯にわたる学びと活躍の推進」となり、「若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちづくり」につながる工夫をして下さい。道筋について具体的イメージを持つようにして下さい。 	R3	8	3	3	3	3	20
					量A	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	10	ふるさと学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・1-3「コミュニティ・スクールの導入」とも連携して、事業効果を高めて下さい。 ・1-3「コミュニティ・スクールの導入」における地域づくりの動きを活性化させ、地域ニーズに合致した学校づくりになるように工夫して下さい。 ・ふるさと学習については充実した内容であると評価します。郷土、伝統料理の伝承と情報発信も進んだものと評価します。 ・「ふるさと学習の充実」が、「生涯にわたる学びと活躍の推進」、「まちに愛着を持つ子どもを育て」、「若い世代が子育てに希望が持てるまち」になる結節点になりうる施策上の工夫をして下さい。文化的豊かさの実感をまちの豊かさ、まちの魅力につなげて下さい。そのポイントは情報発信にあり、交流人口の増加や定住・移住促進につなげて下さい。 	R3	10	3	3	2	2	20
					量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	11	女性活躍の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・1-11「女性活躍の環境づくり」の取組内容が、「ほけっと」を起点とした就労支援事業と企業へのワーク・ライフ・バランスの啓発とに絞られており、分かりやすい施策となっています。今後は、この主要な2つの取組に限定されず、「女性活躍の環境づくり」全般に目をくばり、幅広い施策の可能性を探ってください。KPIの「ほけっと」起点の事業効果が幅広い取組へのディスインセンティブにならないよう気をつけて下さい。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）ともに基本目標、基本的方向等を踏まえた内部検証をしている点を評価します。具体的な施策の工夫のイメージを持てるように検討を進めて下さい。 ・女性活躍に向けた女性のニーズを的確に捉え、そのニーズの多様さに応えることが重要です。ニーズの多様さの背後にある住民の暮らし方の多様さを的確に把握して、子育てに希望の持てるまちづくりにつなげて下さい。 ・就労セミナーや相談会は、10月に保育所申込時期が到来することから、それ以降に実施しても参加者が少ないため、早い時期に実施する必要があります。 ・町内で勤務したいと考えているお母さんは多いと思うが、働きたいという声と働く先がつかっていない。実際の働きたいという声には、フルタイムのほか、パートタイムやすき間時間の活用などさまざまあり、いろいろな就労のカタチにつなげることが大切である。 ・ハローワークでは検索できない情報などが、ほけっとで検索できるとよいのではないか。 ・岡山県奈義町の取組（まちの人事部）などを参考に、事業者からの相談や働く人の相談、ワーキングスペースの確保など工夫してほしい。 	R3	9	3	3	3	3	21
					量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証			検証結果	
(2) 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	1	農業経営・担い手育成への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIとなっている「人・農地プランの作成集落数」が、R2からR3で増えていませんが、KPIの目標設定がR2の実数である21集落のままなので、KPIの達成度が100%になりました。今後、1年に1集落ずつ作成する目標となっていますが、作成するだけを目指すとせず、プランが実行され、成果が出るようにフォローアップしてください。 ・内部検証②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）において、2-1「農業経営・担い手育成への支援」の取り組み内容への検証が不十分です。「貸し手と借り手をつなぐため」の情報共有が実施されたのかどうなのかわかりません。 ・担い手の確保、育成のためにも、基本目標、基本的方向を踏まえた「地域資源」の視点、「地域内経済循環の活性化」、「地元企業、商工会との連携」、「町内雇用の拡大」などと連結、連動した施策を検討してください。 ・環境こだわり農業の推進は、地域資源の活用とブランド化につなげられる優れた取り組みだと考えますが、内部検証では単に面積の増加に言及しているにとどまっています。政策当局の施策と把握が過小評価になっていないか気になります。 ・コロナ禍による集落に出向いての説明が困難な状況が続いたようですが、集落の通信環境の整備も行うなどして、オンラインによる説明会等も工夫してください。 ・⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた今後の取り組み）で「自分たちの集落を守る意識」に言及していますが、この意識を高めることにつながる施策の工夫をしてください。 ・今の状況では、5年10年先の状況が読めず、計画が立てづらい現状がある。10年経てば従事者がゴロっと変わると考えられるなかで、まずは家庭で誰が農地を守るのか、議論する必要がある。その先に集落でどう守れるのか考えることが大切である。 ・「自分たちの集落を守る」ことを中心に据えて、その意識を高めるために何を進めていくのかという視点で施策を考える必要がある。 	R3	10	2	2	2	3	19
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
	2	農業生産・特産品の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・②、③、④、⑤（内部検証）では、日野菜のことしか言及されていません。2-2「農業生産・特産品の振興」の取り組み内容には、日野菜の他に「近江牛、近江米、北山茶等の特産品の～」とされています。これらの事項についても、毎年施策を行っており、書く内容はあると考えますが、今回の内部検証では全く言及されていません。 ・2-2「農業生産・特産品の振興」の取り組み内容に、「6次産業化を図り」とありますが、内部検証では言及されていません。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、「地域資源」、「地域内経済循環」、「町内企業の連携・交流」、「町内雇用の拡大」といった点に関連させて検証を行い、施策を再考してください。 ・「農業生産・特産品の振興」を実現するうえで、基本目標、基本的方向は必要なことではないでしょうか。生産、供給体制、販路拡大への支援から、6次産業化を図るなど支援レベルの高度化が必要です。 ・「原産日野菜のブランド化を・・・」としている一方、地元のインショップではB級、C級の日野菜が並んでいる現状について、情報把握しておく必要がある。 ・R2からR3にかけて、生産量は増加したが、在庫が残る状態であったため、販売額のみならず、販路についても指標とすべきではないか。 ・特産品として並列している近江牛や近江米、北山茶など、現状について情報把握し、内部検証すべきである。 	R3	10	2	2	2	2	18
				R3	量S	質C			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
3	林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・2-3「林業の振興」の取り組み内容が貧弱です。林業振興の施策を工夫してください。未利用資源が増加している要因を分析し、効果的な施策を検討してください。 ・②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）において、2-3「林業の振興」の取り組み内容で挙げられている項目への検証を行い、「木材搬出を促し」、「人工林の整備」、「林道・作業道の整備」がどの程度できているのかを明らかにしてください。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、基本目標、基本的方向を踏まえて、「地域資源を活かし」、「地域内経済循環」、「町内雇用の拡大」につながるよう現況分析、今後の取り組みの施策の工夫を行ってください。 ・森林境界明確化事業の重要性は認めますが、その先の施策の展開の全体像を理解せずに、部分的事業に集中しても林業振興にはつながりにくいのではないのでしょうか。 ・森林環境増進税制度をよく研究し、木材利用の促進から地域内経済循環の創出、町内雇用の拡大の総合的施策を検討してください。 ・生産者の能力アップを図るとともに、販売量（出口の需要）をアップさせるための工夫が必要であり、一貫して効果を高める取組を進める必要がある。 ・木質バイオマスの出口の需要拡大などは、学校での利用から家庭普及へ拡大し、需要を増やすなどが考えられる。 ・林業の振興のポトムアップとして、生涯学習分野の体験等に組み込むことが大切である。 	R3	10	2	2	2	2	18	
			R3	量S	質C			B		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							
4	地域内経済循環の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・2-4「地域内経済循環の推進」の取り組みは、基本目標②のなかでも重要な取り組みであると考えられます。町内の消費の実態を買い物調査を行ったり、町内企業の調達先を調査するなど「現状把握」を行うことから始めましょう。現状を把握すると改善の指針を見つけることができます。 ・②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）ともにKPIの達成に向けた取り組みに力点がおかれた内部検証となっています。取り組み内容に即して内部検証を行ってください。「おさんぼカード」の利便性向上も必要なことですが、「おさんぼカード」が利用され、町内消費の拡大と地域内経済循環を高めるのが目的は必ずですから、手段と目的を取り違えないようにしてください。 ・KPIのおさんぼカード利用ポイント数が、目標値、R1実績（基準）値の2倍以上になっています。KPIの設定が過小かもしれません。ポイント利用の実態を分析して、町内の消費動向の把握に努めてください。 ・住宅リフォーム等促進事業は、規模は小さいですが、象徴的な意味があるでしょう。この事業を活用することで、まちの「たから」である景観が保全されるように活用される等、事業効果が高くなるような工夫を行ってください。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）は、基本目標、基本的方向を踏まえて内部検証を行ってください。 ・おさんぼカードを知らない若者が多く、使いやすさや町内消費のPRを進めてほしい。 ・おさんぼカードがQRカードに変わり、取り扱う店舗が少なくなった実感がある。設置費用や操作方法、有効期限となったことなど、さまざまな理由が考えられる。 ・おさんぼカードがQRカードになったことで、どこで誰が使ったか把握できる（傾向が見える）のではないかと。需要の把握を行う工夫をしてほしい。 	R3	10	2	2	2	2	18	
			R3	量S	質C			B		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果
					量的検証	質的検証				
(2) 地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	5	創業・コミュニティビジネスへの支援	<ul style="list-style-type: none"> 交流会事業の開催は、2-5「創業・コミュニティビジネスへの支援」の取り組み内容として書いているから行くと単純に考えず、基本目標、基本的方向を踏まえて実現せねばならないことだと広く文脈で捉えてください。町内企業の交流と連携から地域内経済循環を強める方向に町の経済の質的転換を図るように施策の工夫を行ってください。 創業者ニーズの把握を適切に行うこと、地域内経済循環を高める創業者を育成するためのトータルな仕組みを検討してください。 	R3	10	3	3	2	2	20
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
	6	企業誘致の推進と工場用地の確保	<ul style="list-style-type: none"> 2-6「企業誘致の推進と工場用地の確保」の取り組み内容の2つ目の項目はどのように取り組んでいるのか見えませんので、評価を「2」としました。 工業団地の空き用地がほとんど無い状態で、企業誘致をすることは困難かもしれませんが、工場誘致だけではない企業誘致の可能性も探ってください。 2-4「地域内経済循環の推進」の取り組みとも関連して、域内調達状況の調査、町内雇用の実態調査等を行い、経済波及効果を測定してください。 地元産品の利用等をCSRに限定せず、地域内経済循環の活性化の方策として検討して下さい。エネルギーの地産地消など新しい可能性も調査、研究してください。 ⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた今後の取り組み）の「今後の課題」の記述が、意味がよく分かりませんでした。滋賀県は工業が盛んで、2次産業（製造業）の立地も順調に増えていますので、製造業への就労希望者を増やす必要があると解釈しましたが、就労希望の実態把握や求人状況などを調査、分析し、長期的同項も考えながら、企業誘致を進めてください。サービス経済化、知識基盤社会化、アフターコロナの社会変動などを大局から検討して施策を行ってください。 日野高校をはじめ、地元高校生への情報発信に努めてください。 	R3	10	2	2	3	2	19
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
7	新たな産業分野の誘致と創出	<ul style="list-style-type: none"> 2-7「新たな産業分野の誘致と創出」は、大変意欲的な取り組みであり、5年間に1件でもサテライトオフィス等が設置されるとKPIは100%となる設定ですから、5年という計画期間、中長期に成果が出るのを根気強く待つ必要があります。 根気強く成果が出るのを待つ必要があるとはいえ、②、③、④、⑤（内部検証）がKPIに掲げている「サテライトオフィス等の設置」に引きずられた内部検証になっています。新しい分野の企業への優遇制度の拡充による誘致に加え、コロナ禍による社会の変化を見据えた企業や個人事業者等の誘致には、何が必要なのかも検討してください。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）については、基本目標、基本的方向を踏まえての内部検証が必要です。伝統的な住宅、商家等の「地域資源」として生かそうとしている視点は高く評価します。さらに、まちなみの保全につながるような取り組みや地域内経済循環の活性化、町内雇用の拡大などにつながるような施策の工夫を行ってください。 町内高校生の就業希望先としてIT産業などが挙げられるが、日野町ならではの企業や日野町を支えてきた企業を大きくアピールした上で、マッチングを進めてほしい。 小学生の将来の夢はボヤッとしており、具体的な職業が出てこない現状があり、目標が見つけれない状態なのではないか。 働くことと暮らすことは連動しており、コミュニティの維持に向けて、積極的に進めてほしい。 	R3	0	3	3	3	3	12	
			R3	量D	質B			C		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							
8	町内雇用の促進と雇用機会の拡充	<ul style="list-style-type: none"> 日野高校生採用を促進したり、日野高校のキャリア形成教育への補助等を高く評価します。 内部検証から住民の求職と企業の求人の間にギャップが生じていることが伺えます。2-6「企業誘致の推進と工場用地の確保」で製造業の誘致を進めているため、企業側（製造業）の求人が多くなる一方で、住民側の求職希望のギャップ、ミスマッチを解消する施策が必要かもしれません。そうした施策が必要であるかも含めて検討してください。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証に「地域資源」、「住民主体の創業」、「地域内経済循環の活性化」、「町内企業の交流と連携」など基本目標のめざす姿や基本的方向を踏まえた検証を行ってください。 町内企業と行政が連携して実施した新型コロナウイルス感染症ワクチンの職場接種は、町内在住者の5割にのぼった。町内企業だけではできないことは、官民連携でタッグを組んでやっていきたい。 高校生の就業希望について、給料、仕事内容、ネームバリューなど、どう親を巻き込んで働きかけられるかが大切である。 町内産業の雇用を確保するため、日野高校以外に通学する高校へのアプローチは考えられないか。 第2工業団地の人手不足による残業は深刻であり、県の産業プラザと連携して、第2工業団地にスポットライトを当てたフェアができないか。 中学校の職業体験では、仕事内容よりもおまけ要素が勝っており、企業側にも責任を持たせ、仕事はこういうものであると分かるように、日野の企業の良さが分かるように進めてほしい。 働くことと住むことはセットであり、移住支援金などとセットにして、Uターン就業を働きかけてほしい。 	R3	10	3	3	2	2	20	
			R3	量S	質B			A		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果
					量的検証	質的検証				
③ まちの魅力を活かし、 交流を育み新しい人の 流れをつくる	1	商工業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ②（施策の取り組み状況）において、事業継承について言及がありません。R3はコロナ禍で大変な一年で、コロナ対策を実施し、本取り組みを実質的に担ったと伺えますが、あわせて、大型店にはない商店の強みや魅力を磨く施策の工夫を行って下さい。 ③（施策の今後の取り組み）において、「交流人口の創出と賑わいのあるまちづくり」「ふるさと応援寄付制度」と観光との連携について今後の取り組みがみえませんが、 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）においては、基本目標、基本的方向を踏まえて内部検証を行ってください。「交流から移住・定住に結びつく」情報発信は重要なので取り組んで下さい。やっていないので困難さも判らないのだと推察します。「交流から移住・定住に結びつく」のはどのようなパターンがあるのか？具体的なイメージを役所と地域が共通のイメージを持ち、その上で移住者の視点（移住希望者の視点）からの情報発信・支援を検討して下さい。 住宅リフォーム等促進事業、ふるさと応援寄付制度、商品券等の施策が、町内経済にどの程度プラスの効果を生み出すのか評価して下さい。 3-1「商工業の活性化」の取組は、町外に流出している町内需要を町内に向けさせる施策と、交流や寄付等によって、町外購買力を町内に向けさせる施策とに分かれます。その特性に合致した施策を検討して下さい。 ふるさと納税の施策は、積極的になっていることが分かる。これからも町独自のものをドンドン増やしてほしい。 プレミアム付き商品券などは大変人気があった。これによる町内の人による町内消費や波及効果を測定したほうがよい。あわせて、町外の方が町内需要でできる方策も検討してほしい。 住宅リフォーム助成は、他市町と比べると金額規模が小さいため、規模を大きくすることで、さらに町内需要が増えるよう検討してほしい。 住宅リフォーム助成等は、個人財産との兼ね合いもあるが、町民が住み続けられるための施策として、景観保全やコミュニティ維持の観点等、工夫して町民を手厚く、さらに移住者にも波及するような施策を検討してほしい。 	R3	9	2	2	2	3	18
				R3	量S	質B			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
	2	まちぐるみでのおもてなし	<ul style="list-style-type: none"> 町民の自立的なイベント応援は、今後も増える見込みですか？応援対象となる自主的なイベントが増えるでしょうか？増やすことへの支援や基礎となる施策はないか検討して下さい。 3-2「まちぐるみのおもてなし」の取組は、「おもてなしの心で観光受け入れにかかわる人を増やす」ものですが、「増やす取り組み」を具体的に検討して下さい。 観光受け入れ体制は、観光ガイドだけに限定されません。観光受入体制の充実にあたっての現状を②（施策の取り組み内容）に、今後の取組を③（施策の今後の取り組み）に記述して下さい。 ⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえての今後の取り組み）の「今後の課題」でも「まちの魅力に住民が認識されていないこともある」と指摘しているように「住民自身がまちの魅力を確認すること」も重要です。住民自身がまちの魅力を自覚できてこそ、楽しみながらおもてなしの心で観光受入にかかわれます。受入にかかわる人を増やす施策とも大いに関わっていることを認識すると受入体制の充実のための施策も変わると思います。受入にかかわる人の裾野を広げて下さい。 観光アプリ「ぐるりん日野ナビ」は、もっとPRしてほしい。また、商工会などにも協力を呼びかけてほしい。 日野駅観光案内交流施設「なないろ」にて、ホームページの情報やさらなるPR動画の放映などに取り組んでほしい。 	R3	9	3	2	2	3	19
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
3	地域資源を活かした体験型観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が収束していないので、農泊の受入ができず、KPIは達成できませんでしたが、これはいたしかたないことだと考えます。 内部検証は、農泊を中心にすえたKPI、事業構想になっているようにうかがえます。コロナ以前の農泊の成功は特筆すべき実績ですが、今後は、農泊以外の体験型観光の開発に尽力して下さい。現在の日帰りの再開などの経験から新たなコンテンツ開発につなげて下さい。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）は基本目標、基本的方向を踏まえて、3-3「地域資源を活かした体験型観光の推進」の取組を検証して下さい。受入家庭の高齢化等によって受け入れ家庭の確保が困難になっているとのことですが、住民に日野の良さを伝えるなどによって受入家庭を増やす施策を検討し、実施して下さい。 コロナ禍でリアルな受入が困難であるからこそ、交流から移住につながる情報発信を工夫して下さい。移住希望者の視点に立った移住を後押しする情報発信を行ってください。 日野町には農業体験だけでなく、さまざまな歴史があり、特に近江日野商人の教えなど、もっとPRして人を呼び込んでほしい。 近江日野商人館など、町内の人でも知らない人や行ったことがない人もいるため、町内の人にもターゲットにPRしてほしい。 近江日野商人の教えは、企業訪問でも研修に取り入れるようPRしてほしい。 	R3	0	3	3	2	2	10	
			R3	量D	質B			C		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							
4	地域の移動手段の充実	<ul style="list-style-type: none"> 3-4「地域の移動手段の充実」の取組は、全国の自治体共通の悩みの一つです。実態調査（潜在需要の調査）に基づいて、交通インフラの整備をすすめてください。 3-4「地域の移動手段の充実」の取組が、最も必要としている対象グループを特定するなど、必要度の高さによるグループ分け、その需要への最も適切な対応手段を対応させるなど、工夫して下さい。 日野町では、「おたすけカゴヤ」など住民主体の先駆的取組も広がっていることを高く評価します。このような住民主体の取組は、住民の公共交通を守ろうとする意識の高揚にもつながると思われます。3-4「地域の移動手段の充実」の取組内容が、住民ニーズに行政が対応する姿勢で「構築します」と書いていますが、住民と協力しながらといった形で、住民を公共交通の受け身の利用者としてのみ扱わず、費用負担も含めた共助の中で問題解決に取り組むことも留意して下さい。 利用を通じた助け合いになる面も考えましょう。通学、通勤、生活、観光利用と性格の違う公共交通需要をどのように掘り起こし利用を結集するのか工夫が必要です。 交流から移住につながることを考え、交流を促すうえで公共交通の果たせる役割を検討して下さい。 移住の観点のみならず、職場での採用募集時、まず公共交通のことを聞かれるため、充実を図ってほしい。 「わたむき自動車プロジェクト」の取組の見える化を図ってほしい。 子どもの車送迎があたり前になっている一方、負担も大きい。子育て世帯が公共交通をうまく活用できると、子どもが社会のマナーを知る機会にもつながり、良いことだと思う。 公共交通の活性化により、働き方や生活がどう変わるのか、波及効果が見えるとよい。 	R3	8	3	3	3	2	19	
			R3	量A	質B			A		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数	
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果	
					量的検証	質的検証					
(3) まちの魅力を活かし、 交流を育み新しい人の流れをつくる	5	UIJターン受入の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・定住相談件数、移住定住者数ともに順調に増加していることを高く評価します。 ・3-5「UIJターン受入の充実」の取組の1つ目は、日野町内向けの取組のことであり、日常的に行われていることから、特段記述がないのかもしれませんが、特徴的な事例を挙げて内部検証を行って下さい。 ・3-5「UIJターン受入の充実」の取組は、町内向けの取組と町外向け（移住希望者向け）取組に分けられると考えられますが、内部検証では町外向けの取組について行われています。基本的方向の2つ目の事項は町内向け、3-5「UIJターン受入の充実」の取組内容の一つ目が町内向けの取組です。町内向け取組についても内部検証を行って下さい。 ・全般的には、UIJターン受け入れに必要な取組がなされていると評価します。移住定住者を受け入れる地域の側への取組もなされているかと思えますので、内部検証でも位置づけを行って下さい。 ・町内の数多くの企業が、外国人やアウトソーシングに頼っているなか、事業を続けるためにも、地元企業にスポットを当て、手を取り合っ（労働者）人口を増やしてほしい。 ・日野町への移住者のなかでも、特徴的な事例を紹介できるよう工夫してほしい。 	R3	10	3	2	2	2	19	
					量S	質B				A	
				R4							
				R5							
				R6							
				R7							
	6	地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信	<ul style="list-style-type: none"> ・3-6「地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信」の取組は、役場としては仕組みづくりであり、情報の収集・発信を住民が行うことによって、地域の活力につなげようとする取組だと思います。現在は、仕組みづくりに力点があるのだと推察しますが、町民自らが良さを知り発信するためのもう工夫が必要だと考えます。 ・発信するグループを、毎年講習会を開いて組織化するなど検討して下さい。公民館の学習教室をつくるのも一つの方策です。 ・③（施策の今後の取り組み）、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた今後の取り組み）で言及しているデジタル地域コミュニティ通貨の取組は、3-1「商工業の活性化」とも連携させることも可能です。 ・町ホームページは、コロナ禍において、企業でもよく見るようになり、ワクチンメーターなど見やすくなっているが、古いままのところもあり、さらに見やすくなるよう充実してほしい。 ・スマホで何もかもする時代であり、タイムリーな発信ができるよう進めてほしい。 ・デジタル地域コミュニティ通貨「ピワコ」は、事業所内でも話題になっており、PRを図ってほしい。 	R3	10	3	3	2	2	20	
					量S	質B				A	
				R4							
				R5							
				R6							
				R7							

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証			検証結果	
(4)くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	1	次代を担う人材の発掘	<ul style="list-style-type: none"> 「ひの若者会議」の開催をするなど、次代を担う人材の発掘が取り組まれていることを高く評価します。 まちづくり計画の策定を支援するとともに、そのフォローアップを行ったり、「まちづくり計画」策定自治会の交流の場をつくり、相互に課題の共有やグッドプラクティスの共有を行うことで、自治会の力量が高まると思います。その交流会に、計画策定を考えている自治会にも参加してもらおうとまちづくり計画が加速するのではないのでしょうか。 内部検証がKPIの指標に引きずられているように見受けられます。具体的取組内容はもっと多岐にわたるのではないかと推察します。 行政懇談会等の聞き方を工夫して下さい。住民アンケート等をとるときでも一世帯1枚ではなく、世帯人数分を回答してもらおうと、男女を問わず意思表示できる場、話し合う場を地域につくることが必要です。 住民アンケートを世帯全員に回答してもらおうと、これまで世帯主が出していた意見等ではなく、これまで出てこなかった内容の意見等が出てくるため、行政懇談会等での意見聴取も工夫してほしい。 若者会議では、20歳代～40歳代と年齢幅があり、また、人それぞれのスピードがあるため、発言しにくい部分があり、現実離れた話しをしていると感じている人もいます。若者会議での横のつながりも大切であるが、一方、若者会議のような機会がなかった人などの参画を考えるとがすそ野を広げることにつながる。 子ども食堂に興味がある日野高生が寺子屋食堂の事業に参加してくれているが、町内の子どもではなく、町内の子どもにも興味を持って活動していけるような取組が必要であり、その先に若者会議のような取組への参加にもつながるのではないかと。 ファミサポで関わる若い世代の母親も意見を持っている人は多いが、それを出し合う場に一歩踏み込んで参加する人は少なく、そのような人が行きやすい場づくりが大切であると感ずる。 	R3	8	3	3	3	3	20
				R3	量A	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R3	10	3	2	2	2	19
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
R3	8	2	2	3	2	17				
R3	量A	質B			B					
R4										
R5										
R6										
R7										
R3	8	3	3	3	2	19				
R3	量A	質B			A					
R4										
R5										
R6										
R7										

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果
					量的検証		質的検証			
4くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	5	支え合いの仕組みづくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> 「支え合いの仕組みづくり」として、東桜谷、西大路地区の先駆的取組を町内に広められるように努めて下さい。他の地区の福祉関係者、地域のリーダーの方々との情報共有がなされているようですが、広がりにくい要因を分析し、対策を考えて下さい。既に一定活発に行われている自治活動を基盤にしながらも、現在直面している地域課題に対応できる、地域自治活動への更なる進化、発展が必要です。地域自治活動の質的転換につながる仕組みづくりが必要です。 KPIに設定されている指標の達成は、個別的課題としては重要ですが、4-5「支え合いの仕組みづくりの促進」の対象は、高齢者、子育て世代への支援など幅広い課題です。「個別的な支援対象」ととらえるのではなく、「住民が暮らし続けると起きる人生の様々なこと」を支え合うと総合的にとらえ直して、施策の工夫を行って下さい。 内部検証からは、個別の政策課題への取組がなされていることが分かり、活発な活動がなされていることは評価します。一方で、「支え合い」の対象の広さや担当する課も多すぎて役場と地域のパイプも多い。パイプは多いが横の連携も難しくなったりするのではないのでしょうか。「重層的支援」を作ることは容易なことではありませんが、構築に向けて課題を整理し、一つひとつ解決をはかって下さい。そのためには、役場内の横連携を深めて、効果を促進する取組に加えて、地域内の連携を深めることも必要です。 	R3	6	3	3	3	3	18
				R3	量B	質B			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
				R7						
	6	食育・地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> わたむきの里のお米作りの取組、今後の作業所と農家が共同して農地を守ることから、食育、地産地消の推進を明確に検証しましょう。農福連携で農地を守り、日野の子どもたちの食育、健康につながる象徴的な取組として磨いて下さい。 学校給食を食育の起点として様々な取組がなされている点を評価します。児童、生徒の農体験、食育が「まちへの愛着や誇り」につながり、次代を担う人材となってもらえるように工夫して下さい。生徒、児童を受け身の体験に終わらせず、リーダーに育てる工夫をして下さい。 直売所への地場農産物の供給による農業振興支援についても内部検証を行って下さい。 住民が消費者として、地産地消を積極的に行うように啓発を行って下さい。単なる啓発ではなく、効果が見えるように工夫して下さい。買い物調査や地域内経済循環の効果を調査することで、行動の変化が地域にどのような効果をもたらすのかを知ってもらい、自発的な消費行動を増やせます。2-4「地域内経済循環の推進」とも連携しながら施策をすすめてください。 政策効果の測定は、KPIだけでなく、成果を総合的に測定するなど工夫して下さい。住民（大人）、児童、生徒の意識や行動の変化を的確にとらえる調査などで政策効果を測定することもできます。 世代間で、食の違いや生活リズムの違いがあり、外食やスーパーの惣菜でご飯を済ます人もいます。スーパーの惣菜コーナーにも地産地消を売り込むなど取組をすすめてはどうか。 2-4「地域内経済循環の推進」に掲げられる商工会等の町内の消費拡大と同様、地産地消による地域内経済循環の分析について、なかなか進まない実情があると思うが、推進してほしい。 	R3	10	3	3	3	3	22
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
				R7						
	7	心身の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 内部検証において、健診の実施、健康推進員の養成、活動支援がなされていることを確認しました。取組を評価します。 体の健康づくりだけでなく、4-7「心身の健康づくり」は、心の健康への取組もありますが、内部検証では確認できません。心の健康部分が書いているので、②、③、④、⑤（内部検証）の全ての評価を2点としました。 健康推進員の養成と活動は、住民の健康への関心、意識を高め、行動を変えて、健康づくりに欠かせないものとなるでしょう。健康推進員の養成が、R3は12名ということですが、この数をもっと増やすことを検討して下さい。 特定健診の受診率をアップさせるために、未受診の要因を調査分析し、受診率向上の効果的施策を工夫して下さい。基本目標④の基本目標、基本的方向を踏まえると、受診率が現状程度であることを地域課題ととらえて、健康についても住民主体の学び、ひろげる取組が後押しするように、健康推進員と協力しながら取り組んで下さい。 地域の取組が、健康状態、体力の向上につながっていることを可視化する工夫を行って下さい。 以前に健診を受けて、特に問題がなかったことから、継続して健診を受けない人も多いのではないかと。アンケート調査等を実施し、実態把握をしてはどうか。 健診を受診することと平均寿命との関わりを見える化し、受診勧奨につなげられるよう、国保連合会等に働きかけてほしい。 	R3	8	2	2	2	2	16
				R3	量A	質C			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
				R7						
8	高齢者のいきがいづくり	<ul style="list-style-type: none"> 4-5「支え合いの仕組みづくりの促進」とも関係する取組です。4-8「高齢者のいきがいづくり」の取組から「重層的支援」につながるように施策の工夫を行って下さい。④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証を行うにあたって、基本目標、基本的方向を踏まえると地域における福祉系のパイプ、ネットワークだけでなく、地域社会の暮らしのネットワークそのものとも連携につなげていく必要があります。住民の自治活動の質的転換をはかる必要があります。 東桜谷、西大路地区の先駆的取組から学んだことを他の地区でも実現できるように取り組んで下さい。 コロナ禍のもとで、「高齢者のいきがいづくり」の取組は、感染対策にも気をつかい、大変であったと推察します。高齢者の社会参加の具体的なイメージが、「交流サロン」等の交流会に偏りがあるように見受けられます。基本的方向を踏まえると、高齢者の豊かな経験と知識を活かし、次代を担う人材づくりにつなげることも構想して下さい。 生活支援コーディネーターの果たす役割が大きいように見受けられる内部検証となっています。生活支援コーディネーターの資質の向上など量と質の両面の強化策を検討し、実行して下さい。また、健康推進員など地域の担い手との情報交換や連携が進むように支援して下さい。 	R3	5	3	3	2	2	15	
			R3	量B	質B			B		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							
			R7							
			R7							

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	
					量的検証	質的検証			検証結果	
4 くらしやすい地域を育み、 安心して住み続けられるまちをつくる	9	健康づくりと介護予防の一体化	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のもとで介護予防ボランティア養成ができなかったのはいたしかたないことだと考えます。そうしたなかでも専門職による健康指導を行ったことを評価します。 ・内部検証がKPIとなっている介護予防ボランティアに引けずられた検証になっているようにみえます。専門職と住民リーダーとの連携を具体的にどう深めながら介護予防等への取組につなげるのかなど検討して下さい。③（施策の今後の取り組み）では、ボランティアに専門職が研修等を通じて知識を授けるようにみえます。 ・おたっしゅサポーターの高齢化を困難なこととして挙げていますが、サポーターを増やす取組こそが、基本目標、基本的方向を踏まえた取り組みべきことではないでしょうか。保健と介護予防の一体的な取組として、高齢者の経験や知識を活かして、地域の食文化や伝統を学ぶ機会をつくり、4-8「高齢者のいきがいくづくり」、4-6「食育・地産地消の推進」に結びつけるなど施策の連携と効果を高める工夫をしてください。 ・介護予防ボランティア、生活支援コーディネーター、健康推進員など住民の担い手の活躍に依存する施策が相互に連携をはかり、各役割の担い手間の交流と担い手のすそ野を広げる取組を工夫してください。 ・高齢者のボランティア精神を継承できる方法を検討してほしい。 ・かつては定年が60歳、その後、地域で役員などに従事し、70歳を過ぎて余生を楽しむような人生設計であったが、定年が70歳になるような時代に、その後、地域の役員など到底難しいため、いままでどおりの依頼方法では難しいのではないかと。 ・住民の長い人生をみだなかで、子育ての段階からサービスに依存するのではなく、地域に参画するくせづけやボランティア精神を高めることが、高齢になっても地域の人材として活躍できる人を育てることにつながるため、子ども支援課など厚生部門の横連携が大切である。 ・ファミサポでは、依頼登録会員が、依頼する時期を過ぎ、提供登録会員として登録いただく人が増えてきている。依頼登録会員により近い地域の提供登録会員とつなぐことで、ファミサポを通さずとも支援できる体制ができ、核家族化によりできなくなっていた家族や地域での助け合いができてきているように感じる。 	R3	10	3	2	2	2	19
				R3	量S	質B			A	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
	10	障がい者の支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームの整備が進み、地域で生活できる環境が整ったことは高く評価します。 ・②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）において、東近江圏域障がい児（者）サービス調整会議による総合的な調整、障がいのある人の地域生活を支える仕組みを備えた拠点整備の現状と展望について内部検証を行って下さい。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証では基本目標、基本的方向を踏まえての内部検証を行います。実施が困難なこととして挙げられている「施設入所者の地域移行」について障がいのある人が地域で安心して暮らせるまちになるように、現状を地域課題としてとらえて住民自ら学び、課題解決に取り組めるように施策の工夫や支援を行って下さい。 ・障がいの有無にかかわらず、本人の自立に対して保護者の不安や心配が自立の妨げになっていることが多くなっているのではないかと。その保護者に対するフォローや支援が必要であると感じる。 	R3	10	2	2	2	2	18
				R3	量S	質C			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
11	住民のくらしを支える知識・情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人が必要とする言語による資料の充実をめぐるなど、住民の知る権利、学ぶ権利を保障するために資料収集・提供していることを評価します。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）では、基本目標、基本的方向を踏まえて内部検証をするのですが、図書館サービスの特性上、基本的方向にあるような「攻め」の支援等の施策は難しい面があることは理解します。その上で、他の部署の取組に図書サービスが協力していくなど新しい方向性を模索して下さい。 ・ウィキペディアタウンなどの事業を、町のさまざまな部署と連携するとともに、人材育成につなげてほしい。 	R3	8	3	3	3	3	20	
			R3	量A	質B			A		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							
12	ごみの減量化の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化の取組が進んでいることを評価します。 ・ごみ減量化と廃食油回収が、どのような環境負荷低減効果があるのか住民が容易に理解できるように啓発、可視化を行って下さい。 ・資源ごみの量の減量がKPIになっていますが、リデュースとリユース（発生抑制と再利用）の結果として減量することは良いと考えられる反面、古紙、スチール缶、アルミ缶、小型家電等が適正に資源化されるように住民が行動した結果、発生量が増大することも考えられるので、その内容を十分に検討する必要があります。つまり、住民の良い行動は増加要因と減少要因の両方あることに留意する必要があります。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証は、基本目標、基本的方向を踏まえて評価するのが難しく、苦勞したと推察します。ごみに関わる環境問題を地域課題として、住民の自治活動の中に位置づけ、住民自ら発見し、学び、取り組む方向に地域と連携することが、内部検証として行われるのが良いでしょう。ごみ問題は、行政と住民の協力、自治活動との連携なくして解決しない課題であり、現在も、住民との連携を行っているかと推察します。現状を適切に評価して下さい。 	R3	9	3	2	2	2	18	
			R3	量S	質B			B		
			R4							
			R5							
			R6							
			R7							

基本目標	施策No.	施策	検証委員からのコメント	年度	検証項目					合計 検証点数
					①KPI	②施策 取り組み状況	③施策 今後の取り組み	④基本目標等 取り組み状況	⑤基本目標等 今後の取り組み	検証結果
					量的検証		質的検証			
(4)くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる	13	環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> 4-13「環境保全の推進」の取組内容は、2項目ですが、その対象としている領域は幅広く豊かな内容を持っています。内部検証からは、KPIとの関連性の高い環境整備作業と環境保全の啓発などにつながる環境学習に特化しているように伺えます。②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）では、環境保全に関する豊かな取組が分かるような内部検証をすすめて下さい。 環境学習会が年3回開催されたとのことですが、それが、学校、地域、団体との連携がどのようになされ、幅広い世代の学びになったのかなど検証し、今後の取組に反映して下さい。作業参加者の高齢化も課題のようですが、その課題解決のために、環境学習会等は役立つでしょうか？ ④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証は基本目標、基本的方向を踏まえて行うのですが、検証に困ったかもしれません。基本目標、基本的方向を踏まえると、②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）と検証のスタンスが変わります。②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）では清掃活動等への参加の呼びかけを行い参加してもらおう、または、依頼して地域で動いてもらう形になると思いますが、④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）では、地域の側が、環境保全を自分たちの地域課題として認識して行動していく動きになります。その理想形との対比で、取組状況と今後の取組の内部検証を行って下さい。あわせて次代を担う人材づくりを進める工夫を行って下さい。 特定外来種の学習会、駆除活動など環境保全の高度化も行って下さい。 連合青年会も清掃活動に参加しているが、まちなかは近隣住民の自主的活動によりごみは少ないが、国道は車からポイ捨てされているのか、ごみが多く、地域住民だけが頑張っても限界がある。 親子で参加できるようなイベント的な清掃活動を通じて、子どもときから清掃活動を通じて学び、次世代の人材育成につなげてほしい。 インセンティブの検討だけでなく、良き市民を育てるために、住民の精神や文化、気風を高めるためにどのようなことができるのか検討してほしい。 	R3	9	2	3	2	2	18
				R3	量S	質B			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	14	交通安全対策と防犯体制の推進	<ul style="list-style-type: none"> シルバーキャラバン隊の参加が困難に直面しているようですが、啓発手法の適切さを検証したり、他の方法でシルバー無事故を実現できないか検討して下さい。 様々な団体と役割と連携して多彩な取組を行っています、その効果を検証したり、これらの取組から、基本目標、基本的方向にある、次代を担う人材づくりにつなげたり、自治活動を基盤にした防犯、防災活動による安心、安全なまちづくりにつなげられるように工夫して下さい。 各種のキャンペーンを官主導で行っているようにみえますので、住民の活発な自治活動を持続発展させていくことから、住民主体の取組、自主的な取組となるように企画、立案から事業実施までそのあり方を見直して下さい。 より若い世代が参加する（参加できる）取組とはどのようなものかを考えると、今までにない発想で効果的な取組をみつけられるかもしれません。 「数多くある要望箇所」について、対策がみつけないようですが、緊急性のランク分けを行うなどして、緊急性の高い箇所が長期間放置されないようにして下さい。 現在、「鎌掛」、「南比都佐」、「必佐」地区老人クラブは、シルバーキャラバン隊に参加しているが、ほかの地区では、単体老人クラブに呼びかけなどすることはできないか。 70歳以上が対象となった老人クラブの組織に頼りすぎているのではないか。老人クラブも役員等の行政的な負担が大きいことが、脱退の原因のひとつとなっているため、これまでのやり方を見直し、個々で手伝ってくれる人を地道に増やしていく必要があるのではないか。 共働きの保護者も多く、保護者の朝夕の見守りが難しくなっているなか、地域の方々どう見守っていくか考えると、自分たちで足りないところを助けてもらう、自助と共助の考え方が大切である。 	R3	8	3	3	2	2	18
				R3	量A	質B			B	
				R4						
				R5						
				R6						
				R7						
				R7						
	15	地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 4-15「地域防災力の向上」の取組内容の2つ目は、「（住民の）主体的な活動を通じて防災意識の高揚を図る」となっていますが、②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）では情報提供による啓発しかみえてきません。主体的な活動は、それ自体に主体性を育むところがあります。主体的な活動があれば積極的に内部検証でも挙げて下さい。 引き続き自主防災組織の設立に向けた取組を行って下さい。組織化の困難な要因を分析し、対処法を工夫して下さい。 自主防災組織の設立にかかわる地域での取組から「地域課題を住民自らが発見し、学び、取り組むまち」につなげて下さい。 基本目標、基本的方向で示されている「役場のすべきこと」と「その結果、成果として地域に起きること」を具体的にイメージできるように、役場の関連する部署間でブレインストーミングすることも必要です。そのイメージの上で4-15「地域防災力の向上」という施策の内部検証を加えると、地域課題への自治活動の向かい方が変わるのではないのでしょうか。検証プロセスを変えるとともに、地域への関わり方も変えられるのか検討して下さい。 自主的避難がうたわれるなか、高齢化が進むにつれて、自力で動けない人も増えてきており、地域で支える人材を育成する取組は重要である。 住民の活発な自治活動を支えてきた地縁による団体から、志のある人材を育て、地域活動を促す転換期に入っているのではないか。そのなかで、これまでの住民の精神や文化、気風を継承できる「日野モデル」を構築してほしい。 	R3	9	3	3	2	2	19
R3				量S	質B			A		
R4										
R5										
R6										
R7										
R7										

5. 施策別検証内容（施策検証シート）

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	安心して妊娠・出産・子育てができるための支援	担当部署	福祉保健課				
内容	・地域や関係機関との連携により、妊娠・出産・子育て期を通じた切れ目のない支援体制を構築し、母子健康手帳の交付を初めの機会として、健診等の様々な機会を通して個々の親子の状況に応じたきめ細やかな支援に取り組みます。								

30

数量的検証										質的検証			
①KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	母子手帳交付時の面談実施率									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	100 %												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	100 %	100 %	100.0%							② <ul style="list-style-type: none"> 全妊婦に妊婦健診（新生児聴覚検査含む）の助成を行いました。 不妊治療における治療費の一部を助成しました。 妊娠中や出産後の困りごとについて、個別に助産師が相談に応じる妊産婦相談を実施しました。妊産婦相談では、コロナ禍での対応としてオンラインによる相談も実施しました。 「パパママサロン」を実施し、妊婦同士またはその家族も含めた交流の場を設けました。 母子健康手帳交付にあたり、保健師1名は必ず事務室にいるよう調整し、面談においては、産後のサポート状況の確認や不安・困りごと等を伺うとともに、アンケートを実施しました。 離乳食について、必要な時に見て作れるようYouTubeに動画を掲載しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> 引き続き妊婦健診の費用助成を行うとともに、保険適用となった不妊治療においても、保険適用外分について助成を行います。また、多胎妊婦健診にかかる費用助成の回数増を行うとともに、多胎産婦については、サポーターを派遣し外出時の補助や日常の育児介助を行います。 妊産婦相談については、訪問およびオンラインによる相談を実施します。 妊婦同士またその家族も含めた交流の場を設けます。 母子健康手帳交付にあたり保健師1名が在室するよう調整し、アンケート内容や面談保健師の気になる事柄について保健師間で振り返りを行い、今後の支援方法について検討するとともに、必要な場合は訪問や電話等を行います。 出産後の心身のケアや育児サポートとして、ショートステイやティサービス等を実施し、きめ細やかな支援を行います。 	B	<ul style="list-style-type: none"> KPIの設定が「母子手帳交付時の面談実施率」となっていますが、面談実施100%となり、あたりまえのことがきちんとできており良いと評価します。一方で、過去の面談実施率は低かったでしょうか。実態を踏まえて、KPIを設定できていたでしょうか。 地域や関係機関との連携の取組、今後が見えにくいです。相談に対応し、交流の場づくりをしているところは分かりますが、地域との連携、各関係機関との連携が不要なのか、できていないのかも分からない内部検証となっています。KPIに掲げた母子手帳交付時の面談実施率に引きずられた内部検証となっています。 連携による切れ目のない支援の構築はどのようなことができており、何ができていないのか検証して下さい。 マタニティ・キーホルダーを渡していますが、地域への啓発を行い、「取り組みの方向」にある「風土づくり」、また、地域社会全体で子どもを育てる取組を進めてください。 「めざす姿」を考えると「地域とのつながりを深める」ことが重要になります。④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、地域との多様なつながりが、「子育てに希望をもてるまちづくり」につながるのか、主管課、連携する関係機関のなかでのビジョンの共有が必要です。 地域とのつながりには、民生委員などつながる段階から地域社会全体と子育て世代がつながる段階まで、いくつかの段階があると思われます。「子育てにやさしい風土づくり」に向けて取組をお願いします。 家庭訪問に入ったときに、家庭の状況が見える。これは保健師にしかできないことであり、重要なことである。 生まれる前から準備ができること＝「安心」につながるため、支援の準備ができていることを伝える必要がある。 育児休暇は女性だけでなく男性も取得できるよう普及を進める必要がある。さらに、面談は母だけでなく父も含め夫婦への面談とすることで、夫婦の関係性や虐待の有無について様子を見ることが出来る。
目標値【R4】	100 %												
目標値【R5】	100 %												
目標値【R6】	100 %												
目標値【R7】	100 %												

④
基本目標・基本的方向等を踏まえての状況

⑤

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	様々な保育ニーズへの対応	担当部署	子ども支援課				
内容	・保育が必要なすべての子どもに対し、保育サービスが提供できるように取り組みます。								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	孤立しない子育てサポートの充実 （保育園、幼稚園、認定子ども園、 子育て支援施設等利用率）			保育所待機児童数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	82 %			1 件									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	82 %	76 %	92.7%	5 件	3 件	100.0%				② 施策 ・安定的な保育の提供を行えるよう、令和3年度は他の自治体より早くに正規保育士等の採用試験を行い保育者の確保に努めました。 ・既存施設の見直しを行い、個別施設計画の策定を行いました。 ・幼児教育・保育のあり方について協議を進めるため、担当課や関連する他課、各施設長と検討準備会を立ち上げ、日野町の幼児教育・保育の研究を行うとともに、近隣自治体の施設見学を行いました。	③ ・安定的な保育の提供を行えるよう、今後も正規保育者の確保と併せて、会計年度任用職員（フルタイム）の確保に努めます。 ・個別施設計画に基づき、施設の改修、修繕等を行う必要がありますが、大規模な整備、改修は幼児教育・保育のあり方検討と併せて実施します。 ・幼児教育・保育のあり方について外部等の有識者を招き検討会を設置します。併せて、子育て世帯やこれから子育てをされる世代が日野町の将来の子育て環境を検討しあえる場の整備を行います。	A	・保育者の確保が課題であることは認識していませんが、保育者を確保した上で、多様な保育ニーズへの対応を具体的にしているのか分かりません。 ・保育のあり方の検討がなされて、多様なニーズへ対応する体制づくりの検討がなされていると推察しますが、多様な保育ニーズの適切な把握がなされた上で、保育体制の充実を図って下さい。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）について、基本目標、基本的方向等を踏まえて、内容を検討して下さい。他の自治体の施設見学等から、「子育てにやさしい風土づくり」につなげる、基本的方向等を視野に入れた施策の課題の発見から取り組んで下さい。 ・保育ニーズの的確な把握の上で、切れ目ない支援を構築すること、まち全体で希望を支えてかなえることを構想して下さい。 ・保育園・幼稚園・認定子ども園・子育て支援施設等を利用していない24%は、孤立していると判断するのか。利用のない家庭の実情を把握する必要があります。
目標値【R4】	82 %			5 件									
目標値【R5】	83 %			3 件									
目標値【R6】	84 %			1 件									
目標値【R7】	85 %			0 件									

KPI:
 (分子) 保育園、幼稚園、認定子ども園、子育て支援施設等を利用する子ども / (分母) 就学前の子ども

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	コミュニティ・スクールの導入	担当部署	生涯学習課	学校教育課		
内容	・地域と学校が共有したビジョンのもとで、地域づくり・教育活動を実践していくため、コミュニティ・スクールの導入を推進します。							

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	地域学校協働活動ボランティア登録数			コミュニティ・スクールの実施校数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
	基準値【R1・2】	R1	R2	R1	R2	R3	目標	実績	達成率				
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	297人	288人	97.0%	2校	0校	0.0%				② 当町には5小学校、1中学校があります。令和4年度は小規模校の西大路、南比都佐、桜谷の3小学校へ、令和5年度は日野、必佐の2小学校、日野中学校へのCSを導入するため、校園長会でCSの勉強会を開催しました。教員に対する勉強会を8月に開催予定でしたが、コロナ感染拡大防止に伴う蔓延が発令され、中止となりました。	③ 令和4年度に3小学校でのCS導入に向け、令和4年8月に町内小中学校全教職員、関係者向けの勉強会を実施します。	C	・コミュニティ・スクールの実施がまだのため、KPIの達成度が48.5%と低くなっています。 ・教員の勉強会が「まん防」で中止になったとのことですが、GIGAスクール化が進んでいるので、オンライン開催、オンデマンド動画による学習資料の提供など工夫を行って下さい。組織運営上の弱点であると思われる。 ・コミュニティ・スクールの導入をすることの意義が理解できていないのではないのでしょうか。内部検証からは、手段であるコミュニティ・スクールが目的化しているように見受けられます。 ・KPIでボランティアの登録があがっていますが、②、③、④、⑤（内部検証）のどこにもボランティアへの言及がありません。 ・コミュニティ・スクールの導入によって、地域づくりと教育活動の連携を図り、地域のニーズに合った学校づくりが期待されるとともに、地域づくりの質的な向上、転換も期待できるのではないのでしょうか。地域学校協働活動を活性化させ、質的向上を図る方策を検討して下さい。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、基本目標、基本的方向等を踏まえ、「まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくり」に地域社会全体で取り組めるように、住民とともに協働を進めて下さい。 ・コミュニティ・スクールは、地域づくりの活性化が目的であり、日常の声（日野町独自のこと）を教育、ひいては学校づくりに活かすことが使命であることを認識する必要があります。
										④ 基本目標・基本的方向等を踏まえての状況 ・実施していること ・校園長会でCSの勉強会を実施しています。 ・実施できていないこと ・全教職員への勉強会が出来ていません。 ・実施が困難なこと ・特にありません。	⑤ 基本目標、基本的方向を踏まえて ・子どもの教育を町民が一人ひとりが出来ることで携われるCS導入に向けて、町民や教職員への意識醸成を行います。 ・今後の課題 ・これまで各学校では評議員会が設置され、学校運営について協議されてきましたが、CSは評議員会とは目的が違うことを理解してもらうことが必要です。		
目標値【R4】	310人			3校									
目標値【R5】	323人			校									
目標値【R6】	336人			校									
目標値【R7】	350人			6校									

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	子育て支援のネットワークづくり	担当部署	子ども支援課				
内容	・住民、関係団体等の相互の連携による地域の子育て支援のネットワークを構築し、地域における子育て支援機能の向上に取り組みます。								

33

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	ファミリーサポートセンター会員数			子育てボランティア登録者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	272 人			24 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	270 人	251 人	93.0%	24 人	24 人	100.0%				② ・ファミリーサポートセンター事業を委託する一般社団法人より、広報誌やSNSによる会員への呼びかけ、タウンメールにて利用拡大と事業周知のための広報活動を行っていただいた。 ・子育て支援施設でのつどいのひろば「ほけっ」と事業や各公民館で実施される子育てサロンでお手伝いいただく子育てボランティア登録者の増員を行うため、組回覧や広報、HP、チラシ等の配布により周知を行いました。 ・子育てボランティアの講座を行い、新規ボランティアの確保に努めました。	③ ・ファミリーサポートセンターの会員は子育て世帯が多いことから、引き続きSNS等を用いて登録者数の増加につながるよう周知を行います。 ・過去からの取り組みにより、子育てボランティアの登録者数が増えてきましたが、引き続き町の子育て支援、登録者の高齢化などのため、新たな登録者確保のため、組回覧、広報、健康推進委員等へのチラシの配布により周知を行います。	B	・KPIの達成度は高いが、子育てボランティア登録者数のR7の目標値が低く思われます。その上、②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証においてもボランティアの掘り起こしの取組が弱いように思われます。ボランティアを掘り起こす強力な取組を進めて下さい。 ・②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）の評価を「2」とします。理由は、KPIに引きずられ、ファミリーサポートセンターとボランティアのことは言及せず、「子育て支援機能」の部分しか検証されていないからです。施策は、「相互の連携による地域の子育てネットワークを構築し」となっています。この部分が弱いと思います。 ・広報誌等多様な手段を使い周知を図っている点は評価しますが、周知によって自然にボランティアは増えないでしょう。以前の総合戦略では、提供登録と依頼登録会員に分けてKPI設定されました。依頼会員から登録会員になってもらうなど「みんなで支えてかなえる」「子育てにやさしい風土づくり」を進めて下さい。 ・ボランティアを地域社会の中で育み、発掘し、育て、すそ野を広げるための工夫をして下さい。 ・施策の関心が「支援機能の向上」に集中してしまい、地域のつながりのなかで支援機能を構築していく視点が弱いように思われます。 ・ファミリーサポートセンターの会員のうち、約8割が依頼会員、約2割が提供登録会員で、子育てボランティアともつながっている。現在の依頼会員が仲間を増やすためのサポートを行うことで、相互のネットワークの構築が図れる工夫が必要である。 ・子育てボランティアの活躍する場が少なく、やりがいが得られない状況である。
目標値【R4】	270 人			24 人						④ ●実施していること ・妊娠から子育てまで切れ目のない支援を行うため、子育てを協力いただける方の増員を行うことができました。 ・子育てボランティア講座を行い、地域で子育てを行うことの必要性、子どもとの関わりの習得など行うことができました。 ・様々な媒体で協力いただける方の呼びかけを行いました。 ●実施できていないこと・実施が困難なこと ・様々な媒体で協力いただける方を呼び掛けているが、会員登録に至らないことが多い。社会全体で地域への関わりが希薄になっていると感じる。	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・子育ての希望をみんなで支えてかなえるため、協力いただけるファミリーサポートセンターの会員や子育てボランティアの登録者数を増やすため、広報誌を中心に世代に応じた周知方法（SNS、DM、組回覧、健康推進委員を通じたチラシ配布）に取り組みます。 ●今後の課題 ・子育てボランティアの高齢化や、登録いただいているが家庭事情等により事業に参加されていない方がいる。子育てボランティアの若返りと事業参加の呼びかけを行う必要がある。		
目標値【R5】	270 人			24 人									
目標値【R6】	280 人			25 人									
目標値【R7】	290 人			25 人									

日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	地域ぐるみでの子どもの居場所づくり	担当部署	子ども支援課	生涯学習課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動が行えるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を計画的に実施し、児童健全育成事業に取り組みます。 ・地域全体で子どもの成長を支えるため、地域人材の繋がりを促進し地域の教育力の向上を図ります。 ・公民館行事等での多世代交流の推進に取り組みます。 ・第2期日野町子ども・子育て支援事業計画に基づき、今後も需要が見込まれる各種子ども・子育て支援事業について、更なる事業拡充に取り組みます。 								

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名	放課後児童クラブ入所人数			子育てサポーター数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R1】	369 人			9 人										
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和3年度	400 人	406 人	100.0%	10 人	10 人	100.0%				<p>施策 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、感染対策を行った上で放課後児童クラブ事業を実施しましたが、クラスター等大きな混乱なく対応することができました。 ・放課後児童クラブの利用者が増加していることから、国・県の補助金を活用して施設の増設を行えるよう、県に対して協議を行いました。 ・安定的に放課後児童クラブを運営するため支援員の短期雇用を実施しました。 ・地域の拠点である公民館を中心として、地域団体やサークル、ボランティア等が連携し、子育て支援の場を提供しています。 ・地域における子どもの活動の場として、小中学校の体育館等を開放しています。 ・スポーツや文化を通じて子ども同士の交流を深めるため、地域の各種団体によるスポーツ活動、文化活動への支援や指導者の育成・確保に努めています。 ・子ども自主性と主体性を尊重した活動を推進するため、子ども会活動を中心として各地域における活動の活性化に努めています。 ・青少年の健全な育成を目的として、学校、地域、PTA、関係機関、各種団体が連携を図っています。 <p>基本目標・基本的方向等を踏まえての状況 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実施していること ・コロナ禍において施設を運営するため、感染症対策の徹底や施設利用の自粛を求めました。なお、自粛の際は保育料の返金を行いました。 ・児童の年齢に近い学生の短期雇用に取り組み、支援員の確保を行いました。また、学童保育所の卒園生を短期雇用することで町への愛着と今後の正規支援員確保につなげることができました。 ・国等の補助金を活用して施設増設を行うため、県と協議を行いました。 ・子育て中の親が親同士やサポーターと子育てについて語り合い、悩みを共有できる場所として「親子プレステ」を実施しています。 ・PTA等による子育て講演会への支援、マイナス1歳からの子育て講座や就学前学習講座等を開催し、学習機会の提供による家庭教育の充実にも努めています。 ●実施できていないこと ・地域全体で子育て支援意識を醸成し、世代間交流等を図ることにより、社会全体として子育てに対する理解・支援を図る必要があります。 ・地域における子育て支援・家庭教育の人材育成・確保を図る必要があります。 ●実施が困難なこと ・特にありません。 <p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・コロナ禍でも安全、安心できる施設運営が行えるよう取り組みます。 ・支援員の確保を行うため、大学生や高校生の短期雇用を利用し、安定的な運営が実施できるよう取り組みます。 ・日野町子育て支援チーム会議により、関係各課の子育て施策や事業の横展開を検討するとともに、事業実施にあたっては相互の協力体制を構築します。 ●今後の課題 ・利用者の増加が見込まれる中、施設の増設等が必要です。 ・施設の老朽化が進む中、安全安心な施設管理に努める必要があります。 ・地域の高齢者や子育ての経験者などの様々な知識や経験を子育てに活かすことができるよう、地区社会福祉協議会等と連携を図り、地域における子育て支援活動の機会充実にも努めます。 ・身近な地域で乳幼児とふれあう機会をもち、将来子どもを産み育てたいという意識を醸成できるよう、小学生から中高生までの幅広い年代の子どもを対象として夏休みや休日を活用して子育てイベント等への参加を促します。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの「子育てサポーター数」が、R7目標値が10人で、R3には既に実現できました。達成は評価しますが、今後、10名以上のサポーターは必要ないのでしょうか。達成可能性だけでなく、住民にとって必要な人数という視点でもKPIの設定を考えて下さい。サポーターを増やす意思がないように読み取られかねません。 ・切れ目のない支援の一つとして「子どもの居場所づくり」に取り組んでいます。この取組を通じて「まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくり」につながるような工夫をして下さい。例えば、夏休みに、町出身の大学生、高校生をアルバイト雇用するなどして、学童クラブ陰影を手伝ってもらうなど、まちの担い手の経験を若い時にもしてもらって下さい。年の離れた多世代交流だけでなく、年の近い多世代交流をつくり、地域の教育力の向上にもつなげて下さい。 ・地域の教育力の向上を意識して施策の工夫を行って下さい。現状では、連携を進めたり、場づくりができていていることは分かりますが、「教育力の向上につながっている」と確認が持てる内部検証ができていません。 ・今後の課題として、施設の増設、老朽化した施設の改善も指摘されています。子どもの居場所として必要な施設の充実を図ってください。 ・こどもの居場所をつくることは、安全・安心に過ごさせて、多様な経験・良質な経験ができること、そこから、まちへの愛着を育む効果も期待されています。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証では、基本目標、基本的方向等を踏まえた豊かな内容となるように検討して下さい。 ・子育てサポーターが必要な人数を把握するために、ニーズを把握するとともに、地域の人材として、関係課への横展開ができる可能性を検討する必要があります。 ・地域における子育て支援、家庭教育の人材育成は、講習だけでは増えないため、仲間を増やすための工夫や議論が必要である。 		
目標値【R4】	400 人			10 人										
目標値【R5】	500 人			11 人										
目標値【R6】	500 人			11 人										
目標値【R7】	500 人			12 人										

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	子育てにやさしい風土づくり
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	青少年の社会参画の促進	担当部署	生涯学習課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 青少年がボランティア活動や地域活動等に積極的に参加・体験できるよう活動の場や機会の提供に努めます。 青年団をはじめとする青少年が活動しやすい環境づくりや人材育成に向けた支援に努めます。 								

35

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	ミニスポーツ教室参加者数			カルチャー教室参加者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	353 人			172 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	350 人	314 人	89.7%	170 人	174 人	100.0%				② ・野球、サッカーを含む10競技のミニスポーツ教室を開催しました。 ・子どもたちが様々なスポーツを体験できる機会を提供し、スポーツに親しむ子どもたちを増やすことを目的に日野町少年少女ミニスポーツ教室体験会を開催しました。 ・文化協会と協力して、いけばな、お琴を含む11教室のカルチャー教室を開催しました。 ・カルチャー教室でがんばっている子どもたちの1年間の成果を発表する、発表会を開催しました。	③ ・ミニスポーツ教室体験会を開催したことで、多くの子ども達がスポーツに興味を持ち、次年度のスポーツ教室に入会する子どもが増えたことから、体験会の質の向上を図ります。 ・カルチャー教室についても、多くの文化芸術活動の触れてもらう観点から、体験会を開催できるよう、文化協会と協議します。	B	<ul style="list-style-type: none"> KPIがおおむね達成されている点は評価します。 ②、③、④、⑤（内部検証）が、KPIに引きずられた内部検証となっています。参加者数をKPIにしている、1-6「青少年の社会参画の促進」の取組の内容における、青少年のボランティアや地域活動への参加への道筋が見えない検証になっています。1-6「青少年の社会参画の促進」の取組内容との関係性を明確にして下さい。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）について、基本目標、基本的方向等を踏まえての検証とは言い難く、事務の自己点検としての踏み込み不足である。 青少年の社会参画をボランティア活動、地域活動に積極的に参加、体験できる場を提供していく中で、子どもたちにまちへの愛着を持ってもらえるようにするにはどうしたら良いのか再検討して下さい。 1-6「青少年の社会参画の促進」の取組内容が、青少年の主体性を引き出す内容ですが、②、③、④、⑤（内部検証）の検証内容はスポーツ、カルチャーを楽しむ住民（消費者的、受け身的）に見えます。発表会を自分たちで組織化したり、指導者を教室の中から輩出したりするなど、青少年の参画を促す工夫を行って下さい。行われているならそれを記述し検証して下さい。 カルチャー教室の参加者には、好き寄りで集まるだけでなく、社会的意義（発表などにより人に伝えること）を持たせるため、ふるさと絆支援員との連携を進めてほしい。
目標値【R4】	350 人			170 人						④ ●実施していること ・10競技のミニスポーツ教室を開催しています。 ・ミニスポーツ教室体験会を開催しています。 ・11教室のカルチャー教室を開催しています。 ・カルチャー教室の成果を発表する、発表会を開催しています。 ●実施できていないこと ・特にありません。 ●実施が困難なこと ・新しいスポーツ教室やカルチャー教室を開催するための指導者および施設の確保が困難です。	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・新しいスポーツ教室やカルチャー教室を開催することはできないものの、現在開催している教室の内容の質の向上を図ることで、その目標を達成していきます。 ●今後の課題 ・少子化により、スポーツ、カルチャー共に年々入会者が減少し、募集をしても応募のない教室があります。		
目標値【R5】	350 人			170 人									
目標値【R6】	350 人			170 人									
目標値【R7】	350 人			170 人									

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	社会教育の人材育成と活躍の推進	担当部署	生涯学習課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育団体が活性化するよう支援するとともに新たな人材の発掘や育成に努めます。 学習機会と活躍の場づくりの充実に努めます。 								

36

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	公民館利用者数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	86,695 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	87,130 人	58,335 人	67.0%							② 女性会、青年団をはじめとする社会教育団体へ、補助金を交付し、活動を支援しています。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部中止を余儀なくされたところはありませんが、各地区公民館の各種セミナーや講座を通して、あらゆる学習の機会の充実を図りました。	③ 各団体との連携を深めながら、コロナ禍でも活動が停滞しないよう取り組みます。 ・引き続きコロナ禍においても、住民のニーズを的確につかみ、人材育成の視点で学習の機会を提供します。また、学んだことを地域で活かすことができるよう、活躍の場づくりに努めます。	B	・KPIの達成度が、60%台にとどまり、全体の評価がBとなりました。コロナ禍による行事の中止等の影響であろうと推察しますが、コロナ収束後の社会教育のあり方も検討して下さい。利用者の回復見込みを検討して下さい。 ・1-7「社会教育の人材育成と活躍の推進」の取組内容のうち、新たな人材の発掘や育成についての言及が不十分です。「社会教育団体への活性化のための支援」と「その支援から、人材の発掘・育成」につながるよう施策の工夫を行って下さい。 ・学んだことを活かす「活躍の場づくり」に苦勞し、今後努めるとしてはいますが、学んだことを活かす場づくりが、まずは「基本目標①」全体の中で、または、他の基本目標の中で実現できないか検討して下さい。生涯にわたる学びが広がれば、活躍の場も広がるでしょう。 ・1-7「社会教育の人材育成と活躍の推進」は施策としては、基本目標①の「切れ目のない支援」のひとつですが、その成果の発露は、まちづくり全体に関わっています。社会教育がまちづくりの担い手を育て、その人材の活躍がまちの力になることを考え、社会教育の充実を図って下さい。 ・1-6「青少年の社会参画の促進」、1-8「子どもの読書活動と学習活動の支援」のボランティアのスキルアップやボランティアのすそ野を広げる学びを工夫して下さい。 ・遠野市の取組（住民による生涯学習講師の取組）などを参考に、地域の人材育成と活躍の場づくりについて工夫してほしい。
目標値【R4】	87,348 人									④ ●実施していること ・補助金を交付するだけでなく、青年団が開催する町民駅伝大会、年賀状展については、職員を動員し協同で実施しています。 ・地域のつながりを深める中で、その時々ニーズにあう各種催物の開催をしています。 ●実施できていないこと ・各社会教育団体の新たな人材発掘、育成が出来ていません。 ・学んだことを地域で活かす仕組みができていません。 ●実施が困難なこと ・様々な事業・活動がコロナ禍で中止しており、人材の発掘に苦慮しています。 ・地域で活躍をすることのやりがいや喜びを感じられる経験をしてもらえていません。そのような機会の創出が必要です。	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・各団体が連携を取り合い、基本目標、基本方針に向けて活動を行います。 ・地域のつながりを深める中で、その時々ニーズにあう取り組みを進めていきます。 ●今後の課題 ・各団体とも会員の減少が最大の課題となっており、会員確保のための工夫が必要です。 ・学んだことを地域で活かす、仕組みづくりに努めるとともに、地域で活躍することに誇りを感じられる工夫を考えます。		
目標値【R5】	87,565 人												
目標値【R6】	87,783 人												
目標値【R7】	88,000 人												

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	子どもの読書活動と学習活動の支援	担当部署	図書館
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの旺盛な知的好奇心に応えられる魅力的で豊富な図書を準備し、より一層家庭や地域、園や学校、学童保育、子育てサークル等における読書活動の支援に取り組みます。 ・移動図書館サービスを定期的に幼稚園・保育所・こども園で実施し、家庭での子どもの読書環境の充実に取り組みます。 ・学校図書館と連携し、読書活動と学習活動の支援に取り組みます。 				

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	授業におけるクラス別小学校図書館使用状況（学校司書認知件数）			授業におけるクラス別中学校図書館使用状況（学校司書認知件数）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	27 回			3.7 回									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	32 回	26 回	81.3%	5.4 回	2.4 回	44.4%				② 施策 <ul style="list-style-type: none"> ・町内のすべての小中学校に学校司書を派遣し、先生方と協力し児童生徒が読書に親しむよう環境整備を行っています。 ・小学校と連携し新一年生向け図書館利用案内および促進を実施しています。 ・幼稚園や保育所、こども園では、絵本の読み聞かせが行われ、定期的に移動図書館が訪問し、園児たちがより多くの絵本に出会う機会を提供しています。 ・幼稚園や保育所、こども園、小学校では家族との読書の時間を共有する「ファミリー読書」が定期的の実施されています。 ・乳幼児向けの絵本コーナーを設置し、定期的にもと保護者向けのおはなし会を実施しています。 ・子育て中の保護者にもゆっくり図書館を利用できるよう、子育て支援託児サポーターの協力で託児サービスを実施しています。 ・つどいのひろば「ほけっと」に絵本を設置し、定期的におはなし会を実施しています。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・町内のすべての小中学校に学校司書を派遣していますが、学校司書が複数学校を兼務しており、子ども達がいつ学校図書館に行っても学校司書が対応できるようにするため、専任の学校司書がいる校数を増やす働きかけを行います。 ・小中学校の授業等で学校図書館をもっと活用する、本を全く読まない子どもを減らすための働きかけを行います。 ・中高校生の年代に対して、生涯にわたり図書館を利用する動機となる働きかけを行います。（例：マンガの提供やボードゲームを通じて本を紹介するなどYA世代の興味関心を引き出す取り組み等） ・読み聞かせなどのボランティア活動に参加する人を増やし、スキルアップする機会を提供します。 ・つどいのひろば「ほけっと」だけでなく子育てサロンの会場等に絵本や子育ての参考になる本を配置し、本や必要な情報に接する機会を増やします。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIが、取組内容の幅の広さに対して、学校教育におけるクラス別図書館利用となって幅が狭いので、取組成果を測る指標として適切とは言えません。小さく測定する可能性すらある取組の成果としては、貸出冊数や利用者のべ人数の方がより適切である。なぜなら、貸出、利用は住民の主体的動きの結果であるのに対して、クラス別利用は、教員のイニシアティブの結果であり、住民である生徒の利用は受け身となっているからである。 ・子育て支援託児サポーター、読み聞かせボランティアに参加する人を増やす取組は、基本目標を踏まえた取組であり、取り組みの方向「生涯にわたる学びと活躍の推進」になる。他の部署（生涯学習課等）との連携も必要である。 ・子ども読書活動から保護者も図書館を積極的に利用するようになるような工夫もとられたい。子どもの読書活動に重点が置かれ、大人の図書館利用の増加に向けた取組が弱まらないように留意されたい。 ・0歳児のお母さんから、親子で本を見る習慣の大切さを知ってもらうことが大切である。 ・子育てする時間がないことから、YouTubeを見せている家庭が増えており、家庭における読み聞かせの習慣が読書力をつける手立てであることを、保護者に教育する必要がある。 ・図書館はどの世代に対してもサービスすることから、取組の幅が広く、KPIの設定にも難しさがある。それぞれのライフステージでニーズの大小はあるが、全体を捉えて施策を進めてほしい。 ・ボランティア活動に参加する人を増やす取組は、その意義を見いだす人を増やすことが重要であり、すそ野をどのように広げていくのか工夫してほしい。
目標値【R4】	37 回			7.0 回									
目標値【R5】	42 回			8.7 回									
目標値【R6】	47 回			10.3 回									
目標値【R7】	52 回			12.0 回									

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。 				

取り組みNo.	9	具体的な取り組み	住民の主体的な文化芸術活動への支援	担当部署	生涯学習課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・町民会館わたむきホール虹や公民館等を活用した、町民主体の各種文化・芸術活動の充実を推進するとともに、普段ふれることのできない芸術活動を提供していきます。 ・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館の文化・芸術活動の連携を強化し、日野町文化協会等の団体とともに、住民が主体的に取り組める文化等の普及を図ります。 ・少年少女ミニカルチャー教室を通して、子どもの文化芸術活動の充実を図るとともに豊かな人間性を育みます。 				

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	文化祭の参加者数			文化祭の出演者数・出展者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	4,000 人			171 団体									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	4,066 人	4,000 人	98.4%	174 団体	140 団体	80.5%				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民会館わたむきホール虹と図書館を会場に日野町文化祭を、各地区公民館を会場に地区文化祭を町民主体に開催され、町民が創作した作品の発表の場と各種文化に触れる機会を提供しました。 ・町民会館わたむきホール虹において普段ふれることのできない芸術作品を提供し、芸術活動の充実を推進しました。 ・町民会館わたむきホール虹・公民館・日野まちかど感応館において文化・芸術活動を通じて連携し、日野町文化協会等の団体とともに、住民が主体的に取り組める文化等の普及を図りました。 ・少年少女カルチャー教室を通して、子どもの文化芸術活動の充実を図るとともに豊かな人間性を育みました。 ・町民大学講座を実施し、多様な学びの場を提供し、広く町民の参加を促しました。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても文化を学び、発表できる場をDXを活用し、他課と連携して提供していきます。 ・DXに対応できない人々に対し、スマホ教室などを実施して文化を学び、発表する手段を提供します。 ■わたむきホール虹 ○アウトリーチ事業 ・5つの小学校にて、なじみのある学校で、なじみのない音楽（バイオリンとハーブ）の演奏会を実施します。 ・有観客のライブ配信を行います。 ・馬見岡綿向神社にて、ライブイベントを開催します。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1-9「住民の主体的な文化芸術活動への支援」の取組内容の成果指標として、KPIが文化祭参加者数、出演者・出展者数となっていますが、この指標だけでは測れない成果を把握するようにしてください。 ・1-9「住民の主体的な文化芸術活動への支援」の取組内容が、「生涯にわたる学びと活躍の推進」となり、「若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちづくり」につながる工夫をして下さい。道筋について具体的イメージを持つようして下さい。
目標値【R4】	4,100 人			176 団体									
目標値【R5】	4,133 人			177 団体									
目標値【R6】	4,166 人			179 団体									
目標値【R7】	4,200 人			180 団体									

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通して、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	10	具体的な取り組み	ふるさと学習の充実	担当部署	生涯学習課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 学校、地域住民・団体と協働し、ふるさと学習、講演・出前講座を拡充させ、郷土意識・文化財保護意識の醸成に努めます。 各家庭で作られてきた日野菜漬けや郷土・伝統料理を大切な文化ととらえ、その伝承と情報発信をまちぐるみで推進します。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	ふるさと学習（学校向け出前講座・展示活動等）実施回数			ふるさと学習（地域向け講座・学習会等）実施回数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	6回			4回									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	6回	10回	100.0%	5回	6回	100.0%				② 町内5小学校の6年児童を対象に『ふるさと日野の歴史』を配布・出前授業の実施、日野中学校1年生を対象とした出前授業を通じ、世代を担う人材育成を図りました。 ・地域住民による子どもを対象としたふるさと学習の取組に支援しました（氏郷、鯛そうめん）。 ・地域住民を対象とした歴史講座や企画展を開催し、文化財保護意識の醸成を図りました。 ・食文化をテーマとした小冊子を作成し、郷土料理の伝承と情報発信に努めました。 ・ふるさと館において、食体験事業を実施しました。	③ ・コミュニティスクールの本格的な導入を受け、学校・地域住民と連携したふるさと学習の推進を図ります。 ・食文化に関する情報収集・発信を進めるとともに、住民主体の食イベントが開催できる環境づくりに努めます。 ・学校給食やふるさと学習の場を活用し、郷土・伝統料理の継承と情報発信を図ります。	A	・1-3「コミュニティ・スクールの導入」とも連携して、事業効果を高めて下さい。 ・1-3「コミュニティ・スクールの導入」における地域づくりの動きを活性化させ、地域ニーズに合致した学校づくりになるように工夫して下さい。 ・ふるさと学習については充実した内容であると評価します。郷土、伝統料理の伝承と情報発信も進んだものと評価します。 ・「ふるさと学習の充実」が、「生涯にわたる学びと活躍の推進」、「まちに愛着を持つ子どもを育て」、「若い世代が子育てに希望が持てるまち」になる結節点になりうる施策上の工夫をして下さい。文化的豊かさの実感をまちの豊かさ、まちの魅力につなげて下さい。そのポイントは情報発信にあり、交流人口の増加や定住・移住促進につなげて下さい。
目標値【R4】	10回			6回									
目標値【R5】	10回			6回									
目標値【R6】	11回			7回									
目標値【R7】	11回			7回									

施策検証シート

基本目標No.	1	基本目標	結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる	取り組みの方向	生涯にわたる学びと活躍の推進
めざす姿	地域のつながりを深める中で、結婚から子育てまで、その時々ニーズにあった切れ目のない支援を行い、若い世代が出産や子育てに希望をもてるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○安心して妊娠・出産・子育てができるための切れ目のない支援を図ります。 ○様々な保育ニーズへの対応や子育てサポート等により、子ども・子育て支援の充実を図ります。 ○地域社会全体で、まちに愛着を持つ子どもを育てるまちづくりを進めます。 ○育児休業の取得促進や多様な働き方の普及などを通じて、ワーク・ライフ・バランスの実現などを図ります。				

取り組みNo.	11	具体的な取り組み	女性活躍の環境づくり	担当部署	商工観光課	企画振興課		
内容	<ul style="list-style-type: none"> 女性活躍支援施設「ほけっと」において、就労に役立つセミナー等を実施し、職場復帰や新たな就労を考えている女性の就労支援に取り組みます。 仕事と家庭の両立を目指し、ワーク・ライフ・バランスを普及・啓発することで、女性が安心して仕事を継続できる労働環境の整備に取り組みます。 							

40

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	女性活躍支援施設「ほけっと」における事業による出産後の女性の復職者の増加数（累計）			女性活躍支援施設「ほけっと」における事業による新規就労者数（累計）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	8人			1人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	14人	14人	100.0%	10人	9人	90.0%				② <ul style="list-style-type: none"> 女性活躍支援施設「ほけっと」において、子育て女性を対象とした、子育てと仕事の両立や社会復帰等に関する就労セミナーを2回、相談会を1回開催したほかハローワーク東近江と連携した「お出かけ相談」も1回開催し、社会復帰に向けた不安や悩みの解消を図るとともに、自身のキャリアを考え、学び、挑戦することができるよう学習機会を提供しました。（参加者延べ15人） 仕事と家庭の両立のため、人権施策における各企業への聞き取り時に育児休暇等の各企業での取り組み状況の把握と充実を依頼し、労働環境の整備に努めました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症により、就労セミナーの参加者が少なかったため、ホームページや日野め～るを活用し、参加者の増加を図ります。 女性活躍支援において、的確なニーズの把握と、女性が活躍する社会の望ましい姿を皆で話し合い、ワーク・ライフ・バランスの普及・啓発に努めます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1-11「女性活躍の環境づくり」の取組内容が、「ほけっと」を起点とした就労支援事業と企業へのワーク・ライフ・バランスの啓発とに絞られており、分かりやすい施策となっています。今後は、この主要な2つの取組に限定されず、「女性活躍の環境づくり」全般に目をくぼり、幅広い施策の可能性を探ってください。KPIの「ほけっと」起点の事業効果が幅広い取組へのディスインセンティブにならないよう気をつけて下さい。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）ともに基本目標、基本的方向等を踏まえた内部検証をしている点を評価します。具体的な施策の工夫のイメージを持てるように検討を進めて下さい。 女性活躍に向けた女性のニーズを的確に捉え、そのニーズの多様さに応えることが重要です。ニーズの多様さの背後にある住民の暮らし方の多様さを的確に把握して、子育てに希望の持てるまちづくりにつなげて下さい。 就労セミナーや相談会は、10月に保育所申込時期が到来することから、それ以降に実施しても参加者が少ないため、早い時期に実施する必要があります。 町内で勤務したいと考えているお母さんは多いと思うが、働きたいという声と働く先が繋がっていない。実際の働きたいという声には、フルタイムのほか、パートタイムやすき間時間の活用などさまざまなあり、いろいろな就労のかたちにつなげることが大切である。 ハローワークでは検索できない情報などが、ほけっとで検索できるとよいのではないかと。 岡山県奈義町の取組（まちの人事部）などを参考に、事業者からの相談や働く人の相談、ワーキングスペースの確保など工夫してほしい。
目標値【R4】	17人			14人									
目標値【R5】	20人			18人									
目標値【R6】	23人			22人									
目標値【R7】	27人			27人									

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	農業経営・担い手育成への支援	担当部署	農林課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農家等経営の合理化、生産体制支援の仕組みづくりの促進を実施し、法人営農、集落営農、および新規就農従事者等、意欲と能力のある経営感覚に優れた担い手の確保・育成に取り組みます。 ・集落の事情に応じた集落営農組織等を支援します。 ・貸し手と借り手をつなぐため、農業組合、農業委員会や農地中間管理機構との情報共有を実施します。 				

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名	人・農地プランの作成集落数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R2】	21 集落													
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和3年度	21 集落	21 集落	100.0%							② 施策 <ul style="list-style-type: none"> ・集落で地域農業の将来を話し合い、「人・農地プラン」の作成促進を図るため、農業組合長会議において説明や情報提供を行いました。 ・町、農業委員会、県、JA、農業共済組合が連携し、多様な経営体の育成支援を行いました。 ・認定農業者の認定を、19件（新規1件、更新18件）、認定新規就農者の認定を1件行いました。 ・環境こだわり農業の推進を図り、取組み面積が増加しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・集落における将来の地域農業を話し合うことの重要性を説明し、人・農地プランの作成を推進していきます。 ・集落が主体となって地域農業の担い手の育成・確保を考えられるよう、集落の支援に複数年かけて取り組みます。 ・町・県・JA等の関係機関が連携し、多様な経営体の育成と支援に取り組みます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIとなっている「人・農地プランの作成集落数」が、R2からR3で増えていませんが、KPIの目標設定がR2の実数である21集落のままなので、KPIの達成度が100%になりました。今後、1年に1集落ずつ作成する目標となっていますが、作成するだけを目指せず、プランが実行され、成果が出るようにフォローアップしてください。 ・内部検証②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）において、2-1「農業経営・担い手育成への支援」の取り組み内容への検証が不十分です。「貸し手と借り手をつなぐため」の情報共有が実施されたのかなのかもわかりません。 ・担い手の確保、育成のためにも、基本目標、基本的方向を踏まえた「地域資源」の視点、「地域内経済循環の活性化」、「地元企業、商工会との連携」、「町内雇用の拡大」などと連結、連動した施策を検討してください。 ・環境こだわり農業の推進は、地域資源の活用とブランド化につなげられる優れた取り組みだと考えますが、内部検証では単に面積の増加に言及しているにとどまっています。政策当局の施策と把握が過小評価になっていないかが気になります。 ・コロナ禍による集落に向向いての説明が困難な状況が続いたようですが、集落の通信環境の整備も行うなどして、オンラインによる説明会等も工夫してください。 ・⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた今後の取り組み）で「自分たちの集落を守る意識」に言及していますが、この意識を高めることにつながる施策の工夫をしてください。 ・今の状況では、5年10年先の状況が読めず、計画が立てづらい現状がある。10年経てば従事者がコロコロと変わると考えられるなかで、まずは家庭で誰が農地を守るのか、議論する必要がある。その先に集落でどう守れるのか考えることが大切である。 ・「自分たちの集落を守る」ことを中心に据えて、その意識を高めるために何を進めていくのかという視点で施策を考える必要がある。 	
目標値【R4】	22 集落													
目標値【R5】	23 集落													
目標値【R6】	24 集落													
目標値【R7】	25 集落													

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	農業生産・特産品の振興	担当部署	農林課
内容	・原産日野菜や近江牛、近江米、北山茶等の特産品の安定的な生産・供給体制、販路開拓への支援に取り組むとともに、6次産業化を図り、原種や産地等による地域ブランドとしていくことで付加価値を付け、特産品の振興を図ります。				

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	インショップ販売額			日野菜出荷量			獣肉販売量			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2・1】	R2	26,890 千円	R2	42 t	R1	805 kg							
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	27,500 千円	31,519 千円	100.0%	45 t	46 t	100.0%	810 kg	1,200 kg	100.0%	② <ul style="list-style-type: none"> 野菜生産用の機械導入経費として8件（いずれも日野菜生産用機械）を補助し、支援を行いました。 日野菜の栽培技術向上、収量増加につながる情報提供の機会として、7月に栽培技術研修会を実施したこともあり、生産者・栽培面積が増加、気象条件も良好であったこともあり、出荷量増加につながりました。 日野菜PRキャラクター「あなのひのな」を活用、JAや地元商工団体等と連携し普及啓発に努めました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> 引き続き野菜生産用の機械等の導入経費を補助し、野菜生産者を支援します。 日野菜のさらなる生産・拡大につながるよう、生産者・JA・県等と連携し、栽培技術研修会や情報提供、補助制度などに取り組みます。 地域が一丸となった日野菜振興ができるよう、「原産日野菜」の知名度を高めるため、学校給食への利用や、家庭の食卓に身近なものとなるよう普及啓発に取り組みます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ②、③、④、⑤（内部検証）では、日野菜のことしか言及されていません。2-2「農業生産・特産品の振興」の取り組み内容には、日野菜の他に「近江牛、近江米、北山茶等の特産品の～」とされています。これらの事項についても、毎年施策を行っており、書く内容はあると考えますが、今回の内部検証では全く言及されていません。 2-2「農業生産・特産品の振興」の取り組み内容に、「6次産業化を図り」とありますが、内部検証では言及されていません。 ④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、「地域資源」、「地域内経済循環」、「町内企業の連携・交流」、「町内雇用の拡大」といった点に関連させて検証を行い、施策を再考してください。 「農業生産・特産品の振興」を実現するうえで、基本目標、基本的方向は必要なことではないでしょうか。生産、供給体制、販路拡大への支援から、6次産業化を図るなど支援レベルの高度化が必要です。 「原産日野菜のブランド化を・・・」としている一方、地元のインショップではB級、C級の日野菜が並んでいる現状について、情報把握しておく必要がある。 R2からR3にかけて、生産量は増加したが、在庫が残る状態であったため、販売額のみならず、販路についても指標とすべきではないか。 特産品として並列している近江牛や近江米、北山茶など、現状について情報把握し、内部検証すべきである。
目標値【R4】	28,000 千円			48 t			815 kg						
目標値【R5】	28,700 千円			50 t			820 kg						
目標値【R6】	29,300 千円			53 t			825 kg						
目標値【R7】	30,000 千円			56 t			830 kg						

42

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	林業の振興	担当部署	農林課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用資源が増加していることから、木材搬出を促し世代を超えて持続可能な産業となるよう振興を図ります。 ・未利用人工林の整備を進めます。 ・森林組合等に対して森林施業、木材搬出が実施できるよう林道・作業道整備等の支援を行います。 								

43

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	町産木材の搬出量									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	1,380 m ³												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	1,604 m ³	1,831 m ³	100.0%							② ・大字熊野（A=20ha）において、森林境界明確事業を新規着手しました。 ・林道（一ノ谷林道）について、豪雨・台風等の自然災害により陥没の道路復旧について補助金により財政支援を行いました。	③ ・森林経営計画管理制度の実施に向けて、森林の境界及び、所有者を特定する必要があることから、引き続き、森林境界明確化事業の取組みを推進します。 ・平成31年度に創設された森林環境譲与税において、町の森林行政における有効な活用方法を検討します。 ・引き続き、林業施業者を連携を図り、林道及び林内作業場の整備を促進します。	B	・2-3「林業の振興」の取り組み内容が貧弱です。林業振興の施策を工夫してください。未利用資源が増加している要因を分析し、効果的な施策を検討してください。 ・②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）において、2-3「林業の振興」の取り組み内容で挙げられている項目への検証を行い、「木材搬出を促し」、「人工林の整備」、「林道・作業道の整備」がどの程度できているのかを明らかにしてください。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）において、基本目標、基本的方向を踏まえて、「地域資源を活かし」、「地域内経済循環」、「町内雇用の拡大」につながるように現況分析、今後の取り組みの施策の工夫を行ってください。 ・森林境界明確化事業の重要性は認めますが、その先の施策の展開の全体像を理解せずに、部分的な事業に集中しても林業振興化にはつながりにくいのではないのでしょうか。 ・森林環境譲与税制度をよく研究し、木材利用の促進から地域内経済循環の創出、町内雇用の拡大の総合的施策を検討してください。 ・生産者の能力アップを図るとともに、販売量（出口の需要）をアップさせるための工夫が必要であり、一貫して効果を高める取組を進める必要がある。 ・木質バイオマスの出口の需要拡大などは、学校での利用から家庭普及へ拡大し、需要を増やすなどが考えられる。 ・林業の振興のボトムアップとして、生涯学習分野の体験等に組み込むことが大切である。
目標値【R4】	1,828 m ³									④ ●実施していること ・森林境界明確化事業を平成31年度より実施し、大字奥之池、小野で実施をしています。 ・里山防災・緩衝帯事業に多くの自治体が取組んでおり、里山整備を推進しています。 ●実施できていないこと ・森林経営管理制度の実施へ向けた所有者等への意向調査 ・森林境界明確化事業の更なる更なる実施区域の拡大 ●実施が困難なこと ・特にありません。	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・更なる森林境界明確化事業の取組みを推進します。 ・また、境界の明確化があつ程度進んだ段階で、森林経営管理制度による林業経営の効率化を林業施業者等と協議し進めます。 ●今後の課題 ・林業担当職員が専門職ではないため、より政策的・実践的な林業施策が取組めていません。 ・森林環境譲与税の更なる活用方法を検討する必要があります。		
目標値【R5】	2,052 m ³												
目標値【R6】	2,276 m ³												
目標値【R7】	2,500 m ³												

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	地域内経済循環の推進	担当部署	農林課	住民課	商工観光課
内容	・町内の消費拡大と地域内経済循環につながるよう、商工会や関係団体と連携し、企業間取引の促進に取り組みます。						

44

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	おさんぼカード利用ポイント数			住宅リフォーム等促進事業における工事費実績額						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1・2】	R1	473 万ポイント		R2	329 百万円								
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	480 万ポイント	1,171 万ポイント	100.0%	330 百万円	335 百万円	100.0%				② 日野町商業協同組合が取り組む「おさんぼカード」の利便性を高めるため、新たにQRカードに転換する事業に補助を行うなどの支援に取り組みました。 町内の飲食店支援として「日野町料理飲食店プレミアム付商品券」を発行しました（3000万円分）。 住宅リフォーム工事に対して地域商品券で助成を行い、商業、工業両面にわたる地域内経済循環の推進に取り組みました。	③ 町内の個店への集客が増えるよう「おさんぼカード」のチャージ機能などを活用したキャンペーンを商工会とともに連携して取り組みます。 新型コロナウイルス感染症で落ち込む町内の消費拡大を目指し、商工業など多方面で使用できる地域商品券発行事業に取り組みます。 住宅リフォーム等促進事業の推進に引き続き取り組みます。	B	・2-4「地域内経済循環の推進」の取り組みは、基本目標②のなかでも重要な取り組みであると考えられます。町内の消費の実態を買い物調査を行ったり、町内企業の調達先を調査するなど「現状把握」を行うことから始めましょう。現状を把握すると改善の指針を見つけることができます。 ・②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）とともにKPIの達成に向けた取り組みに力点のおかれた内部検証となっています。取り組み内容に即して内部検証を行ってください。「おさんぼカード」の利便性向上も必要なことですが、「おさんぼカード」が利用され、町内消費の拡大と地域内経済循環を高めるのが目的のはずですから、手段と目的を取り違えないようにしてください。 ・KPIのおさんぼカード利用ポイント数が、目標値、R1実績（基準）値の2倍以上になっています。KPIの設定が過小かもしれません。ポイント利用の実態を分析して、町内の消費動向の把握に努めてください。 ・住宅リフォーム等促進事業は、規模は小さいですが、象徴的な意味があるでしょう。この事業を活用することで、まちの「たから」である景観が保全されるように活用される等、事業効果が高くなるような工夫を行ってください。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）は、基本目標、基本的方向を踏まえて内部検証を行ってください。 ・おさんぼカードを知らない若者が多く、使いやすさや町内消費のPRを進めてほしい。 ・おさんぼカードがQRカードに変わり、取り扱う店舗が少なくなった実感がある。設置費用や操作方法、有効期限となったことなど、さまざまな理由が考えられる。 ・おさんぼカードがQRカードになったことで、どこで誰が使ったか把握できる（傾向が見える）のではないかと、必要の把握を行う工夫をしてほしい。
目標値【R4】	485 万ポイント			330 百万円									
目標値【R5】	490 万ポイント			330 百万円									
目標値【R6】	495 万ポイント			330 百万円									
目標値【R7】	500 万ポイント			330 百万円									

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	創業・コミュニティビジネスへの支援	担当部署	商工観光課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会と連携し、広報誌、ホームページや各種媒体を活用し「創業塾」や創業支援制度の周知に努めるとともに、創業後も経営等の相談を受ける伴走型支援に取り組みます。 ・コミュニティビジネス等の創業者との交流会を開催し、創業者ニーズの把握に取り組み、施策を展開します。 								

45

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	創業件数（累計）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	12 件												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	15 件	16 件	100.0%							② 商工会が主催される創業塾は、コロナ渦であったものの実施され（オンライン形式で8回の講義）、町の広報誌で周知に努め、3名の参加がありました。 また、創業塾受講後も経営指導などのバックアップに取り組みました。 新たに「日野町空き家空き店舗活用支援事業補助金」制度を創設し、町内外の創業希望者が日野町で創業されやすい環境を整えたところ、2名の方から申請があり、令和3年度中に営業を開始されました。	③ 創業塾は商工会と連携し、あらゆる情報媒体を活用し受講者が増えるよう取り組みます。 また、創業塾受講後も経営指導などの商工会による伴走型支援の取組を進めます。 また資金面の観点から「日野町創業支援補助金」の活用を周知し、創業塾による経営のノウハウの支援との両面からの支援が行き届きよう取り組みます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会事業の開催は、2-5「創業・コミュニティビジネスへの支援」の取り組み内容として書いているから行うと単純に考えず、基本目標、基本的方向を踏まえて実現せねばならないことだと広く文脈で捉えてください。町内企業の交流と連携から地域内経済循環を強める方向に町の経済の質的転換を図るように施策の工夫を行ってください。 ・創業者ニーズの把握を適切に行うこと、地域内経済循環を高める創業者を育成するためのトータルな仕組みを検討してください。
目標値【R4】	17 件												
目標値【R5】	19 件												
目標値【R6】	22 件												
目標値【R7】	25 件												

④ ●実施していること
 ・創業者、空き家空き店舗活用者への支援により地域内経済循環の活性化するよう取り組んでいます。
 ●実施できていないこと
 ・企業や創業者との交流事業は実施できていません。
 ●実施が困難なこと
 ・空き店舗は、住居と一体化しているケースが多く、店舗部分だけの活用が出来にくい状況です。

⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて
 ・補助金による支援は創業希望者にとって有効な手段であることから、継続して実施していきます。
 ・店舗は地域のコミュニティとして賑わいの活性化や生活基盤につながることを意識して、新たな雇用、創業の確保に取り組みます。
 ●今後の課題
 ・ここ数年で町なかを中心に飲食店等を中心に新たな店舗が出来てきました。大型店舗やチェーン店もあるなか、個店の強みを活かした魅力ある店舗づくり、地域内経済循環を図ることが望まれます。

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	企業誘致の推進と工場用地の確保	担当部署	商工観光課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県等の関係機関と連携して情報発信に努め、空き用地への企業立地を促進するとともに、新たな工場用地の確保に向けて、民間企業との連携を推進します。 ・進出企業による町内雇用の促進や地元産品の利用等をはじめとする社会的責任（CSR）活動等の地域連携を推進します。 								

46

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	新規企業立地数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	1 件												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	1 件	1 件	100.0%							事業者や商工会、金融機関、県企業立地推進室等と企業誘致に向けた情報発信に取り組みました。 現在民間で予定されている新たな工業団地開発が順調に進むよう関係機関との連携に努めました。	現在、民間企業により開発が進められている鳥居平・松尾地先の工業団地等への企業立地に向けて、多方面へPRを行うほか、引き続き事業者や商工会、県企業立地推進室等と情報共有し、当町に持続的な経済効果や雇用創出をもたらす企業の誘致に努めます。 企業の社会的責任（CSR）活動と地域課題の解決に結びつくよう双方の情報収集に努めます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2-6「企業誘致の推進と工場用地の確保」の取り組み内容の2つ目の項目はどのように取り組んでいるのを見えませんが、評価を「2」としました。 ・工業団地の空き用地がほとんど無い状態で、企業誘致をすることは困難かもしれませんが、工場誘致だけでは企業誘致の可能性も探ってください。 ・2-4「地域内経済循環の推進」の取り組みとも関連して、域内調達状況の調査、町内雇用の実態調査等を行い、経済波及効果を測定してください。 ・地元産品の利用等をCSRに限定せず、地域内経済循環の活性化の方策として検討して下さい。エネルギーの地産地消など新しい可能性も調査、研究してください。 ・⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた今後の取り組み）の「今後の課題」の記述が、意味がよく分かりませんでした。滋賀県は工業が盛んで、2次産業（製造業）の立地も順調に増えていますので、製造業への就労希望者を増やす必要があると解釈しましたが、就労希望の実態把握や求人状況などを調査、分析し、長期的同項も考えながら、企業誘致を進めてください。サービス経済化、知識基盤社会化、アフターコロナの社会変動などを大局から検討して施策を行ってください。 ・日野高校をはじめ、地元高校生への情報発信に努めてください。
目標値【R4】	1 件									●実施していること ・既存の工業団地での雇用創出に向けて、商工会や事業者、ハローワーク等と情報共有を図りました。 ・企業懇談会の中で、地元企業間の商品利用や取引が進むよう資料提供を行なったほか、地元日野高校の進路指導担当者との交流の機会をもちました。 ●実施できていないこと ・豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会が実施できていません。 ●実施が困難なこと ・工業団地の空き用地がほとんど無い状況です。	●基本目標、基本的方向等を踏まえて ・企業、商工会との情報共有のために、工業団地企業協議会との連携促進に努めます。 ・商工会と連携して企業の先進的な技術や魅力ある商店の情報発信を行うほか、広報ひのでも企業情報を掲載し町内雇用の拡大に結び付けます。 ・豊富な経験等が活躍できる機会をつくり新たな雇用の創出につなげます。 ●今後の課題 ・製造業への就労ニーズを高めていく必要があります。		
目標値【R5】	1 件												
目標値【R6】	2 件												
目標値【R7】	3 件												

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	新たな産業分野の誘致と創出	担当部署	商工観光課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・県、県産業支援プラザ、金融機関等と連携するとともに、新たな産業分野の企業進出にかかる優遇制度の拡充を検討し、誘致を進めます。 ・空き店舗等を活用し、時代の変化に対応した新しい産業創出に努め、サテライトオフィス誘致等に取り組みます。 								

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名	サテライトオフィス等の設置									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R2】	0 件													
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和3年度	1 件	0 件	0.0%							<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により都市から田舎への仕事の流れが全国的に進む中、県、県産業支援プラザ、商工会、金融機関等の情報収集、新たな産業分野の企業進出にかかる優遇制度の検討を行いました。 ・町内の伝統的な住宅・商家等を活用したサテライトオフィスの整備を進め、サテライトオフィス等の開設やテレワークの推進等により、新たなひとやしごとの流れを創出するため、デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生テレワークタイプ）の申請を行い、採択を受けました。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県、県産業支援プラザ、商工会、金融機関等の情報収集に努め、優遇制度の創設の検討と誘致を進めます。 ・令和4年度に関東方面で近江日野商人サミットを開催し、日野町にゆかりのある企業へ日野町でのサテライトオフィス進出を働きかけます。 ・デジタル田園都市国家構想推進交付金（地方創生テレワークタイプ）を活用し、町内の伝統的な住宅・商家等を活用したサテライトオフィスの開設支援を進めます。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・2-7「新たな産業分野の誘致と創出」は、大変意欲的な取り組みであり、5年間に1件でもサテライトオフィス等が設置されるとKPIは100%となる設定ですから、5年という計画期間、中長期に成果が出るのを根気強く待つ必要があります。 ・根気強く成果が出るのを待つ必要があるとはいえ、②、③、④、⑤（内部検証）がKPIに掲げている「サテライトオフィス等の設置」に引きずられた内部検証になっています。新しい分野の企業への優遇制度の拡充による誘致に加え、コロナ禍による社会の変化を見据えた企業や個人事業者等の誘致には、何が必要なのかも検討してください。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）については、基本目標、基本的方向を踏まえての内部検証が必要です。伝統的な住宅、商家等の「地域資源」として生かそうとしている視点は高く評価します。さらに、まちなみの保全につながるような取り組みや地域内経済循環の活性化、町内雇用の拡大などにつながるよう施策の工夫を行ってください。 ・町内高校生の就業希望先としてIT産業などが挙げられるが、日野町ならではの企業や日野町を支えてきた企業を大きくアピールした上で、マッチングを進めてほしい。 ・小学生の将来の夢はボヤっとしており、具体的な職業が出てこない現状があり、目標が見つからない状態なのではないか。 ・働くことと暮らすことは連動しており、コミュニティの維持に向けて、積極的に進めてほしい。 	
目標値【R4】	1 件													
目標値【R5】	1 件													
目標値【R6】	1 件													
目標値【R7】	1 件													

47

施策検証シート

基本目標No.	2	基本目標	地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる	取り組みの方向	生活の基盤となる町内産業の持続発展
めざす姿	まちの「たから」である「地域資源」を活かし、住民が主体となって取り組む創業による地域内経済循環の活性化と、既存の取り組みの拡大も含めた雇用の創出をめざします。また、町内の企業の交流と連携を進め、更なる地域経済の活性化をめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域資源」を活用し、豊富な経験、技術、知識を持った人がつながる機会をつくり、創業と雇用に結びつけます。 ○特産品の安定的な生産・供給体制・販路開拓を支援し、ブランド化による付加価値を付けることで雇用を創ります。 ○地元企業、商工会と連携を図り情報を発信することで、町内雇用の拡大を図ります。 				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	町内雇用の促進と雇用機会の拡充	担当部署	商工観光課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会等関係機関と連携し、町内企業との懇談会や企業協議会、企業訪問等により、町内雇用を促進します。 ・職業安定所等関連機関と連携し、求職者のニーズに基づく雇用機会の拡充を図り、女性や高齢者等の幅広い年齢層に対して就職情報や就労相談の場を提供します。 ・シルバー人材センターも含めた地域雇用の創出と求職者のニーズに沿った就業を支援します。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	町内企業に勤務する従業員のうち町内居住者の割合									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	21.5 %												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	22.0 %	26.0 %	100.0%							<p>② 町内企業との懇談会や企業訪問等の機会に町内者雇用（日野高校生採用）を促進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野高校が行う就業支援を目的としたキャリア形成教育や地域との連携事業に補助を行い、郷土愛の醸成と人材育成につながりました。 ・ハローワークなど関係機関の求人情報な技能取得の情報等を誰でも閲覧できるよう役場1階ロビーに配架するなど情報提供に努めました。 ・高齢者の雇用拡大につながるようシルバー人材センターの運営に対し支援を行いました。 	<p>③ 町内企業との懇談会や企業訪問等の機会に町内者雇用（日野高校生採用）を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野中学校や日野高校が行う職場体験事業を通じて地元の企業の良さを感じてもらえる取組を支援します。 ・ハローワークの情報等を役場1階ロビーに配架します。 ・高齢者の雇用拡大につながるようシルバー人材センターの運営に対し支援を行います。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日野高校生採用を促進したり、日野高校のキャリア形成教育への補助等を高く評価します。 ・内部検証から住民の求職と企業の求人との間にギャップが生じていることが伺えます。2-6「企業誘致の推進と工場用地の確保」で製造業の誘致を進めているため、企業側（製造業）の求人が多くなる一方で、住民側の求職希望のギャップ、ミスマッチを解消する施策が必要かもしれません。そうした施策が必要であるかも含めて検討してください。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証に「地域資源」、「住民主体の創業」、「地域内経済循環の活性化」、「町内企業の交流と連携」など基本目標のめざす姿や基本的方向を踏まえた検証を行ってください。 ・町内企業と行政が連携して実施した新型コロナウイルス感染症ワクチンの職域接種は、町内在住者の5割にのぼった。町内企業だけではできないことは、官民連携でタッグを組んでやっていきたい。 ・高校生の就業希望について、給料、仕事内容、ネームバリューなど、どう親を巻き込んで働きかけられるかが大切である。 ・町内産業の雇用を確保するため、日野高校以外に通学する高校へのアプローチは考えられないか。 ・第2工業団地の人手不足による残業は深刻であり、県の産業プラザと連携して、第2工業団地にスポットライトを当てたフェアができないか。 ・中学校の職業体験では、仕事内容よりもおまけ要素が勝っており、企業側にも責任を持たせ、仕事はこういうものであると分かるように、日野の企業の良さが分かるように進めてほしい。 ・働くことと住むことはセットであり、移住支援金などとセットにして、Uターン就業を働きかけてほしい。
目標値【R4】	26.5 %												
目標値【R5】	26.5 %												
目標値【R6】	27.0 %												
目標値【R7】	27.0 %												

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	商工業の活性化	担当部署	商工観光課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 商工会と連携し、大型店にはない商店の強みや魅力を磨き、発信することで、商店や商店街に人が集まり町が活気づくような施策を実施します。 商工会と連携し、第三者承継も含めた事業承継に仕組み、事業継続の支援をします。 観光施設や地域イベント等への誘客を促進し、※交流人口の創出と賑わいのあるまちづくりを進めます。 住宅リフォーム等促進事業の継続により、商工業の活性化を図ります。 ふるさと応援寄附制度や観光との連携を通して、地元商業の活性化に取り組みます。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	住宅リフォーム等促進事業による空き家リフォーム助成件数			ふるさと応援寄附の返礼品額						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	0 件			1,489 千円									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	2 件	2 件	100.0%	3,000 千円	2,867 千円	95.6%				② コロナ禍で落ち込んだ小規模事業者の事業継続と消費喚起のための支援を町単独で実施しました。 ・料理飲食店プレミアム付商品券発行事業 ・営業時間短縮要請に係る協力支援金 ・料理飲食、観光関連事業者減収緩和支援金 住宅リフォーム助成制度の対象者を年度内転入予定者まで広げる制度改正を行い、町への移住を促進しました。 ネット広告の活用などふるさと応援寄附の推進に努め、地元事業者の活性化に取り組みました。	③ アフターコロナを見据えた商工業者支援を念頭に置き、町民の消費が小規模事業者に向く施策を検討します（地域商品券の発行等）。また、商工会や商業協同組合が実施する町内の個店への集客が増える各種キャンペーン事業を補助金交付にて支援します。 商業・工業の両面に波及効果のある住宅リフォーム等促進事業の推進に引き続き取り組みます。 ④ 事業承継を検討している事業者には支援機関を通じたネット上での募集などを商工会とともに進めます。	B	・②（施策の取り組み状況）において、事業承継について言及がありません。R3はコロナ禍で大変な一年で、コロナ対策を実施し、本取り組みを実質的に担ったと向えますが、あわせて、大型店にはない商店の強みや魅力を磨く施策の工夫を行って下さい。 ・③（施策の今後の取り組み）において、「交流人口の創出と賑わいのあるまちづくり」「ふるさと応援寄附制度」と観光との連携について今後の取り組みがみえません。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）においては、基本目標、基本的方向を踏まえて内部検証を行ってください。「交流から移住・定住に結びつく」のはどのようなパターンがあるのか？具体的なイメージを役所と地域が共通のイメージを持ち、その上で移住者の視点（移住希望者の視点）からの情報発信・支援を検討して下さい。 ・住宅リフォーム等促進事業、ふるさと応援寄附制度、商品券等の施策が、町内経済にどの程度プラスの効果を生み出すのか評価して下さい。 ・3-1「商工業の活性化」の取組は、町外に流出している町内需要を町内に向けさせる施策と、交流や寄付等によって、町外購買力を町内に向けさせる施策とに分かれます。その特性に合致した施策を検討して下さい。 ・ふるさと納税の施策は、積極的になっていることが分かる。これからも町独自のものをドンドン増やしてほしい。 ・プレミアム付き商品券などは大変人気があった。これによる町内の人による町内消費や波及効果を測定したほうがよい。あわせて、町外の人が町内需要できる方策も検討してほしい。 ・住宅リフォーム助成は、他市町と比べると金額規模が小さいため、規模を大きくすることで、さらに町内需要が増えるよう検討してほしい。 ・住宅リフォーム助成等は、個人財産との兼ね合いもあるが、町民が住み続けられるための施策として、景観保全やコミュニティ維持の観点等、工夫して町民を手厚く、さらに移住者にも波及するような施策を検討してほしい。
目標値【R4】	2 件			4,500 千円									
目標値【R5】	3 件			6,000 千円									
目標値【R6】	4 件			7,500 千円									
目標値【R7】	5 件			9,000 千円									

49

施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	まちぐるみでのおもてなし	担当部署	商工観光課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなか等の町民の自主的なイベントを応援するとともに、町民自らがまちのたからに誇りを持ち、その魅力を楽しみながら、おもてなしの心で観光受入に関わる人を増やします。 ・商業面と連携した誘客確保や観光協会等と連携した観光ガイド等観光受入体制の充実を図ります。 				

50

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	観光入込客数（年間）過去3年平均									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	623,900 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	550,000 人	535,948 人	97.4%							② コロナ禍で観光客が激減する中、日野ひなまつり紀行などが住民主体の実行委員会で開催され、多くの観光客をもてなすことができました。日野駅「なないろ」での日替わり店主によるカフェは町内外にも浸透し、多くの観光客のもてなしスポットとして定着してきました。毎週土日曜日には日野駅観光案内所に「日野観光ボランティアガイド」の方々常駐し、観光客を迎え入れています。	③ 町民が自主的に開催される、様々なまちづくりイベントを応援し、町民の機運の醸成に努めます。観光アプリ「ぐるりん日野ナビ」を活用し、観光地・商店の紹介、スタンプラリー事業、商店の割引クーポンなどを継続的に実施することで新たな観光誘客の獲得に努めます。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・町民の自立的なイベント応援は、今後も増える見込めですか？応援対象となる自主的なイベントが増えるでしょうか？増やすことへの支援や基礎となる施策はないか検討して下さい。 ・3-2「まちぐるみのおもてなし」の取組は、「おもてなしの心で観光受け入れにかかわる人を増やす」ものですが、「増やす取り組み」を具体的に検討して下さい。 ・観光受け入れ体制は、観光ガイドだけに限定されません。観光受入体制の充実にあたっての現状を②（施策の取り組み内容）に、今後の取組を③（施策の今後の取り組み）に記述して下さい。 ・⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえての今後の取り組み）の「今後の課題」でも「まちの魅力を住民が認識されていないこともある」と指摘しているように「住民自身がまちの魅力を認識すること」も重要です。住民自身がまちの魅力を自覚できてこそ、楽しみながらおもてなしの心で観光受入にかかわれます。受入にかかわる人を増やす施策とも大いに関わっていることを認識すると受入体制の充実のための施策も変わると思います。受入にかかわる人の裾野を広げてください。 ・観光アプリ「ぐるりん日野ナビ」は、もっとPRしてほしい。また、商工会などにも協力を呼びかけてほしい。 ・日野駅観光案内交流施設「なないろ」にて、ホームページの情報やさらなるPR動画の放映などに取り組んでほしい。
目標値【R4】	550,000 人									④ ●実施していること ・住民主体イベントや農村体験事業は、まさに日野の資源を活用したおもてなしを主体としたイベントであり、交流人口の増加につながっています。また郷土愛の醸成にも寄与しています。 ●実施できていないこと ・観光による魅力発信は実施しているものの、そこから移住につながる仕組みづくりは出来ていません。 ●実施が困難なこと ・将来の移住につながる情報発信	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・新たな顧客を増やせるよう、アプリ、SNS等を活用した観光誘客による人と人との出会いの機会の創出に取り組みます。 ・町の移住施策と連携した観光事業の実施に努めます。 ●今後の課題 ・まちの魅力を住民が認識されていないこともあるため、定住促進のためにも様々な形で日野の町の魅力を発信していくことが必要です。		
目標値【R5】	580,000 人												
目標値【R6】	610,000 人												
目標値【R7】	650,000 人												

施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	まちの魅力を活かした賑わいの創出
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結びつく、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	地域資源を活かした体験型観光の推進	担当部署	商工観光課
内容	・近江日野商人、自然、歴史文化、町並み等の地域資源を活用した取り組みへの観光誘客を促進します。また、地元商店等と連携した観光の取り組みの促進により、関係人口の増加を図ります。 ・体験型観光については、日野の魅力を生かした体験を推進し、更なる誘致を進めます。また、都市農村交流の意義等を住民に理解してもらえるよう、情報発信に積極的に取り組みます。				

51

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	農泊受入人数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	3,563 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	300 人	0 人	0.0%							② 施策 ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和3年の観光客は約46.5万人で、コロナ前の令和元年（約74.5万人）と比較し、28万人（約38%）の大幅減となりましたが、感染症が比較的安全とされる屋外事業（町歩き、自然散策）を中心とした観光誘客活動に取り組みました。 ・町が今まで取り組んできた農村体験事業についても受入中止を余儀なくされましたが、コロナ後の再開を見据えた受入家庭との結びつきや情報発信に取り組みました。	③ 町の資源（歴史、自然、文化等）を活用した観光誘客を観光協会等の関係機関と連携して推進していきます。また、観光アプリ「ぐるりん日野ナビ」を活用した観光地・商店の紹介、スタンプラリー事業、商店の割引クーポンなどの実施により、商業面からの展開による新たな観光誘客に努めます。 体験型観光は、まずは感染可能性の低い日帰りの受入れ再開からスタートし、安全な受入体制を構築するなかで段階的な事業再開を目指します。	C	・コロナ禍が収束していないので、農泊の受入ができません、KPIは達成できませんでしたが、これはいたしかたないことだと考えます。 ・内部検証は、農泊を中心にすえたKPI、事業構想になっているようにうかがえます。コロナ以前の農泊の成功は特筆すべき実績ですが、今後は、農泊以外の体験型観光の開発に尽力して下さい。現在の日帰りの再開などの経験から新たなコンテンツ開発につなげて下さい。 ・④、⑤（基本目標、基本的方向等を踏まえての取り組み状況、今後の取り組み）は基本目標、基本的方向を踏まえて、3-3「地域資源を活かした体験型観光の推進」の取組を検証して下さい。受入家庭の高齢化等によって受け入れ家庭の確保が困難になっているとのことですが、住民に日野の良さを伝えるなどによって受入家庭を増やす施策を検討し、実施して下さい。 ・コロナ禍でリアルな受入が困難であるからこそ、交流から移住につながる情報発信を工夫して下さい。移住希望者の視点に立った移住を後押しする情報発信を行ってください。 ・日野町には農業体験だけでなく、さまざまな歴史があり、特に近江日野商人の教えなど、もっとPRして人を呼び込んでほしい。 ・近江日野商人館など、町内の人でも知らない人や行ったことがない人もいるため、町内の人もターゲットにPRしてほしい。 ・近江日野商人の教えは、企業訪問でも研修に取り入れるようPRしてほしい。
目標値【R4】	1,000 人									④ 基本目標・基本的方向等を踏まえての状況 ●実施していること ・「人と人との出会い創出」のため、感染症が比較的安全とされる屋外を中心としたイベントなどによる観光誘客活動に取り組みました。 ・体験型観光の再開に向け、受入家庭への研修やモチベーション維持につながる活動を実施しました。 ●実施できていないこと ・交流型観光の実施が困難であったため、移住につながる事業は出来ていません。 ●実施が困難なこと ・体験事業の再開は感染症の状況や国等の動向の影響が大きくなります。	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、将来的な移住につながる情報発信と歴史・自然などの地域資源を活用した交流型観光の推進を図ります。 また、町民が地元へ愛着を持てるよう町の魅力発信に努め、定住化を推進します。 ●今後の課題 ・農村体験事業の受入家庭の高齢化等により、受入家庭数を確保していくことが困難になっています。		
目標値【R5】	2,000 人												
目標値【R6】	3,000 人												
目標値【R7】	4,000 人												

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	地域の移動手段の充実	担当部署	企画振興課
内容	<ul style="list-style-type: none"> 潜在的な公共交通の需要を掘り起こすため、調査・意見交換など実態の把握を進めます。 路線バス・町営バス・デマンドタクシーなどの交通インフラの整備をめざし、だれもが社会生活を快適に送れるよう持続可能な公共交通の仕組みを構築します。 				

52

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	町内の公共交通機関の住民1人あたりの年間利用回数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	12.8 回/人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	12.8 回/人	11.4 回/人	89.1%							令和3年度は、公共交通活性化「わたむき自動車プロジェクト」をスタートし、工業団地での通勤実証実験、通学時のバス運行の試行、住民アンケート等の調査・研究、公共交通の検討の基礎となる人流ビッグデータの収集・分析、町内周遊アプリの開発等に取り組みしました。得られた知見と成果をもとに、具体的な設計を行い、社会実装に近いかたちの実証実験へとシフトしていくことが必要となっています。住民主体の移動支援「おたすけカゴヤ」については、東桜谷地域では、6集落に取り組みが広がり、日野地区小井口でも取り組みが進んでいます。	令和3年度の取り組みの成果やAgoppの人流データをもとに、路線化に向けた工業団地での通勤実証実験に取り組みます。また、町内の事業所と連携し、マイカー通勤を行わない「カーフリーデー」や、住民の生活移動等のニーズに対応したオンデマンド交通の実証実験に取り組みます。通学時のバス運行の試行等について、昨年度の結果をふまえて、持続可能なかたちで実証実験を行います。公共交通の活性化と連動したまちなかでのにぎわいづくり・町内周遊の取り組みを進めます。	A	<ul style="list-style-type: none"> 3-4「地域の移動手段の充実」の取組は、全国の自治体共通の悩みの一つです。実態調査（潜在需要の調査）に基づいて、交通インフラの整備をすすめてください。 3-4「地域の移動手段の充実」の取組が、最も必要としている対象グループを特定するなど、必要度の高さによるグループ分け、その需要への最も適切な対応手段を対応させるなど、工夫をして下さい。 日野町では、「おたすけカゴヤ」など住民主体の先駆的取組も広がっていることを高く評価します。このような住民主体の取組は、住民の公共交通を守ろうとする意識の高揚にもつながると思われれます。3-4「地域の移動手段の充実」の取組内容が、住民ニーズに行政が対応する姿勢で「構築します」と書いていますが、住民と協力しながらといった形で、住民を公共交通の受け身の利用者としてのみ扱わず、費用負担も含めた共助の中で問題解決に取り組むことも留意して下さい。 利用を通じた助け合いになる面も考えましょう。通学、通勤、生活、観光利用と性格の違う公共交通需要をどのように掘り起こし利用を結集するのか工夫が必要です。 交流から移住につながることを考え、交流を促すうえで公共交通の果たせる役割を検討して下さい。 移住の観点のみならず、職場での採用募集時、まず公共交通のことを聞かれるため、充実を図ってほしい。 「わたむき自動車プロジェクト」の取組の見える化を図ってほしい。 子どもの車送迎があたり前になっている一方、負担も大きい。子育て世帯が公共交通をうまく活用できると、子どもが社会のマナーを知る機会にもつながり、良いことだと思う。 公共交通の活性化により、働き方や生活がどう変わるのか、波及効果が見えるとよい。
目標値【R4】	13.0 回/人												
目標値【R5】	13.3 回/人												
目標値【R6】	13.7 回/人												
目標値【R7】	14.0 回/人												

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「だから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	U・I・Jターン受入の充実	担当部署	企画振興課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色ある取り組み等を通じて、子どもたちにまちへの誇りと愛着を持たせ、転出しても継続的に地域と関わることができるつながりづくりを創出します。 U・I・Jターン受け入れの充実が図れるよう、町民への理解を働きかけます。 日野町空家等対策計画に基づき、適切な対応に努めるとともに、空き家の利活用の補助制度に取り組みます。 								

53

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	定住に関する相談件数			空き家・空き地情報登録制度での移住定住者数（累計）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	22 件			142 人									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	23 件	27 件	100.0%	170 人	188 人	100.0%				施策 ② <ul style="list-style-type: none"> 日野町への移住・定住を希望される方へ地域特性や行事、自治会活動の紹介等まちの魅力を伝えるとともに、移住・定住に必要な情報である子育て情報、求人情報等を活用し、相談に応じました。 オンラインによる移住希望者からの相談に応じ、移住専用ホームページ等を活用してまちの魅力を伝えました。 空き家等の所有者に向け、固定資産税課税通知にチラシを同封する等、制度の周知を図るとともに、空き家登録意向調査を実施し、空き家等の流通促進を図りました。 住民に向け、広報紙やチラシ等で制度の周知を図るとともに、移住前に自治会役員との顔合わせの場を設定し、移住者の自治会活動への理解や地域住民が移住者を迎えやすい体制づくりを図りました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> 出前講座や行政懇談会、自治会との懇談の機会に、空き家情報登録制度を通じて、移住者を受け入れることへの理解を促すとともに、自分たちが暮らし地域の魅力を考え直す機会となるよう働きかけます。 空き家利用希望者数に対して、空き家登録物件数が不足している状況が続いていることから、空き家物件登録数の増加に向け、さらに地域との協力体制を構築するほか、空き家物件を手放す際の課題を解決できるような取組を進めていきます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定住相談件数、移住定住者数ともに順調に増加していることを高く評価します。 3-5「U・I・Jターン受入の充実」の取組の1つ目は、日野町内向けの取組のことであり、日常的に行われていることから、特段記述がないのかもしれませんが、特徴的な事例を挙げて内部検証を行って下さい。 3-5「U・I・Jターン受入の充実」の取組は、町内向けの取組と町外向け（移住希望者向け）取組に分けられると考えられますが、内部検証では町外向けの取組について行われています。基本的方向の2つ目の事項は町内向け、3-5「U・I・Jターン受入の充実」の取組内容の一つ目が町内向けの取組です。町内向け取組についても内部検証を行って下さい。 全般的には、U・I・Jターン受け入れに必要な取組がなされていると評価します。移住定住者を受け入れる地域の側への取組もなされているかと思えますので、内部検証でも位置づけを行って下さい。 町内の数多くの企業が、外国人やアウトソーシングに頼っているなか、事業を続けるためにも、地元企業にスポットを当て、手を取り合って（労働者）人口を増やしてほしい。 日野町への移住者のなかでも、特徴的な事例を紹介できるよう工夫してほしい。
目標値【R4】	27 件			185 人									
目標値【R5】	27 件			200 人									
目標値【R6】	27 件			215 人									
目標値【R7】	27 件			230 人									

基本目標・基本的方向等を踏まえての状況

④

- 実施していること
 - 日野町への移住・定住を希望される方が、暮らしの情報や空き家・空き地の情報をわかりやすく閲覧できるよう、ホームページ等の情報発信について改善したほか、移住者向けのパンフレットや移住者の体験談を紹介し、日野町での暮らしをイメージしやすくなるよう工夫しました。
- 実施できていないこと
 - 移住に関する問題把握や移住者同士のつながりをつくるために実施していた移住者との懇談会が、コロナ禍により、開催できませんでした。
- 実施が困難なこと
 - 日野町での暮らしを具体的にイメージできるようにするためには、移住の総合相談窓口のほか、移住体験できる仕組み、移住後のアフターフォローなど一体的な体制づくりが必要であると考えますが、人的、財政的な課題から、体制の確立ができていません。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - まちの「だから」を生かした人と人の交流や子育て支援の充実を積極的にPRするとともに、日野町での暮らしがイメージしやすくなるよう関係者と連携し、さまざまな機会を通じて情報発信していきます。
- 今後の課題
 - 地域の行事、イベントや四季折々の風景など、まちの魅力を発信することで、移住希望者にまちの魅力を伝えるとともに、受け入れ地域が改めてまちの誇りを感じられるよう、相互に地域への愛着が増していくような働きかけを進めていくことが必要です。
 - 地域の行事やイベントの情報発信や移住者のネットワーク等から、地域住民とつながり、日野に住みたいと思うような取組をすすめるとともに、実際に日野町での暮らしが体験できるお試し住宅等の取組を行う体制づくりが必要です。

施策検証シート

基本目標No.	3	基本目標	まちの魅力を活かし、交流を育み新しい人の流れをつくる	取り組みの方向	居心地のいい都市基盤の整備
めざす姿	まちの「たから」を活かし、観光などで「人と人」の出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで交流から移住・定住に結び付く、魅力あるまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○地域資源を活かした観光や田舎体験等の交流を通じ、日野町に関心を持つようとする関係人口を増やし、住民との交流により、将来の移住につながるような情報発信や事業の拡充を図ります。 ○住民に日野町の良さを伝えることで、日野町に生まれてよかった、住んでよかったと思える地域となり、愛着を呼び起こし、その気持ちを育むことにより定住を促進します。 ○移住希望者の視点に立ち、日野町での暮らしがイメージでき、移住を後押しできるような情報発信と支援の充実を図ります。 ○遊休地や空き地等が、移住と定住につながるよう利活用と情報発信を図ります。				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信	担当部署	企画振興課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 町の様々な取り組みやイベント、おすすめスポット等、町民自らがこの町の良さを知り、発信できるための情報を共有する仕組みづくりに取り組みます。 収集した情報を、住民や企業と行政が連携し、SNSを活用したタイムリーな発信ができるよう仕組みづくりに取り組みます。 								

54

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	「日野め〜る」の登録者数			町ホームページアクセス数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	3,157 人			3,065,615 アクセス									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	3,200 人	3,954 人	100.0%	3,100,000 アクセス	4,232,402 アクセス	100.0%				② <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、インターネット上の情報を暗号化し第三者からの悪用を防ぐことを目的にSSL化（簡易バージョン）対応を行いました。来年度は、ホームページリニューアルに合わせて常時SSL化にします。 「コンテンツ制作ルール」を策定しました。 ホームページを利用される方が目的を達成できるコンテンツとなるよう、ホームページ運営委員会にてコンテンツの中身の見直しを行いました。 コロナ禍でも気軽に健康づくりや子育てについて学べるよう、自宅でもできる健康体操や子育て講座等の動画配信を行いました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ホームページを閲覧する端末の種類に問わず、また高齢者や外国人の方など誰しもが使いやすいサイトとなるようリニューアルを行います。 滋賀県で導入を検討されているデジタルプラットフォームを効果的に活用できるよう検討を進めます。 滋賀県で導入を検討されているデジタル地域コミュニティ通貨を効果的に活用できるよう検討を進めます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 3-6「地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信」の取組は、役場としては仕組みづくりであり、情報の収集・発信を住民が行うことによって、地域の活力につなげようとする取組だと思えます。現在は、仕組みづくりに力点があるのだと推察しますが、町民自らが良さを知り発信するためのもう一工夫が必要だと考えます。 発信するグループを、毎年講習会を開いて組織化するなど検討して下さい。公民館の学習教室をつくるのも一つの方策です。 ③（施策の今後の取り組み）、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた今後の取り組み）で言及しているデジタル地域コミュニティ通貨の取組は、3-1「商工業の活性化」とも連携させることも可能です。 町ホームページは、コロナ禍において、企業でもよく見るようになり、ワクチンメーターなど見やすくなっているが、古いままのところもあり、さらに見やすくなるよう充実してほしい。 スマホで何もかもする時代であり、タイムリーな発信ができるよう進めてほしい。 デジタル地域コミュニティ通貨「ピワコ」は、事業所内でも話題になっており、PRを図ってほしい。
目標値【R4】	3,970 人			4,250,000 アクセス						④ <ul style="list-style-type: none"> ●実施していること <ul style="list-style-type: none"> 関係人口や移住定住を促進するため、オーディオドラマの配信やオンライン移住相談を実施しました。 総務省により新たに創設された「地域おこし協力隊インターン」制度を活用し、3名の方が地域おこし協力隊として活動されています。 ●実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> SNSやアプリ、デジタルプラットフォームの活用について検討を進めているところです。 ●実施が困難なこと <ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊の隊員が任期終了後も継続して日野町に住み続けられるような仕組みづくりが必要でです。 	⑤ <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて <ul style="list-style-type: none"> デジタルプラットフォームを活用し、地域活性化に関するプロジェクトやイベント情報等を発信し、かつ参加された方と双方向のコミュニケーションを深め、関係人口・移住定住につながるような取り組みを進めます。 デジタル地域コミュニティ通貨を媒体に、日野町を訪れる、巡る人を増加させ、かつ町内外の方が楽しみながらつながりを深めることで、新たな創発と自律的な地域の活性化をめざします。 ●今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 日野町を訪れた人が、町内を巡る仕掛けづくりが必要です。 		
目標値【R5】	3,980 人			4,300,000 アクセス									
目標値【R6】	3,990 人			4,350,000 アクセス									
目標値【R7】	4,000 人			4,400,000 アクセス									

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	1	具体的な取り組み	次代を担う人材の発掘	担当部署	生涯学習課	企画振興課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・まちへの愛着や誇りを感じ、地域の困りごとを解決するため、住民一人ひとりが社会活動や生活のなかで培ってきた豊かな経験や知識を活かし、共に知恵を出し合い、共に汗をかき人づくりを推進します。 ・ボランティア活動の楽しさ、やりがいを感じてもらおう機会を増やすため、小・中・高等学校や大学と連携し、ボランティア事業、地域づくり事業の開拓と、人材の発掘と育成に努めます。 								

55

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名	まちづくり計画の策定自治会数（累計）			公民館利用者数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R1】	16 自治会			86,695 人										
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和3年度	20 自治会	21 自治会	100.0%	87,130 人	58,335 人	67.0%				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館では、実行委員体制を作り地域の人材による運営をしていますが、年々実行委員の引き受け手がない状況となってきています。行事のためのスタッフとなるだけでなく、地域の困りごとを解決するため、住民一人ひとりが社会活動や生活のなかで培ってきた豊かな経験や知識を活動に活かせる工夫が必要です。 ・地域住民による主体的なまちづくりを推進するため、地域の課題や解決策をまとめたまちづくり計画の策定を支援しました。また、令和3年度は、一般コミュニティ助成事業の申請に伴い、3団体の申請を支援し、すべての団体が採択を受けました。 ・これからの地域を担う若い世代を含んだ多様な世代に対し、自分の住んでいる地域に関心を持ち、新たな切り口からまちづくりに参画できるよう「ひの若者会議（仮）」を開催しました。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区公民館の実行委員は、行事のためのスタッフとなるだけでなく、地域の困りごとを解決するため、住民一人ひとりが社会活動や生活のなかで培ってきた豊かな経験や知識を活動に活かせるようにしていきます。また、各種行事の中でも、単に人集めの行事をこなすだけでなく、地域の課題解決を行事の機会を生かして図っていくよう取り組みを進めます。 ・町民自らが地域の課題を把握・整理し、より住みよい地域づくりを進めるために、まちづくり計画の策定支援を進めるとともに、策定した自治会等がまちづくり計画に沿って進めた取組を評価する仕組みをつくり、更なる地域課題を解決しようとする機運の醸成を図ります。 ・これからの地域を担う若い世代を含んだ多様な世代に対し、自分の住んでいる地域に関心を持ち、新たな切り口からまちづくりに参画できるよう「ひの若者会議（仮）」を開催し、今後のまちづくりに関わる層を広げます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひの若者会議」の開催をするなど、次代を担う人材の発掘が取り組まれていることを高く評価します。 ・まちづくり計画の策定を支援するとともに、そのフォローアップを行ったり、「まちづくり計画」策定自治会の交流の場をつくり、相互に課題の共有やグッドプラクティスの共有を行うことで、自治会の力量が高まると思います。その交流会に、計画策定を考えている自治会にも参加してもらおうとまちづくり計画が加速するのではないのでしょうか。 ・内部検証がKPIの指標に引きずられているように見受けられます。具体的取組内容はもっと多岐にわたるのではないかと推察します。 ・行政懇談会等の聞き方を工夫して下さい。住民アンケート等をとるときでも一世帯1枚ではなく、世帯人数分を回答してもらおうなど、男女を問わず意思表示できる場、話し合う場を地域につくることが必要です。 ・住民アンケートを世帯全員に回答してもらおうと、これまで世帯主が出していた意見等ではなく、これまで出てこなかった内容の意見等が出てくるため、行政懇談会等での意見聴取も工夫してほしい。 ・若者会議では、20歳代～40歳代と年齢幅があり、また、人それぞれのスピードがあるため、発言しにくい部分があり、現実離れた話しをしていると感じている人もいます。若者会議での横のつながりも大切であるが、一方、若者会議のような機会がなかった人などの参画を考えることがすそ野を広げることにつながる。 ・子ども食堂に興味がある日野高生が寺子屋食堂の事業に参加してくれているが、町内の子どもではなく、町内の子どもにも興味を持って活動していけるような取組が必要であり、その先に若者会議のような取組への参加にもつながるのではないかと。 ・ファミサポで関わる若い世代の母親も意見を持っている人は多いが、それを出し合う場に一歩踏み込んで参加する人は少なく、そのような人が行きやすい場づくりが大切であると感じる。 	
目標値【R4】	21 自治会			87,348 人										
目標値【R5】	22 自治会			87,565 人										
目標値【R6】	23 自治会			87,783 人										
目標値【R7】	24 自治会			88,000 人										

④

- 実施していること
 - ・まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決につなげられるよう、地域資源を活かした取り組みをしています。
 - ・各地区行政懇談会や自治会等で、人口シミュレーションの協議資料を作成し、持続可能な地域づくりのため「年1%のU/Iターン受け入れの取り組み」を提案し、各地域で話し合っていたりよう啓発しました。
- 実施できていないこと
 - ・次代を担う人材づくりのため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしてもらおう機会づくりができていません。
 - ・自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる仕組みづくりができていません。
 - ・行政懇談会、出前講座等での話し合いでは、参加者の年齢層等に偏りがあるため、今後の住民自治を担う世代も含め、地域に暮らしみなさんの意見が活かせる地域づくりが、重要であると考えますが、多様な世代にアプローチした進取のまちづくりにかかる事業展開ができていません。
- 実施が困難なこと
 - ・従来どおりの地域活動の中では、役の担い手が不足している状況です。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - ・次代を担う人材づくりのため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしてもらおう機会を創出します。
 - ・自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる仕組みを作っていきます。
 - ・顔の見えるつながりを活かし、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援し、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みから、安心・安全な地域づくりを推進します。
- 今後の課題
 - ・町民自らが地域の困りごとを発見し、性別や年齢等に関係なく、多様な方が意見を出せ、自分たちの地域を自分たちで暮らしやすくするという意識を醸成することが必要です。
 - ・これまでの地域づくりの形にとらわれず、課題の解決に向けた新しい取り組みや人との交流・連携を含めて、コミュニティ活動につなげていく必要があります。

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	2	具体的な取り組み	市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり	担当部署	生涯学習課	企画振興課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民団体やボランティア、企業・事業所等多様な担い手による主体的なまちづくりを推進するため、団体同士の交流ができる仕組みを作り、地域の課題解決に向けた、協働のプロジェクトの創出等に取り組みます。 								

56

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	団体同士の交流の機会の創出（累計）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	0回												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	1回	2回	100.0%							<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度から「提案型活動事業」を各公民館が中心となり取り組みました。公民館を利用する各種団体、個人が実行委員会を組織し、地域課題解決のための事業を東桜谷、西桜谷の2地区が実施しました。 ・子育て環境がよりよくなるよう孤立しがちな人や家庭をつなぐこと、町内で活動されている団体同士をつなぐことを目的に（一社）こそだてがめっちゃたのしくなる会、NPO法人スーブル、少年センター、社協、子ども支援課の共創による「日野町子育て応援フードドライブ+α」が実施され、51世帯（137人）に食品や日用品、学用品を届けることができました。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「提案型活動事業」を7地区とも取り組めるよう、推進していきます。 ・地域で活躍している団体等の取組について、積極的に情報収集し、情報発信することで、更なるコミュニティの活性化を図ります。 ・地域で活躍している人同士が、地域課題を共有し、分野の垣根を越え、話し合える機会を設け、地域の課題解決に向けた、協働のプロジェクトの創出等を目指します。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4-2「市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり」は、多様な担い手による主体的なまちづくりを行うものですが、内部検証では、7地区ごとに公民館を中心に「提案型活動事業」を推進するようにみえました。公民館が中心となった取組も大変すばらしい取組ですが、公民館以外の起点となる取組も促すように工夫をして下さい。 ・4-2「市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり」は、4-1「次代を担う人材の発掘」とも密接に関連しています。次代の担い手の発掘と市民活動団体の活躍を促す取り組みとうまく連動して事業効果を高めて下さい。 ・自治会や町内会で拾い上げられない、個人や少数グループで活動する人への支援や火付け役が必要である。
目標値【R4】	2回												
目標値【R5】	3回												
目標値【R6】	4回												
目標値【R7】	5回												

④
基本目標・基本的方向等を踏まえての状況

⑤

施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	3	具体的な取り組み	関係人口の創出	担当部署	企画振興課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 他市町から日野町に関心を持ち、まちの資源を活かした取り組みにより、地域の人との交流により関心が深まり、将来の移住につながるような関係人口の創出に取り組みます。 リモートワーク等の進展に伴い、働き方が多様化するなかで、二拠点居住やワーケーションのようなライフスタイルに対応した取り組みを進めます。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	ふるさと応援寄附の寄附者数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	197 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	400 人	348 人	87.0%							② ・まちの魅力ある特産品をふるさと納税の返礼品として、ポータルサイトを活用し、まちの魅力の発信の強化に努め、日野町に関心を持っていただけるよう努めました。 ・地域おこし協力隊に3名着任いただき、地域資源を活用した体験型コンテンツの企画、実施、また、プロモーション動画の制作、SNSによる観光・自然・文化・歴史・特産品などの情報発信の企画・運用などの活動に取り組んでいます。	③ ・さらに、ふるさと納税の返礼品となるまちの魅力ある特産品等を増やすとともに、ポータルサイトを増やし、まちの魅力の発信を強化し、日野町に関心を持っていただけるよう努めます。 ・関係人口の創出と拡大に向けて、着任いただいている3名の地域おこし協力隊を中心に、まちの魅力を活かした取組を進め、日野町に魅力を感じる人を増やしていきます。	B	・②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）において、二拠点、ワーケーションなどへの内部検証がなされていまして2点とします。関係人口の創出は、多様な手法・施策があると考えます。内部検証は、その中でも「ふるさと納税」と「地域おこし協力隊」に特化して評価されていますが、他の施策の可能性についても内部検証を行って下さい。 ・地域おこし協力隊の方々の取組をテーマに特産品の振興など地域の活力につなげるようとしている点を評価します。今後は、住民自身によって関係人口の創出にかかわるような取組が自発的・主体的に行われるように工夫して下さい。 ・二拠点、ワーケーションの方々は、移住者とはまた違った感性をお持ちではないかと推察します。二拠点、ワーケーション者にターゲットをしぼった調査（ニーズの把握など）を行い、的確な施策を工夫して下さい。
目標値【R4】	600 人									④ ●実施していること ・地域おこし協力隊の活動に対する具体的なイメージを持って着任できるよう、地域おこしインターン制度を活用し、町の魅力発信を通じて、インターン生が日野町になじむとともに、地域住民との交流を深めました。 ●実施できていないこと ・二拠点居住やワーケーションのようなライフスタイルに対応した具体的な取り組みを進めることができていません。 ●実施が困難なこと ・全国的に二拠点居住やワーケーションのような新たなライフスタイルに対応した取組が進むなか、日野町独自のプロモーションを行うことに難しさがあります。	⑤ ●基本目標、基本的方向を踏まえて ・日野町の魅力である、地域の人と人のつながりを、特産品の振興や地域おこし協力隊の取組から深め、さらには地域の活力につながる取組となるよう進めていきます。 ●今後の課題 ・リモートワークの進展等、時代の流れのなかで、日野町の住民がくらしやすい地域となるための将来像から取組を検討し、着実に進めていく必要があります。		
目標値【R5】	800 人												
目標値【R6】	1,000 人												
目標値【R7】	1,200 人												

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	住民が主人公の地域形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	4	具体的な取り組み	多文化共生の推進	担当部署	企画振興課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人の方が地域の一員として安心して暮らせるための相談体制づくりと地域づくりのための啓発活動や交流の場づくりに取り組みます。 								

58

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証
指標名	「語学講座」の受講者数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	23 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	25 人	20 人	80.0%							<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内在住外国人が安心して暮らすとともに、地域住民と交流するきっかけづくりとして、広報ひのにおいて外国人にも伝わりやすい「やさしい日本語」を周知しました。また、外国人向けの情報については、町のホームページにおいて「やさしい日本語」により情報発信をしました。 ・英会話教室を10回、韓国語講座を5回開催し、多文化共生の促進と外国人との交流の場づくりを行いました。 ・国際親善協会と連携し発行した機関紙「友好の輪」において、町内在住外国人と地域住民がともに暮らすために取り組んでいる地域や学校の取組を掲載し、地域で活かしていただけるよう啓発を行いました。 ・国際親善協会と連携し、町内在住外国人と一緒に外国の料理を調理・販売することで、町内在住外国人と地域住民が交流できる場を提供しました。 ・多文化共生の推進として、多文化共生講演会の開催を予定していましたが、コロナ禍のため中止となりました。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内在住外国人が地域の一員として安心して暮らせるよう、町内在住外国人の文化や慣習等を「広報ひの」やホームページで周知し、理解促進を図るための啓発を行います。 ・外国人に必要な情報を引き続き提供できるよう、情報発信の強化に努めます。 ・引き続き、外国語講座を開催し、多文化共生の促進と外国人との交流の場づくりを行います。 ・引き続き、町内在住外国人等と地域住民との交流の場づくりに取り組みます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人と住民の交流の場づくりを単なる交流とせず、食を手掛かりにして食育もあわせて実施している点など高く評価します。在住外国人の方に、日野の郷土食や文化を知ってもらう機会もつくり、相互に文化を学びあうことを進めて下さい。 ・在住外国人の方に日野町の歴史や文化を知ってもらうための平易な日本語、英、中などの翻訳による冊子を作成し、ホームページでも公開することも検討して下さい。 ・在住外国人の方に日野の良さを知ってもらおうと住民主体で取り組むことが、町民自身の日野町への理解を深めることにもなります。日野高校との交流も日野高生が外国の人に伝えることを取り組んでもらえると、次代の担い手育成につながるかもしれません。 ・ほけっとの利用者にも在住外国人がおられるが、言葉が通じにくい、ルールが伝わらない。在住外国人もほけっとに行きやすくなり、日野町に住みやすくなるためにフォローできるものを考えていく必要がある。 ・ブラジル人は歴史も長く、関わりは深い、ベトナム人は歴史が浅く、少しずつ地域と馴染んできているが、行政が主体となり、企業が後押しし、地域も参画するなかで、日本語勉強会などを開催してほしい。 ・在住外国人への日本語の理解を深めることも必要であるが、その子どもへは母語の教育も必要である。 	
目標値【R4】	25 人												
目標値【R5】	27 人												
目標値【R6】	30 人												
目標値【R7】	30 人												

④

- 実施していること
 - ・町内在住外国人が利用する地域の公園について、外国人が利用方法を理解できるよう、住民自らが発案した外国語のポスターの作成に協力するとともに、日野町国際親善協会と連携し機関紙「友好の輪」に取組を掲載し啓発を行うことで、地域のコミュニティ活動を支援しました。
 - ・日野高校にて開講された「日野チャレ体験学習」における「多様性を認める社会づくり」講座において、日野町国際親善協会と連携し高校生と町内在住外国人との交流を図りました。高校生が外国人と直接交流することで、多様性など互いの違いを認め合い共生していく多文化共生について考えるきっかけと、人と人がつながることにつながりました。
 - ・町内在住外国人と一緒に外国の料理を調理・販売し、町内在住外国人と地域住民が交流できる場を提供することで、町内在住外国人と地域住民との交流から、新たな人と人とのつながりと食育を推進しました。
- 実施できていないこと、実施が困難なこと
 - ・町内在住外国人が地域住民と交流し新たな人と人をつながりを生むために、日本語教室が有効と考えますが、外国人のニーズをはじめ開催手段や運営方法等仕組みの検討が進んでいません。
 - ・外国人のニーズを把握できる仕組みづくりが確立できていません。

⑤

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - ・町内在住外国人と地域住民がともに安心して暮らしていくため、講演会等を開催し、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係のもと地域の中でともに生きていく「多文化共生社会」について考えるきっかけを提供します。
 - ・交流から新たな人と人をつながりを育むため、町内在住外国人等と地域住民との交流の場づくりに取り組みます。
 - ・町内在住外国人と地域住民がともに暮らすために取り組んでいる地域の取組を周知し、他の地域にも取組が広がるよう啓発することで、町内在住外国人と地域住民がともに安心して住み続けられるまちを目指します。
- 今後の課題
 - ・町内在住外国人と地域住民が交流できる場等の情報を外国人に提供できる情報伝達手段を検討する必要があります。
 - ・外国人が安心して住み続けられるよう、外国人の困り事やニーズを把握できる仕組みづくりを検討する必要があります。

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	5	具体的な取り組み	支え合いの仕組みづくりの促進	担当部署	福祉保健課	長寿福祉課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れた地域での暮らしを守るため、地域の住民みんなで助けたり助けられたりの「おたがいさま」の意識を高め、地域の福祉の関係者が地域福祉を気軽に担える体制づくりを推進するとともに、社会福祉協議会や地区社協等と連携し、助け合いの地域づくりを推進します。 ・生活支援コーディネーターを中心に地域での話し合いに仕組み、地域の商店や民間事業者の協力のもとで、地域の実情に見合った体制の整備に取り組みます。 ・地域住民、多様な関係者とともに、高齢者、障がい者、子ども、子育て家庭、生活困窮者、悩みをかかえる若者等を「丸ごと」支え合う地域づくりに取り組みます。 								

59

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	ひきこもってしまった人が居場所を通じて就労（福祉就労含む）につながった人数			ひきこもってしまった人の居場所を利用する人数			ボランティアの方が障がいのある方と共同で事業を行う回数			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	0人			5人			0回						
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	1人	1人	100.0%	3人	4人	100.0%	1回	0回	0.0%	<p>施策 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東桜谷おしゃべり会」において実施されている、移動支援事業（おたすけカゴヤ）や、食事会（おしゃべり食堂）について、社協や生活支援コーディネーターが窓口となって、県外や町内の他団体からの問い合わせ等に対し、情報交換会の場を設定され、おしゃべり会の役員と一緒に事業内容等の説明をされました。 ・西大路地区では、地区社協、町社会福祉協議会、生活支援コーディネーターが連携・協力し、地区住民の参加による地域支え合い活動についての話し合いを開催され、「地域の良い取組と困りごと」をテーマにグループワーク研修を实际されました。 ・町内の「地域交流サロン」において、各サロンでの様々な取組を情報共有され、サロンの更なる取組の発展に努めています。 ・令和3年度からNPO法人に「ひきこもりサポート事業」を委託したことで、相談を含むひきこもりに関する支援体制の充実が図れました。 ・県の精神保健福祉センターと連携し「ひきこもりに関する啓発チラシ」を作成、全戸配布したことで相談窓口の明確化が図れました。 ・ボランティアの方と障がいのある方との共同事業については、コロナの影響もあり実施することが出来ませんでした。 <p>基本目標・基本的方向等を踏まえての状況 ④</p> <ul style="list-style-type: none"> 《実施していること》 ・支え合いの機運醸成・情報共有の場として、サロン活動者の交流会を開催しています。 ・地域交流サロンについては、生活支援コーディネーターが取材を行うとともに、社会福祉協議会の広報や出前講座の中でPRを行っています。 ・東桜谷地区においては、地域の住民有志が中心となり、支え合い活動を推進されており、社会福祉協議会とともに伴走支援に取り組んでいます。西大路地区においても、地区社協、社会福祉協議会とともに、研修会の企画、支え合いについて話し合いを進めています。 ・個別ケースでの他部署、他機関連携 ・分野別の事業実施 《実施できていないこと》 ・地区やサロンでの取り組みなど、住民主体の支え合いの取り組みについて、さらに多くの地区への展開を図ることが必要です。 ・制度の狭間となるケースへの対応 ・分野をまたいだ事業展開 《実施が困難なこと》 ・生活支援コーディネーターの人材確保が困難な状況です。担い手の発掘が難しい。 ・重層的な政策立案、予算管理 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者交流サロン等のサロン活動に対し、生活支援コーディネーターと連携しながら、感染症対策について周知を行います。 ・生活支援コーディネーターが中心となって、社会福祉協議会の広報の中の「ちいきの輪」や出前講座などで情報発信・啓発を行い、相談や立ち上げ支援を行います。 ・東桜谷地区、西大路地区また地域交流サロンでの支え合いの取り組みを推進するとともに、他の地区においても、支え合いや話し合いのきっかけづくりを進めます。 ・ひきこもり実態調査の実施により「隠れたひきこもり対象者」の発掘を行い、訪問支援等につなげていきます。 ・ボランティアと障がいのある方の共同事業については、コロナの終息を待つのではなく、実施可能な内容を工夫していきます。 ・ひきこもり対策や障がい者施策は、支え合いの仕組みづくりの一部を担うものであり、高齢者や子育て等の他の施策も含めて、重層的に支援できる体制を整えていきます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「支え合いの仕組みづくり」として、東桜谷、西大路地区の先駆的取組を町内に広められるように努めて下さい。他の地区の福祉関係者、地域のリーダーの方々との情報共有がなされているようですが、広がりにくい要因を分析し、対策を考えて下さい。既に一定活発に行われている自治活動を基盤にしながらも、現在直面している地域課題に対応できる、地域自治活動への更なる進化、発展が必要です。地域自治活動の質的転換につながる仕組みづくりが必要です。 ・KPIに設定されている指標の達成は、個別的課題としては重要ですが、4-5「支え合いの仕組みづくりの促進」の対象は、高齢者、子育て世代への支援など幅広い課題です。「個別的な支援対象」ととらえるのではなく、「住民が暮らし続けると起きる人生の様々なこと」を支え合うと総合的にとらえ直して、施策の工夫を行って下さい。 ・内部検証からは、個別的政策課題への取組がなされていることが分かり、活発な活動がなされていることは評価します。一方で、「支え合い」の対象の広さや担当する課も多すぎて役場と地域のパイプも多い。パイプは多いが横の連携も難しくかったりするのではないのでしょうか。「重層的支援」を作ることは容易なことではありませんが、構築に向けて課題を整理し、一つひとつ解決をはかって下さい。そのためには、役場内の横連携を深めて、効果を促進する取組に加えて、地域内の連携を深めることも必要です。
目標値【R4】	1人			4人			1回						
目標値【R5】	2人			5人			1回						
目標値【R6】	2人			6人			1回						
目標値【R7】	3人			7人			1回						

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	6	具体的な取り組み	食育・地産地消の推進	担当部署	福祉保健課	農林課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから高齢者まですべての年代の方が望ましい食習慣を実践するとともに、地場産物を活用した取り組みを実施し、地域の食文化や伝統を学ぶための食育に取り組みます。 安心安全な農産物を生産し安定供給できるよう生産者の技術向上の促進に取り組むとともに、直売所や学校給食への地場農産物の供給拡大が図れるよう農業振興の支援を行います。 子どもや消費者に対して、食育や農業体験等を通じて地産地消への認識と理解を図ります。 安定した地産地消を推進するため、供給体制の確立に向け、町内生産者や関係機関との連携を図ります。 								

69

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	生活習慣の改善に関心を持っている、または実施している住民の割合（健診アンケートより）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	72.6 %												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	73.0 %	74.0 %	100.0%							② <ul style="list-style-type: none"> ・わたむきの里が、担い手のいなくなった田んぼを借り受け、お米作りを行うことで、耕作放棄地にならず、作業所の工賃アップが図れています。 ・基本健診・国保特定健診の受診者に対し検査結果のお返し会を実施し、日頃の食生活の改善について管理栄養士が指導・助言を行っています。 ・日野町の健康課題として、高血圧、高脂血症、循環器系の疾患が多いことから、「減塩・野菜350グラム摂取」をテーマに取り組みを進めました。 ・地場産物を使用した献立や、郷土料理の献立を取り入れ、給食を通じて地元の食文化・歴史・伝統を学ぶ取り組みを行っています。 ・農業委員会の活動や、たんぼのこ体験授業を通じて小学校と連携し、農作業の栽培から収穫までの体験や収穫された作物を使った調理体験を通じて、地域の伝統的な食文化、地産地消について学ぶ取り組みを行いました。 ・食育ほ場で栽培・収穫した野菜を小中学校の給食で使用しています。 ・東近江地域農業センターを通じて、県・JA・他市町と連携し、営農・農作業安全・濁水防止等の啓発、近江米や野菜等の栽培技術研修会の取り組みを行いました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・作業所と地域農家の共同で農地を守り続けるための取り組みを行います。 ・食育学習を継続し、保育園、幼稚園、小学校、中学校等と連携していきます。 ・健康推進員と協力し、地域への啓発活動を継続します。 ・食育学習と啓発活動を通じ、住民のみなさんが、乳幼児期から成人期まで、繰り返し、食に関心を持ち、考える機会を作っていきます。 ・学校給食で、地場産物の利用を通じて地元の食文化・歴史・伝統を学ぶ取り組みを行います。 ・農業委員会や小学校と連携し、農作業体験を通じて、地域の伝統的な食文化、地産地消について学ぶ取り組みを行います。 ・東近江地域農業センターを通じて、県・JA・他市町と連携し、営農・農作業安全・濁水防止等の啓発、近江米や野菜等の栽培技術研修会の取り組みを行います。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・わたむきの里のお米作りの取組、今後の作業所と農家が共同して農地を守ることから、食育、地産地消の推進を明確に検証しましょう。農福連携で農地を守り、日野の子どもたちの食育、健康につながる象徴的な取組として磨いて下さい。 ・学校給食を食育の起点として様々な取組がなされている点を評価します。児童、生徒の農体験、食育が「まちへの愛着や誇り」につながり、次代を担う人材となってもらえるように工夫して下さい。生徒、児童を受け身の体験に終わらせず、リーダーに育てる工夫をして下さい。 ・直売所への地場農産物の供給による農業振興支援についても内部検証を行って下さい。 ・住民が消費者として、地産地消を積極的に行うように啓発を行って下さい。単なる啓発ではなく、効果が見えるように工夫して下さい。買い物調査や地域内経済循環の効果を調査することで、行動の変化が地域にどのような効果をもたらすのかを知ってもらい、自発的な消費行動を増やせませす。2-4「地域内経済循環の推進」とも連携しながら施策をすすめてください。 ・政策効果の測定は、KPIだけでなく、成果を総合的に測定するなど工夫して下さい。住民（大人）、児童、生徒の意識や行動の変化を的確にとらえる調査などで政策効果を測定することもできます。 ・世代間で、食の違いや生活リズムの違いがあり、外食やスーパーの惣菜でご飯を済ます人もいいる。スーパーの惣菜コーナーにも地産地消を売り込むなど取組をすすめてはどうか。 ・2-4「地域内経済循環の推進」に掲げられる商工会等の町内の消費拡大と同様、地産地消による地域内経済循環の分析について、なかなか進まない実情があると思うが、推進してほしい。
目標値【R4】	73.5 %												
目標値【R5】	74.0 %												
目標値【R6】	74.5 %												
目標値【R7】	75.0 %												

施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	7	具体的な取り組み	心身の健康づくり	担当部署	福祉保健課
内容	<ul style="list-style-type: none"> 健康推進員の養成とその活動を支援し、「自分の健康」、「家族の健康」、「地域の健康」へと健康の輪を広げ、住民全体の健康意識を高めていけるよう取り組みます。 健（検）診の実施と生活習慣病を予防し、健康でいきいきと暮らせるよう、住民の健康意識を高め、生涯にわたり継続した健康づくりに取り組みます。 心の健康や精神疾病に関する正しい知識や対策等の普及に努めるとともに、悩んでいる人に寄り添い、かかわりを持つことで「孤立・孤独」を防ぐことができるよう取り組みます。 				

61

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	特定健診受診率									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	39.4 %												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	39.5 %	34.1 %	86.3%							施策 ② <ul style="list-style-type: none"> 健康推進員養成講座を実施しました。 健康推進員による学校・幼稚園等での食育活動を実施しました。 特定健診を実施するとともに、未受診者に対し通知による受診勧奨を行いました。 受診者に対し日常生活における食生活改善のため管理栄養士による保健指導を行いました。 コロナ禍にあって少しでも受診の機会が増えるよう、個別健診の開始時期を早めるため医療機関と調整を行いました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> 健康推進員養成講座に取り組みます。 健康推進員による学校・幼稚園等での食育活動に取り組みます。 未受診者に対し、通知だけでなく電話による勧奨にも取り組みます。 滋賀県が実施する受診勧奨（ナッジ理論に基づく行動変容）の取り組みに参加します。 受診の機会を増やすため、医療機関だけでなく健保組合が実施する健診枠に特定健診者が受診できるよう調整を行います。 受診者が増えるよう、各公民館で実施する健診時に二重の骨密度測定（無料）をあわせて行います。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 内部検証において、健診の実施、健康推進員の養成、活動支援がなされていることを確認しました。取組を評価します。 体の健康づくりだけでなく、4-7「心身の健康づくり」は、心の健康への取組もありますが、内部検証では確認できません。心の健康部分を書いているので、②、③、④、⑤（内部検証）の全ての評価を2点としました。 健康推進員の養成と活動は、住民の健康への関心、意識を高め、行動を変えて、健康づくりに欠かせないものとなるでしょう。健康推進員の養成が、R3は12名ということですが、この数をもっと増やすことを検討して下さい。 特定健診の受診率をアップさせるために、未受診の要因を調査分析し、受診率向上の効果的施策を工夫して下さい。基本目標④の基本目標、基本的方向を踏まえると、受診率が現状程度であることを地域課題ととらえて、健康についても住民主体の学び、ひろげる取組が後押しするように、健康推進員と協力しながら取り組んで下さい。 地域の取組が、健康状態、体力の向上につながっていることを可視化する工夫を行って下さい。 以前に健診を受けて、特に問題がなかったことから、継続して健診を受けない人も多いのではないかと。アンケート調査等を実施し、実態把握をしてはどうか。 健診を受診することと平均寿命との関わりを見える化し、受診勧奨につなげられるよう、国保連合会等に働きかけてほしい。
目標値【R4】	39.6 %									基本目標・基本的方向等を踏まえての状況 ④ <ul style="list-style-type: none"> ●実施していること <ul style="list-style-type: none"> 健康推進員養成講座を実施し、12名が終了いただきました。健康推進員として地域や学校、幼稚園等で食育活動を行い、学校・幼稚園では早くから食に関して意識を持ってもらうよう取組むとともに、家庭内の会話等から子から親への食育の流れが出来ればと考えています。 ●実施できていないこと <ul style="list-style-type: none"> 健診未受診者のうち、30%が医療機関への受診もないことから、これらの方への取組が出来ていません。 ●実施が困難なこと <ul style="list-style-type: none"> 医療機関で受診された方については、医師の意見が重視され、日常の食生活の改善・指導まで行いづらいケースもあります。 	⑤ <ul style="list-style-type: none"> ●基本目標、基本的方向を踏まえて <ul style="list-style-type: none"> 安心して住み続けるためには、まずは自分の健康を大切にすることから、健診の受診率向上を目指すとともに、健診または医療受診、町の健康相談など、どこかにつながってもらうよう取り組みます。 健康推進員においては、地域や親しい人にも立ち話しやお茶を飲みながら自然と健康の話ができるような活動に取り組みます。 ●今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> 健康推進員については、地域からの推薦がほとんどであり、地域の役員等の成りて不足や役の多さ等も課題であることから、自主的に参加したい方を増やしていくことが必要です。 働く世代においては、職場の健診はあるものの、フォローは企業任せとなっており、そこへどのようにして町の保健師や健康推進員が地域と共にかかわる手段が持てるか、高齢になるまでに、つながりを持つことが必要です。 		
目標値【R5】	39.7 %												
目標値【R6】	39.8 %												
目標値【R7】	39.9 %												

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活弁な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活弁な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	8	具体的な取り組み	高齢者のいきがいづくり	担当部署	長寿福祉課				
内容	・高齢者が、年齢を重ねても、いつまでも活躍できるよう社会参加が継続できる環境づくりを進めます。								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	高齢者交流サロン開催団体数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	14 団体												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	22 団体	13 団体	59.1%							② 「高齢者交流サロン」は、令和3年度もコロナウイルス感染症予防対策もあり、新たな取り組みを始められる地区等はありませんでしたが、コロナ禍の中、サロンの取組みの必要性が再認識され、サロンが少しでも開催できるよう、感染症対策を十分行い開催いただきました。 ・東桜谷地区の「東桜谷おしゃべり会」において実施されている「移動支援（おたすけカゴヤ）」については、県外の市と取組みに関わる意見交流会を開催された。食事会（おしゃべり食堂）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場が飲食禁止となったため、開催を見送っていたが、どうにか2回開催することができました。	③ ・高齢者交流サロン等のサロン活動に対し、生活支援コーディネーターと連携しながら、更なる活動の充実を行います。 ・地域交流サロン活動者の交流会を開催し、機運の醸成と情報共有に取り組みます。 ・生活支援コーディネーターが中心となって、社会福祉協議会の広報の中の「ちいきの輪」や出前講座などで情報発信・啓発を行い、相談やサロンの立ち上げ支援を行います。 ・東桜谷地区、西大路地区での支え合いの取り組みを引き続き推進するとともに、他の地区においても、支え合いや話し合いのきっかけづくりを進めます。	B	・4-5「支え合いの仕組みづくりの促進」とも関係する取組です。4-8「高齢者のいきがいづくり」の取組から「重層的支援」につながるよう施策の工夫を行って下さい。④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証を行うにあたって、基本目標、基本的方向を踏まえると地域における福祉系のパイプ、ネットワークだけでなく、地域社会の暮らしのネットワークそのものとも連携につなげていく必要があります。住民の自治活動の質的転換をはかる必要があります。 ・東桜谷、西大路地区の先駆的取組から学んだことを他の地区でも実現できるように取り組んで下さい。 ・コロナ禍のもとで、「高齢者のいきがいづくり」の取組は、感染対策にも気をつかい、大変であったと推察します。高齢者の社会参加の具体的なイメージが、「交流サロン」等の交流会に偏りがあるように見受けられます。基本的方向を踏まえると、高齢者の豊かな経験と知識を活かし、次代を担う人材づくりにつなげることも構想して下さい。 ・生活支援コーディネーターの果たす役割が大きいたく見受けられる内部検証となっています。生活支援コーディネーターの資質の向上など量と質の両面の強化策を検討し、実行して下さい。また、健康推進員など地域の担い手との情報交換や連携が進むよう支援して下さい。
目標値【R4】	24 団体												
目標値【R5】	26 団体												
目標値【R6】	28 団体												
目標値【R7】	24 団体												

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	9	具体的な取り組み	健康づくりと介護予防の一体化	担当部署	長寿福祉課
内容	・地域での介護予防の取り組みを進めるとともに、保健事業と一体となった専門職や住民リーダーとの連携による、健康づくりや介護予防の取り組みを進めます。				

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	介護予防ボランティア養成数（延べ）									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	319 人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	319 人	319 人	100.0%							② <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ボランティアの養成講座については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座の開催を延期または中止とした講座もありましたが、町の介護予防に係る出前講座に参加協力をいただく等、ボランティアの活躍の場の検討を行いました。 ・保健事業と介護予防の一体的な取組のため、運動教室や地域のサロンに専門職が出向き、フレイル（虚弱）予防にかかる健康指導を実施しました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防ボランティアの養成講座の積極的な開催をはじめ、既存ボランティアへの研修を充実し、介護予防における様々な知識を習得いただき、各地域での介護予防活動に積極的に参加協力をいただくよう取り組みを進めていきます。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のもとで介護予防ボランティア養成ができなかったのはいたしかたないことだと考えます。そうしたなかでも専門職による健康指導を行ったことを評価します。 ・内部検証がKPIとなっている介護予防ボランティアに引きずられた検証になっているようにみえます。専門職と住民リーダーとの連携を具体的にどう深めながら介護予防等への取組につなげるのかなど検討して下さい。③（施策の今後の取り組み）では、ボランティアに専門職が研修等を通じて知識を授けるようにみえます。 ・おたっしゅサポーターの高齢化を困難なこととして挙げていますが、サポーターを増やす取組こそが、基本目標、基本的方向を踏まえた取組むべきことではないでしょうか。保健と介護予防の一体的な取組として、高齢者の経験や知識を活かして、地域の食文化や伝統を学ぶ機会をつくり、4-8「高齢者のいきがいづくり」、4-6「食育・地産地消の推進」に結びつけるなど施策の連携と効果を高める工夫をしてください。 ・介護予防ボランティア、生活支援コーディネーター、健康推進員など住民の担い手の活躍に依存する施策が相互に連携をはかり、各役割の担い手間の交流と担い手のすそ野を広げる取組を工夫してください。 ・高齢者のボランティア精神を継承できる方法を検討してほしい。 ・かつては定年が60歳、その後、地域で役員などに従事し、70歳を過ぎて余生を楽しむような人生設計であったが、定年が70歳になるような時代に、その後、地域の役員など到底難しいため、いままでどおりの依頼方法では難しいのではないかと。 ・住民の長い人生をみだなかで、子育ての段階からサービスに依存するのではなく、地域に参画するくせづけやボランティア精神を高めることが、高齢になっても地域の人材として活躍できる人を育てることにつながるため、子ども支援課など厚生部門の連携が大切である。 ・ファミサポでは、依頼登録会員が、依頼する時期を過ぎ、提供登録会員として登録いただく人が増えてきている。依頼登録会員により近い地域の提供登録会員とつくことで、ファミサポを通さずとも支援できる体制ができ、核家族化によりできなくなっていた家族や地域での助け合いができてきているように感じる。
目標値【R4】	329 人												
目標値【R5】	339 人												
目標値【R6】	349 人												
目標値【R7】	385 人												

施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	10	具体的な取り組み	障がい者の支援体制の充実	担当部署	福祉保健課				
内容	<ul style="list-style-type: none"> 障がいのある人が地域や就労等、社会参加において自分らしくいきいきと暮らし続けられるよう、障がい福祉サービスを拡充します。 障がいのある人の個性やライフステージに応じて、医療や保健、福祉、教育等のサービスを効果的に受けられるよう、東近江圏域障害児（者）サービス調整会議により、総合的な調整を行います。 障がいのある人の地域生活を支える仕組みとして、「相談」「緊急時の受け入れ・対応」「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制づくり」の機能を備えた拠点の整備を進めます。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	町内グループホームの定員数									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	29人												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	34人	39人	100.0%							② グループホームの整備では、(1)一般的なシェアハウス型、(2)アパートタイプ、(3)女性専用、(4)バリアフリータイプ（ミスト浴等も設置し、重度障がい者にも対応）、(5)強度行動障がい対応（防音の他、視覚的な刺激を少なくしている）を計画的に進めてきましたが、令和3年度には(6)障がいの重度化や高齢化に対応できる介護充実タイプのホームを整備することができました。 また、町外の法人も日野町内に新たなホームを整備され、障がいのある方が安心して地域で生活できる環境が整いました。	③ 新たなホームの整備だけではなく、自立度の高い人は、グループホームからの地域移行を進めていくことで、サービスが循環できる仕組みとなるよう取り組んでいきます。	B	<ul style="list-style-type: none"> グループホームの整備が進み、地域で生活できる環境が整ったことは高く評価します。 ②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）において、東近江圏域障がい児（者）サービス調整会議による総合的な調整、障がいのある人の地域生活を支える仕組みを備えた拠点整備の現状と展望について内部検証を行って下さい。 ④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証では基本目標、基本的方向を踏まえての内部検証を行います。実施が困難なこととして挙げられている「施設入所者の地域移行」について障がいのある人が地域で安心して暮らせるまちになるように、現状を地域課題としてとらえて住民自ら学び、課題解決に取り組めるように施策の工夫や支援を行って下さい。 障がいの有無にかかわらず、本人の自立に対して保護者の不安や心配が自立の妨げになっていることが多くなっているのではないかと感じる。その保護者に対するフォローや支援が必要であると感じる。
目標値【R4】	39人									●実施していること ・計画的なグループホームの整備 ・地域生活支援拠点の登録	●基本目標、基本的方向を踏まえて ・令和3年4月1日に登録した地域生活支援拠点の機能強化を図るため、定期的に検証していくことで、どのような障がいがあっても地域で安心して生活していけるまちづくりを推進していきます。		
目標値【R5】	39人									●実施できていないこと ・自立訓練の活用 ・訪問型生活介護（作業所へ通所することが困難な重度障がい者への支援の仕組み）	●今後の課題 ・1世帯の中で、複合化・複雑化する課題への対応		
目標値【R6】	39人									●実施が困難なこと ・施設入所者の地域移行			
目標値【R7】	44人												

施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	健やかで思いやりのある地域共生社会の形成
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	11	具体的な取り組み	住民のくらしを支える知識・情報の提供	担当部署	図書館				
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の知る権利、学ぶ権利を保障するため、住民の求める資料の積極的な収集・提供に取り組みます。 ・図書館の利用が困難な住民へのサービスの充実に取り組みます。 ・日本語以外の言語の資料を拡充し、誰もが利用できるよう取り組みます。 ・住民の抱える諸課題に向き合い解決の手助けができるよう、暮らしを支える情報サービスを充実させます。 ・住民が適切に情報を活用できるよう取り組みます。 								

65

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	図書館を利用（貸出）した町民の割合									取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1】	18.4 %												
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	18.8 %	16.3 %	86.7%							施策 ② <ul style="list-style-type: none"> ・住民の暮らしに役立つ多様な資料を収集し、提供しています。 ・点字図書等や朗読CDなどを提供しています。 ・英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語など外国語の資料の充実に努めました。 ・講演会等を開催し、地域を知り、人とのつながる学び合いをし、地域の人材の育成を図りました。 ・他の図書館や専門機関と連携して住民が必要とする情報の提供に努めました。 	③ <ul style="list-style-type: none"> ・住民の暮らしに役立つ多様な資料を収集し、提供します。 ・点字図書等や朗読CDなどだけでなく、県立図書館とも連携しアクセシブルな資料を提供します。 ・英語、中国語、ポルトガル語など外国語の資料の充実に努めるとともに必要とする住民に情報が届くよう関係機関と連携します。 ・講演会や講座等を開催することで、人がつながり、人材を育成し、地域の課題解決へつながるよう取り組んでいきます。 ・図書館や専門機関と連携して住民が必要とする情報の提供に努めます。 ・調べ方案内の整備や情報リテラシーについて講座等を実施します。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・在住外国人が必要とする言語による資料の充実に努めるなど、住民の知る権利、学ぶ権利を保障するために資料収集・提供していることを評価します。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）では、基本目標、基本的方向を踏まえて内部検証をするのですが、図書館サービスの特性上、基本的方向にあるような「攻め」の支援等の施策は難しい面があることは理解します。その上で、他の部署の取組に図書館サービスが協力していくなど新しい方向性を模索して下さい。 ・ウィキペディアタウンなどの事業を、町のさまざまな部署と連携するとともに、人材育成につなげてほしい。
目標値【R4】	19.0 %												
目標値【R5】	19.2 %												
目標値【R6】	19.4 %												
目標値【R7】	19.6 %												

●実施していること
 ・住民の暮らしに役立つ多様な資料を収集し、提供しています。
 ・他の図書館や専門機関と連携して住民が必要とする情報の提供に努めました。
 ・世界情勢から町の施策まで、幅広いテーマについて理解を深めていただくため、資料の展示をしました。
 ・講座「ウィキペディアタウン」で地域の魅力を再発見し、共同作業の中で人のつながりや学びあいができ、情報を調べて発信できる人材の育成を図りました。
 ●実施できていないこと
 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で学び合いの機会が減少しています

●基本目標・基本的方向等を踏まえた状況
④
⑤

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	人と豊かな自然との共生
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	12	具体的な取り組み	ごみの減量化の実現	担当部署	住民課	農林課	企画振興課	総務課	学校教育課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・循環型社会（3R）の実現のため、日野町エコライフ推進協議会等の関係団体と連携し、広報や出前講座等によりごみ減量化の啓発に努め、住民意識の向上に取り組みます。 ・資源回収に対する補助を実施するとともに、生ごみの水切りや堆肥化、プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進します。 ・家庭から出る廃食油の回収を行い、回収量拡大の啓発に努めます。 								

99

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名	一日一人あたり可燃ごみ量 ※可燃ごみ・・・家庭ごみの委託分、資源ゴミを除く			生ごみ処理容器購入件数（年間）						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R1】	495 t			10 台										
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和3年度	488 t	502 t	97.2%	10 台	9 台	90.0%				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化を推進するためには必要以上の物買わない取り組みが必要で資源・ごみ収集センターやホームページで啓発しました。 ・循環型社会（3R）の実現のため、日野町エコライフ推進協議会等の関係団体と連携し、広報や出前講座等によりごみ減量化の啓発に努め、住民意識の向上に取り組んでいます。 ・資源回収に対する補助を実施するとともに、生ごみの水切りや堆肥化、プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進しています。 ・町内にウォータースタンドを設置し、ペットボトルの使い捨てを無くし、マイボトルを推進しています。 ・家庭から出る廃食油の回収を行い、回収量拡大の啓発に努めています。 ・ごみ減量、リサイクルを含めた環境保全への意識を高めるため環境学習会を開催しました。 <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化を推進するためには必要以上の物を買わない取り組みが必要で資源・ごみ収集センターや町ホームページで引き続き啓発します。 ・循環型社会（3R）の実現のため、日野町エコライフ推進協議会等の関係団体と連携し、広報や出前講座等により、ごみ減量化の啓発に努め、住民意識の向上に取り組みます。 ・資源回収に対する補助を実施するとともに、生ごみの水切りや堆肥化、プラスチックごみや包装紙等の削減、さらにマイバック持参運動等を推進し、ごみの減量化に努めるとともに、ごみの分別収集を促進します。 ・町内にウォータースタンドを設置し、ペットボトルの使い捨てを無くし、マイボトルの利用を推進します。 ・引き続き、家庭から出る廃食油回収量拡大に向け、啓発に努めます。 ・ごみ減量、リサイクルを含めた環境の保全を進めるため、指針となる環境基本計画の策定に向けた取り組みを進めます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量化の取組が進んでいることを評価します。 ・ごみ減量化と廃食油回収が、どのような環境負荷低減効果があるのか住民が容易に理解できるように啓発、可視化を行って下さい。 ・資源ごみの量の減量がKPIになっていますが、リデュースとリユース（発生抑制と再利用）の結果として減量することは良いと考えられる反面、古紙、スチール缶、アルミ缶、小型家電等が適正に資源化されるように住民が行動した結果、発生量が増大することも考えられるので、その内容を十分に検討する必要があります。つまり、住民の良い行動は増加要因と減少要因の両方あることに留意する必要があります。 ・④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証は、基本目標、基本的方向を踏まえて評価するのが難しく、苦勞したと推察します。ごみに関わる環境問題を地域課題として、住民の自治活動の中に位置づけ、住民自ら発見し、学び、取り組む方向に地域と連携することが、内部検証として行われるのが良いでしょう。ごみ問題は、行政と住民の協力、自治活動との連携なくして解決しない課題であり、現在も、住民との連携を行っているかと推察します。現状を適切に評価してください。 		
目標値【R4】	485 t			10 台										
目標値【R5】	481 t			10 台										
目標値【R6】	477 t			10 台										
目標値【R7】	474 t			10 台										

基本目標・基本的方向等を踏まえた状況

④

⑤

施策検証シート

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	人と豊かな自然との共生
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。				

取り組みNo.	13	具体的な取り組み	環境保全の推進	担当部署	住民課	建設計画課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 国や県、関係団体等と連携し、自然環境や野生動物等の保全・保護に努めます。 学校や地域、団体と連携した幅広い世代への環境学習を推進し、生物多様性への理解や環境保全の啓発に努めます。 								

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	清掃活動の参加人数			河川愛護事業参加人数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R1・2】	R1	250 人		R2	3,870 人								
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	250 人	280 人	100.0%	3,800 人	3,664 人	96.4%				② 日野町エコライフ推進協議会と共に、年2回の住民参加の清掃活動および広報による啓発を実施。 ・環境保全への意識を高めるため、環境保全の学習会を34名の参加を得て3回開催しました。 ・河川の安全で適切な利用、管理を促進するため、地域の団体に除草等の取り組みを依頼。R3年度は54団体で58万㎡で作業を実施。	③ 日野町エコライフ推進協議会と共に、年2回の住民参加の清掃活動および広報による啓発を実施します。 ・環境保全の学習会の参加者の中で2名が環境基本計画策定過程に参画していただきました。 ・ごみ減量、リサイクルを含めた環境の保全を進めるため、指針となる環境基本計画の策定に向けた取り組みを進めます。 ・学校や地域、団体と連携した幅広い世代への環境学習を推進し、生物多様性への理解や環境保全の啓発に努めます。 ・環境の保全を進めるため、指針となる環境基本計画の策定に向けた取り組みを進めます。 ・今後も高齢化する参加者に対して、作業が軽減できる取り組みを提案していきます。	B	・4-13「環境保全の推進」の取組内容は、2項目ですが、その対象としている領域は幅広く豊かな内容を持っています。内部検証からは、KPIとの関連性の高い環境整備作業と環境保全の啓発などにつなげる環境学習に特化しているように伺えます。②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）では、環境保全に関する豊かな取組が分かるような内部検証をすすめて下さい。 ・環境学習会が年3回開催されたとのことですが、それが、学校、地域、団体との連携がどのようになされ、幅広い世代の学びになったのかなど検証し、今後の取組に反映して下さい。作業参加者の高齢化も課題のようですが、その課題解決のために、環境学習会等は役立つでしょうか？ ・④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）の内部検証は基本目標、基本的方向を踏まえて行うのですが、検証に困ったかもしれません。基本目標、基本的方向を踏まえると、②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）と検証のスタンスが変わります。②、③（施策の取り組み内容、今後の取り組み）では清掃活動等への参加の呼びかけを行い参加してもらおう、または、依頼して地域で動いてもらう形になると思いますが、④、⑤（基本目標・基本的方向等を踏まえた取り組み状況、今後の取り組み）では、地域の側が、環境保全を自分たちの地域課題として認識して行動していく動きになります。その理想形との対比で、取組状況と今後の取組の内部検証を行って下さい。あわせて次代を担う人材づくりを進める工夫を行って下さい。 ・特定外来種の学習会、駆除活動など環境保全の高度化も図って下さい。 ・連合青年会も清掃活動に参加しているが、まちなかは近隣住民の自主的活動によりごみは少ないが、国道は車からホイ捨てされているのか、ごみが多く、地域住民だけが頑張っても限界がある。 ・親子で参加できるようなイベント的な清掃活動を通じて、子どものときから清掃活動を通じて学び、次世代の人材育成につなげてほしい。 ・インセンティブの検討だけでなく、良き市民を育てるために、住民の精神や文化、気風を高めるためにどのようなことができるのか検討してほしい。
目標値【R4】	250 人			3,800 人									
目標値【R5】	250 人			3,760 人									
目標値【R6】	250 人			3,730 人									
目標値【R7】	250 人			3,700 人									

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	災害や危機への備えの強化
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	14	具体的な取り組み	交通安全対策と防犯体制の推進	担当部署	住民課	建設計画課			
内容	<ul style="list-style-type: none"> 警察、東近江地区交通安全推進会議、東近江地区交通安全協会等と連携し、交通安全教育や啓発を行い、交通安全意識の高揚を図るとともに、住民による、自主的な取り組みを支援します。 高齢者に対する交通安全意識を高めるため、シルバーキャラバン隊を委嘱し、街頭啓発、推進大会等の参加を呼び掛けていきます。 警察等の関係機関と連携し、危険度の高い通学路や生活道路等の交通安全施設の点検を行い整備に努めます。 警察、日野町防犯自治会との連携のもと、各地区の地域ぐるみの自主防犯団体や、学校、PTA等との協働により、人と人のつながりのなかで、顔の見える地域防犯活動を継続し、犯罪のないまちづくりを実施します。 								

数量的検証										質的検証				
KPI（重要業績評価指標）										内部検証			外部検証	
指標名	刑法犯認知件数			消費相談件数			交通事故件数			取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント	
基準値【R1】	55 件			41 件			40 件							
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率					
令和3年度	55 件	69 件	79.7%	45 件	34 件	100.0%	21 件	21 件	100.0%	<p>② 警察、日野町防犯自治会、各地区自主防犯団体と連携し防犯啓発活動を実施しました。また、自主防犯団体と学校、PTAが協力して見守り活動やパトロールを実施しました。</p> <p>③ 東近江警察署から不審者情報や犯罪多発注意報などの連絡があった場合には、日野メールで町民に周知を図り、緊急性のある事案などは、地域の安全なまちづくり協議会へ情報を提供し、気を付けていただくよう啓発しました。</p> <p>④ 交通安全意識の高揚を図るため、また、自らのこととして受け止めていただくため、新聞折込を年2回、全国交通安全運動の街頭啓発、1日、15日を目安とした早朝パトロール、公民館への啓発チラシの配布を実施しました。</p> <p>⑤ 警察と連携し、日野町老人クラブ連合会にシルバーキャラバン隊を委嘱し、地域での交通立番やシルバー無事故運動へ参加していただくことにより交通安全への意識高揚を図りました。また、東近江地区交通安全推進会議や交通安全協会とも連携して交通安全啓発活動の実施や、子どもや高齢者への交通安全教室を実施しました。</p> <p>⑥ 地域の取り組みとしてPTA、学校をはじめとした関係団体による小・中学生の通学路合同点検を行い、交通安全施設整備の協議を行いました。</p> <p>⑦ 安全な通学を確保するため、西大路地先の通学路にグリーンA舗を設置するなど、安全対策を実施した。</p> <p>●実施していること</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域住民が主体となり自主防犯団体等を組織し、顔の見える活動のもと地域の実情に合わせた啓発やパトロール等を行い、安心・安全なまちづくりに向けた見守り活動を実施しています。パトロールにあたっては、地域で順番を決め取り組んでいます。また、防犯対策のひとつとして新たに防犯カメラ設置補助金を検討しています。 ●交通安全に関する大会やイベント、各種啓発活動を通じて住民への交通安全の意識を高めています。 ●各自治会からの要望につきましては、行政懇談会の要望としてご意見を伺い、関係機関と連携・協議を図っています。 ●必要な箇所に安全対策を実施する。 <p>●実施できていないこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス流行により、イベントについて、例年と比べて中止もしくは小規模な形で実施せざるを得ませんでした。 ●数多くある要望箇所に対応しきれていません。 ●実施が困難なこと ●交通安全に従事している団体との情報共有が難しい場合があります。 <p>●シルバーキャラバン隊に参加する日野町老人クラブ連合会では、単位老人クラブの脱退が多くなっており、シルバーキャラバン隊の活動が難しくなっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●数多くある要望箇所に対応しきれていません。 	<p>●今後も各地区自主防犯団体など関係団体と連携を図り、推進大会や啓発活動などを開催し、地域ぐるみで各種活動を継続して実施することにより、住民が主体となって犯罪のないまちづくりを目指します。</p> <p>●各地区の自主防犯活動、交通安全対策には、関係する人の顔の見えるつながりが大切です。つながりが持続できる地域の取り組みを支援します。</p> <p>●交通安全に遭うことが多い子どもや高齢者に対して、重点的に啓発を行い交通事故防止に努めます。</p> <p>●地域の取り組みとしてPTA、学校、関係団体による小・中学生の通学路合同点検等を行い、交通安全施設の整備の取り組みを進めていきます。</p> <p>●交通事故や犯罪に巻き込まれた人を支援するため、公益社団法人おうち犯罪被害者支援センターと協定を結び、専門的な指導のもと取り組んでいけるよう体制を整えます。</p> <p>●高齢者が当事者となる交通事故が依然として多いため、適切な交通安全啓発が図れるよう、地域の多様な主体の取組の実態について把握し、地域に応じた交通安全啓発の体制整備と取組につなげます。</p> <p>●引き続き、安全対策が必要な箇所に対策を実施します。</p> <p>●基本目標、基本的方向を踏まえて</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各地区のニーズに応え、防犯カメラ設置補助金事業を実施し、即時性のある活動を行なっていきます。 ●交通安全に関する大会や各種啓発活動を実施し、さらに住民への交通安全の意識を高めていきます。 ●各自治会からの要望につきましては、行政懇談会の要望としてご意見を伺い、安心・安全なまちづくりに取り組んでいきます。 ●各地区の自主防犯活動、交通安全対策には、関係する人の顔の見えるつながりが大切です。地域における人と人のつながりが持続できる地域の取り組みを支援します。 ●安全で安心できる交通環境を整える。 <p>●今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日野町老人クラブ連合会傘下の地区老人クラブの減少から、従前のようなシルバーキャラバン隊の編成が困難となっており、継続した高齢者の交通安全を啓発活動が可能となるよう、多角的な取り組みを検討します。 ●数多くある要望箇所に対応しきれていません。 			
目標値【R4】	55 件			45 件			21 件							
目標値【R5】	55 件			45 件			21 件							
目標値【R6】	55 件			45 件			21 件							
目標値【R7】	55 件			45 件			21 件							

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

施 策 検 証 シ ー ト

基本目標No.	4	基本目標	くらしやすい地域を育み、安心して住み続けられるまちをつくる	取り組みの方向	災害や危機への備えの強化
めざす姿	家庭のきずなはもとより、地域の人と人のつながり（きずな）を育み、顔の見える関係のもと、住民が自らくらしやすい地域をつくり、そのもとで安全で安心して住み続けられるまちをめざします。また、住民の活発な自治活動を持続発展させ、地域課題について、住民が自ら発見し、学び、取り組んでいくまちをめざします。				
取り組みに関する基本的方向	<ul style="list-style-type: none"> ○まちへの愛着や誇りを感じ、地域の課題解決のため、住民それぞれの豊かな経験や知識を活かしながら、次代を担う人材づくりを進めます。 ○自ら学びあい、主体的で活発な自治活動につながる、人と人がつながる仕組みづくりを進めます。 ○すべての世代が望ましい食習慣を実践するとともに、地産地消を意識した取り組みを進め、地域の食文化や伝統を学ぶための食育を推進します。 ○だれもが、健康でいきいきと暮らせるように、生涯にわたり継続した心身の健康づくりを支援します。 ○顔の見えるつながりの中で、「困りごとを出し合い、支えあう」など、地域のコミュニティ活動を支援します。 ○自治活動を基盤に、地域福祉活動の推進、子育て・介護・防犯・防災・環境保全などの取り組みにより、安心・安全なまちづくりを推進します。 				

取り組みNo.	15	具体的な取り組み	地域防災力の向上	担当部署	総務課	建設計画課	福祉保健課	長寿福祉課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難行動要支援者個別計画による避難支援体制の充実に努めます。 ・日野町防災士連絡会や地域の自主防災組織と連携して、防災訓練や出前講座、防災学習会のほか、実践的な訓練等の実施および地域防災マップの作成等主体的な活動を通じ防災意識の高揚を図ります。 ・地域の自主防災組織の設立や活動に対し支援します。 							

69

数量的検証										質的検証			
KPI（重要業績評価指標）										内部検証		外部検証	
指標名	消防団団員数			自主防災組織の組織数						取り組み状況	今後の取り組み	検証結果	コメント
基準値【R2】	185 人			15 組織									
年度	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率				
令和3年度	185 人	185 人	100.0%	17 組織	15 組織	88.2%				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の防災士育成のための補助制度を設け、地域の防災リーダーの養成に取り組んでいます。また、地域の自主防災組織の設立等のため、防災士等による相談支援や補助金制度を設けています。 ・防災士による機関紙「わたむきの灯」の発行や町の広報誌などで防災士の活動を広く啓発し、住民の防災意識の高揚を図っています。 ・住民自身で地域の防災力を高めるためのしくみとして、消防団員の機能別団員の設置や消防団員の団員報酬等の処遇改善を行い、団員の確保に努めています。 ・法定名簿と個別計画については、毎年、対象者の更新作業を行っています。 ・台風や集中豪雨時に発生する被害に対し、迅速な対応を行います。また、積雪に対して、適正に除雪を行い、安全な通行を確保します。 	<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災士による機関紙「わたむきの灯」を発行するなど、防災士の役割とその活動を広く住民のみなさんに啓発をする中で、防災士の資格取得を広げ、防災リーダーの養成に努めます。 ・町と防災士による出前講座や防災訓練等の機会を通じて、自主防災組織の重要性等の周知を図り理解を深めることで、地域住民の組織化や町全体の組織強化に取り組めます。 ・引き続き、活動等を通じて消防団の重要性・必要性の啓発に努め、地元自治会や企業等と協力して、団員の確保を図ります。 ・基本団員の入団を前提とし、機能別団員による団員確保に取り組めます。 ・防災と保健・福祉の連携促進モデルの「滋賀モデル」に対応できるよう、個別計画の基準の見直しを行います。 ・突然発生する自然災害に対して、備えることで、迅速に対応を図ります。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・4-15「地域防災力の向上」の取組内容の2つ目では、「（住民の）主体的な活動を通じて防災意識の高揚を図る」となっていますが、②、③（施策の取り組み状況、今後の取り組み）では情報提供による啓発しかみえてきません。主体的な活動は、それ自体に主体性を育むところがあります。主体的な活動があれば積極的に内部検証でも挙げて下さい。 ・引き続き自主防災組織の設立に向けた取組を行って下さい。組織化の困難な要因を分析し、対処法を工夫して下さい。 ・自主防災組織の設立にかかわる地域での取組から「地域課題を住民自らが発見し、学び、取り組むまち」につなげて下さい。 ・基本目標、基本的方向で示されている「役場のすべきこと」と「その結果、成果として地域に起きること」を具体的にイメージできるように、役場の関連する部署間でブレインストーミングすることも必要です。そのイメージの上で4-15「地域防災力の向上」という施策の内部検証を加えると、地域課題への自治活動の向かい方が変わるのではないのでしょうか。検証プロセスを変えらるとともに、地域への関わり方も変えられるのか検討して下さい。 ・自主的避難がうたわれるなか、高齢化が進むにつれて、自力で動けない人も増えてきており、地域で支える人材を育成する取組は重要である。 ・住民の活発な自治活動を支えてきた地縁による団体から、志のある人材を育て、地域活動を促す訓練の期間や内容について幹部会において引き続き議論を重ねていく必要があります。 ・新たに運用している防災アプリの利用を、地域の防災意識の向上に結び付けていくための工夫が必要です。 ・想定以上の災害に対しどのように対策を行うかが課題である。
目標値【R4】	185 人			19 組織									
目標値【R5】	185 人			21 組織									
目標値【R6】	185 人			23 組織									
目標値【R7】	185 人			25 組織									

④
基本目標・基本的方向等を踏まえた状況

- 実施していること
 - ・消防団が活動しやすい環境づくりのための予算化を図っています。広報紙「消防魂」の発行支援、消防団の重要性・必要性の啓発等に努めています。
 - ・補助金や出前講座の利用を呼びかけ、防災士や自治会と連携して防災意識の形成を図っています。
 - ・水防計画を策定し体制を整える。
 - ・雪害計画を策定し体制を整える。
- 実施できていないこと
 - ・消防団員の定数確保を目標に加入推進をしていますが、地域の担い手世代が減少する中で、団員確保が困難な状況となっています。
 - ・防災アプリの有効な活用方法の一つとして、地域での自主防災活動での活用の工夫が必要です。
 - ・個別計画作成対象者の基準の見直し
 - ・避難の実効性確保に向けた個別計画作成方法の検討
- 実施が困難なこと
 - ・自主防災組織の設立や活動については、自治体ごとの取り組みの温度差があり、継続的なアプローチが必要です。

- 基本目標、基本的方向を踏まえて
 - ・引き続き条例定数の団員確保に向け、消防団活動への理解をいただけるよう説明するとともに、平時的点検活動や防災訓練、地域イベント等の協力を通じ、消防団活動への協力と理解を深め、公助としての役割を果たします。
 - ・自主防災活動の促進のため、引き続き防災士連絡会や自主防災組織と連携して有効な啓発方法を模索しつつ取り組みを継続します。
 - ・水防計画、雪害計画に基づき体制を整えることで、災害に対して迅速な対応を行う。
- 今後の課題
 - ・消防団のポンプ操法訓練は、基本動作を覚えるために必要な訓練ですが、消防団員の勤務形態の変化や多様化に伴い、訓練の期間や内容について幹部会において引き続き議論を重ねていく必要があります。
 - ・新たに運用している防災アプリの利用を、地域の防災意識の向上に結び付けていくための工夫が必要です。
 - ・想定以上の災害に対しどのように対策を行うかが課題である。

6. 地方創生交付金事業の検証

地方創生交付金事業の検証について

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位：円	④ 本事業における重要業績評価指標（KPI）				⑤ 本事業終了後における実績値		⑥ 外部有識者からの評価		⑦ 実績値を踏まえた事業の今後について		
				指標	指標値	単位	目標年月	実績値	事業効果	事業の評価	外部有識者からの意見	今後の方針	今後の方針の理由	
1	近江日野産茶による西大路地区まちづくり活動拠点整備計画	拠点整備交付金	15,217,000	指標①	来場者数(施設利用者数、イベント来場者数)	1,500	人	R4.3	2,377	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・北山茶を親しんでもらう場として有効であった。 ・北山茶を地元で知っていただくとともに、増産できるための施策、販路拡大に向けた施策に取り組んでほしい。 ・北山茶を住民に知ってもらう活動をより一層推進してほしい。 ・北山茶のブランド化に力を入れるとともに、後継者育成を進めてほしい。 	予定通り事業終了	<ul style="list-style-type: none"> ・北山茶を地元で知っていただく活動をより一層推進します。 ・引き続き、北山茶の安定的な生産、供給体制、販路拡大への支援に取り組みます。 ・北山茶を地域ブランドとして特産品の振興に取り組むとともに、後継者育成の推進を図ります。
				指標②	近江日野の茶取引先の数	11	件	R4.3	10					
				指標③	茶葉生産量	18.0	t	R4.3	10.68					
				指標④										
				指標⑤										
2	子育て女性の活躍応援プロジェクト	拠点整備交付金	36,241,000	指標①	事業を通じた「働き方改革」に取り組む企業の増加数	10	件	R4.3	7	地方創生に効果があった	総合戦略のKPI達成に有効であった	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て女性が社会で活躍できるよう取組を進めてほしい。 ・現在、ぼけっとは0～2歳児に向けた取組に特化しており、3歳児以上が来づらい状況であるため、幼稚園に通う児童の親にもPRが必要である。 ・企業へ働き方改革への取組を働きかけるとともに、働き方改革に取り組む企業のPRも必要である。 ・ハローワークの情報について、ぼけっと利用者への利用となっているため、ぼけっと利用者以外の方にもPRが必要である。 	事業の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子育て女性が社会で活躍できるよう女性活躍の環境づくりを推進します。 ・女性活躍支援施設での就労支援の取組において、ぼけっと利用者以外の方（特に幼稚園に通う児童の親）にも、より一層働きかけを進めます。 ・事業者に向けて、育児休業の取得促進や多様な働き方の普及等を通じたワーク・ライフ・バランスの普及、啓発に取り組むとともに、取り組む事業者のPRにも努めます。
				指標②	事業による出産後の女性の復職者の増加数	11	人	R4.3	14					
				指標③	事業を通じた新規就労者数	11	人	R4.3	9					
				指標④										
				指標⑤										
3	「戦国・琵琶湖」体験・体感ツーリズム深化プロジェクト	推進交付金	9,109,023	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標（KPI）が無い事業です。									
4	要因分析を活用した健康寿命延伸プロジェクト	推進交付金	3,898,000	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標（KPI）が無い事業です。									
				指標②										
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										
5	風の人と土の人がつながるプロジェクト～移住者の増加による地域活性化にむけて～	推進交付金	3,738,000	指標①	広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標（KPI）が無い事業です。									
				指標②										
				指標③										
				指標④										
				指標⑤										

※事業効果：①地方創生に非常に効果的であった／②地方創生に相当程度効果があった／③地方創生に効果があった／④地方創生に効果がなかった ※事業の評価：①総合戦略のKPI達成に有効であった／②総合戦略のKPI達成に有効とは言えない

7. 検証のまとめ

1) 量的 (KPI) 検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標 (KPI) について、町が定めている年度別の目標値に対する実績値の達成率についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。 (詳細は P.8~9参照)

KPIの検証結果	重要業績評価指標 (KPI) の達成度	施策数	比率
量S	100% ~ 90%以上	25施策	62.5%
量A	90%未満 ~ 70%以上	8施策	20.0%
量B	70%未満 ~ 50%以上	4施策	10.0%
量C	50%未満 ~ 30%以上	1施策	2.5%
量D	30%未満 ~ 0%以上	2施策	5.0%

検証した施策の中で最も多いのが量S (達成度100%~90%以上) で25施策 (62.5%) 次いで、量A (達成度90%未満~70%以上) が8施策 (20.0%) という結果になっています。

量Sの評価の割合が高い要因は、総合戦略の計画期間に関わるもので、計画期間が令和3年度から令和7年度の5年間であり、計画で定める年度別の重要業績評価指標 (KPI) の目標値については、計画期間の最終年度 (令和7年度) に定められている重要業績評価指標 (KPI) の目標値に向かって段階的に高くなっているものが多いことが挙げられます。

このことから、令和4年度以降は、段階的に高くなる重要業績評価指標 (KPI) の目標値を見据えた施策の取り組みと、基本目標・基本的方向等を踏まえた施策の確立が求められます。

このほか、すでに、画期間の最終年度に定める重要業績評価指標 (KPI) の目標値に到達する施策が見られるなど、第1期総合戦略から第2期総合戦略に移行する際の重要業績評価指標 (KPI) の見込みが低い傾向となっていることも挙げられます。

重要業績評価指標 (KPI) の目標値の設定については、実施している施策の背景にある課題に対して、取り組み状況やその効果が読み取れるような重要業績評価指標 (KPI) を定め、重要業績評価指標 (KPI) の目標値を達成することが基本目標・基本的方向の実現につながり、町全体がよくなるような指標となる必要があります。

一方、CもしくはD評価であった3施策は、次の施策です。これらの施策は、本来の目標に向け、どのような事業実施が妥当であるかをよく検討し、次年度以降の事業実施につなげる必要があります。

○ CもしくはD評価であった3施策

- ・(1) - 3「コミュニティ・スクールの導入」 【評価C】 達成率：48.5%

KPI「地域学校協働活動ボランティア登録数」

目標：297人 実績：288人 (達成率：97.0%)

KPI「コミュニティ・スクールの実施校数」 目標：2校 実績：0校 (達成率：0.0%)

- ・(2) - 7「新たな産業分野の誘致と創出」 【評価D】 達成率：0.0%
KPI「サテライトオフィス等の設置」 目標：1件 実績：0件 達成率：0.0%
- ・(3) - 3「地域資源を活かした体験型観光の推進」 【評価D】 達成率：0.0%
KPI「農泊受入人数」 目標：300人 実績：0人 達成率：0.0%

2) 質的（取組内容）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）だけでは計れない、取組内容の質的な充実についての検証を行い、5段階評価として集計を行いました。

検証結果については、次のとおりです。 （詳細は、P.10～11参照）

質的検証結果	質的検証結果の内容	施策数	比率
質S	内容を十分に理解し、取組により達成している	0施策	0.0%
質A	内容を理解した取組を実施し、課題解決や達成に向けた取組ができている	0施策	0.0%
質B	内容を理解し、取組ができている	31施策	77.5%
質C	概ね内容を踏まえているが、取組が不十分	9施策	22.5%
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	0施策	0.0%

検証した施策の中で最も多いのが、質B（内容を理解し、取組ができている）で31施策（77.5%）、次いで、質C（概ね内容を踏まえているが、取組が不十分）が9施策（22.5%）となっています。

質Bの評価を受けた施策については、施策の内容、基本目標および基本的方向の趣旨に沿って、計画期間初年度として、施策の取組を順当に進めたことによるものと考えられます。

一方、C評価となった9施策については、内部検証において、重要業績評価指標（KPI）に掲げる取り組みの内部検証にとどまり、施策の取組全体における内部検証ができていなかった施策も多くあります。

このことから、令和4年度以降の施策の推進にあっては、単に目標値として設定している重要業績評価指標（KPI）の取り組みを展開するだけでなく、総合戦略に掲げる取り組み内容、ひいては基本目標・基本的方向を十分に理解し、めざす姿を実現するための施策の展開が求められます。

3) 基本目標別のまとめ

基本目標(1) まちのたからで雇用を創る

検証結果では、A(優れている)が5施策(45.5%)、B(実施できている)が5施策(45.5%)、C(工夫が必要)が1施策(9.1%)という結果になりました。

A(優れている)とされた施策

- (1) - 2 「様々な保育ニーズへの対応」
- (1) - 5 「地域ぐるみでの子どもの居場所づくり」
- (1) - 9 「住民の主体的な文化芸術活動への支援」
- (1) - 10 「ふるさと学習の充実」
- (1) - 11 「女性活躍の環境づくり」

B(実施できている)とされた施策

- (1) - 1 「安心して妊娠・出産・子育てができるための支援」
- (1) - 4 「子育て支援のネットワークづくり」
- (1) - 6 「青少年の社会参画の促進」
- (1) - 7 「社会教育の人材育成と活躍の推進」
- (1) - 8 「子どもの読書活動と学習活動の支援」

C(工夫が必要)とされた施策

- (1) - 3 「コミュニティ・スクールの導入」

『基本目標(1) まちのたからで雇用を創る』にかかる取組については、結婚から出産、子育てまで、その時々ニーズは常に変化しているため、その変化を的確に捉え、対応することが求められています。

また、保護者が他人任せにならず、当事者として子育て世代の自覚を育む施策となるような工夫が求められています。

乳幼児期から日野のまちの良さを体験でき、実感できることが、のちに日野へ帰ってくることにもつながるため、手厚く取組を進めてください。

基本目標(2) 出会いと発見で人の流れを作る

検証結果では、A(優れている)が4施策(50.0%)、B(実施できている)が3施策(37.5%)、C(工夫が必要)が1施策(12.5%)という結果になりました。

A(優れている)とされた施策

- (2) - 1 「農業経営・担い手育成への支援」
- (2) - 5 「創業・コミュニティビジネスへの支援」
- (2) - 6 「企業誘致の推進と工業用地の確保」
- (2) - 8 「町内雇用の促進と雇用機会の拡充」

B（実施できている）とされた施策

- (2) - 2 「農業生産・特産品の振興」
- (2) - 3 「林業の振興」
- (2) - 4 「地域内経済循環の推進」

C（工夫が必要）とされた施策

- (2) - 7 「新たな産業分野の誘致と創出」

『基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る』にかかる取組については、そのすべてが「地域内経済循環の推進」に関わるため、地元のものを買ひ、地域を守ることに意味があることを知ることから、推し進め、まちの経済の質的転換を図るような工夫が求められています。

まちの経済の質的転換を図るとともに、時代の変化に対応し、新たな産業分野の誘致と創出が図れるよう、まちの雰囲気づくりをすすめてください。

基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる

検証結果では、A（優れている）が4施策（66.7%）、B（実施できている）が1施策（16.7%）、C（工夫が必要）が1施策（16.7%）という結果になりました。

A（優れている）とされた施策

- (3) - 2 「まちぐるみのおもてなし」
- (3) - 4 「地域の移動手段の充実」
- (3) - 5 「U・I・Jターン受入の充実」
- (3) - 6 「地域の活力につながる情報の収集とタイムリーな発信」

B（実施できている）とされた施策

- (3) - 1 「商工業の活性化」

C（工夫が必要）とされた施策

- (3) - 3 「地域資源を活かした体験型観光の推進」

『基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる』にかかる取組については、プレミアム付き商品券や住宅リフォーム助成などの施策による経済効果について、地元調達率を把握するため、仕入先をアンケート調査するなどして捉え、検証し、波及効果が高めるよう工夫が求められています。

ポストコロナに備え、民泊のみならず、新たな体験型観光の開発から移住、地域経済の活性化につながるよう取組を進めてください。

基本目標（４）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

検証結果では、A（優れている）が7施策（46.7%）、B（実施できている）が8施策（53.3%）という結果になっています。

A（優れている）とされた施策

- (4) - 1 「次代を担う人材の発掘」
- (4) - 2 「市民活動（団体）の活躍のための仕組みづくり」
- (4) - 4 「多文化共生の推進」
- (4) - 6 「食育・地産地消の推進」
- (4) - 9 「健康づくりと介護予防の一体化」
- (4) - 11 「住民のくらしを支える知識・情報の提供」
- (4) - 15 「地域防災力の向上」

B（実施できている）とされた施策

- (4) - 3 「関係人口の創出」
- (4) - 5 「支え合いの仕組みづくりの促進」
- (4) - 7 「心身の健康づくり」
- (4) - 8 「高齢者のいきがいづくり」
- (4) - 10 「障がい者の支援体制の充実」
- (4) - 12 「ごみの減量化の実現」
- (4) - 13 「環境保全の推進」
- (4) - 14 「交通安全対策と防犯体制の推進」

『基本目標（４）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる』にかかる取組については、KPIはおおむね達成していますが、数字だけではわからない部分を検証する内部検証では取組内容が一部見られない施策もあったことから、十分な内部検証をおこなってください。

また、UJターンによる移住者から就労のため入国する外国籍の住民まで、多様な住民が安心して暮らせる、住みやすいまちとなるよう取組を進めてください。

さらに、「関係人口の創出」は、「特産品の振興」や「新たな産業分野の誘致と創出」にも接点があり、まちおこしや地域産業の発展から文化の継承を考えることにもつなげてください。

4) まとめ

1. はじめに

「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略(第2期)」は、2021年度(令和3年度)から2025年度(令和7年度)の5年間を計画期間としています。2021年度は、「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略(第2期)」の初年度であり、「第6次日野町総合計画」と同時にスタートしました。第1期の「日野町くらし安心ひとづくり総合戦略」は、1年延長して6年間の取組を行いました。6年間の絶え間ない検証結果を踏まえ、施策の統合などの見直しを行い、現在の国の総合戦略の柱立てに対応しながら、第2期計画が策定されました。

本報告書は、四つの基本目標、40本の施策の検証を行っています。40本の施策につきまして、「量的検証」と「質的検証」を行い、その合計点を検証結果としています。そして、四つの基本目標につきましては、40本の施策の検証結果を踏まえて、総合的な評価を行いました。本報告書は、検証結果を数値化していますので、多くの方がその「数値」とその変化に注目していることでしょう。数値化によって取組の成果とその変化を捉えやすくなります。検証の過程では、数値的な変化だけではなく、行政の内部検証を詳細に検証し、主管部署からの説明とヒアリングを通じて取り組みの在り方も検討してきました。本報告書の最後に、総合計画懇話会(以下、懇話会)による検証の過程と検証結果から見てきた今後の課題について、若干のコメントを記して、まとめにかえたいと思います。

2. 評価方法について

本報告書の検証結果は、総合戦略に関わる施策がどの程度成果を上げているのかを総合的に評価するために、「量的検証項目として重要業績評価指標(KPI)(以下、KPIとする)の達成度の評価」と「その施策の中身がどの程度充実したものであったのかを4つの観点から評価する質的検証項目の評価」を行い、これら量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。この評価方法は、数値で測れる「外形的な達成度」とどまらず、「質的・内容的な充実度」も検証しようとする工夫です。一般的に、KPIを設定するとその達成度に目が行きがちですが、設定された数値目標の達成にとどまらず、施策の質的・内容的な充実を図り、効果的な施策の展開をすすめて欲しいので、このような量と質の両面からの評価方法を取り入れました。つまり、公共サービスがどの程度供給されたのかという供給量だけでなく、その供給された公共サービスはどのような内容であったのかを検証して、質的な向上・内容の充実をあわせて評価し、量と質を統合した総合評価をしています。

具体的には、KPIの達成度で測る量的評価(満点10点)、四つの検証観点からの質的評価(1観点5点満点の4つの観点、満点20点)の二つの評価点を出し、その量的検証と質的検証の合計点数によって、5段階の「検証結果」としました。量的検証10点と質的検証20点と配点し、質的検証の配点を2倍にしています。しかし、例年、KPIの達成度が高ければ、検証結果も高い評価を得ています。質的検証で難があっても、KPIが高得点であれば、高い評価を受けている場合もあります。

施策の総合評価には、量的評価と質的評価という異質な検証結果の合計点数を使っており、施策の評価には少し注意が必要ですが、これまでおこなってきた町役場による内部検証を踏まえ

た、懇話会による外部検証を継続するのであれば、適切な評価を行うとともに、施策の改善も図ることが出来るのでは無いかと考えます。

3. 検証結果から判ったこと～今後の取り組みと検証への活用に向けて～

先に述べましたように、量的評価と質的評価の合計点により、総合評価をおこなっています。それらの結果は「3. 基本目標別検証結果」において、「基本目標別量的（KPI）検証結果（p8）」「基本目標別質的（取組内容）検証結果（p10）」の二つの総括表とこの二つの数値を合算した総合評価結果である「基本目標別検証結果（p16）」としてまとめてあります。初年度の2021年度の数値が入っていますが、今後第2期の5年間の検証結果の数値が入り、全体の動向を掴めるように工夫しています。

具体的に検証結果を見てみましょう。「基本目標別量的（KPI）検証結果」をみますと、40施策のうち37施策が、量S（25）、量A（8）、量B（4）となっており、概ね量的な目標は達成していました。

第1期の検証においても、KPIの値が高いと総合評価も高い評価を得られる傾向もありましたので、KPI設定の適切さは検証において重要なポイントとなります。KPI設定の適切さには、二つの観点からの適切さを考えなければなりません。第一の観点は、施策の指標としての適切性の観点です。施策の事業効果を表す指標として適切であるかどうかをしっかりと考える必要があります。事業実施体制の整備や事業実施の利用者数などアウトプットを示すKPI指標もありましたが、アウトプットのKPIにとどまらず、事業効果の実質を表すアウトカム指標を導入することが必要です。アウトプットのKPIの場合、供給体制の整備を行うだけで目標が達成されてしまいます。測定されるべきことは、その公共サービス供給体制によって、住民の福祉が向上したのかどうなのかが測定されなければならないでしょう。または、その事業の住民満足度を直接測るか、住民満足度の向上を示すような代替りの指標を設定することも考えられます。アウトプットよりアウトカムの指標を設定することが適切ではないでしょうか。第二の観点は、設定された指標の数値目標が、事業効果を測る水準として適切であるかを考える必要があります。目標値が低ければ、達成は容易であり、目標値が実態とかけ離れて高すぎれば、達成は困難になり、せっかくの取り組みの成果が見えにくくなってしまいます。

次に、「基本目標別質的（取組内容）検証結果」をみますと、40施策のうち「質B」が31個、「質C」が9個となっています。施策のおよそ4分の3は、「質B」の「内容を理解し、取り組みができている」との判定でした。4分の1は、「質C」の「概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分」との判定となっています。今後、取り組みの質的な向上を期待します。

そして、量的評価と質的評価を合計した総合評価を見ますと、40施策のうち「総合評価A」が20施策、「総合評価B」が17施策、「総合評価C」が3施策となっています。「総合評価C」の3施策は、量的評価がC（達成度50%未満～30%以上）、D（30%未満～0%以上）と振るわなかったものであり、そのうちの一つはコロナ禍の影響を強く受けている数値であり、KPIの設定が総合評価に大きな影響を与えています。

初年度の検証を行い、アウトプット指標が多く、目標値が少し低いのではないかとと思われるKPIも散見されます。また、内部検証がKPIの達成を目標に施策を展開しているように見受けられる事例も散見されました。基本目標を見失うことなく、施策に取り組んでください。

今回の総合戦略の評価は、量的評価と質的評価の両面から評価するので、量的にも質的にも事業の進展を評価することが出来ていると考えられます。また、四つの観点からの内部検証を行う内部検証作業を通じて、事業を担当する職員の皆さんには施策の広がりや深さを考えてもらう工夫として導入しています。行政の政策能力の向上を期待します。

以上のことから今後の取り組みと検証に活かして欲しいことを3つあげます。

- ① KPIの適切さを検証し、施策の展開を再考すること。とりわけ、内部検証がKPIに引きずられた検証になっている施策は、施策の取り組み内容を吟味して検証してください。施策の取り組み内容はKPIの向上に直接つながる取り組みだけではないことを理解してください。
- ② KPIがアウトプット指標になっている施策は、施策の取り組みがどのような「変化」をもたらすのかを考えながら施策を工夫し展開してください。その変化の広がりや深さに想像力をめぐらせて、施策のアウトカムを掴む力を養ってください。また、施策のアウトカムを意識した内部検証を行ってください。
- ③ 内部検証を通じて、行政の政策能力の向上を図るために、組織的な取り組みを行ってください。

4. 人口動態と総合戦略

日野町の人口動態を見ておきましょう。日野町の人口は、2022年9月末日現在で21,031人でした。2020年9月末日現在で21,322人でしたから2年間で291人の減少となります。

総合戦略は、人口減少に歯止めをかけることを目的としたものです。今回の検証からは施策は、計画初年次としては概ね順調に進んでいると評価できるものでしたが、人口減少は進んでいます。この二つの事実を事実として認識しなければいけません。この事実を真摯に受け止めることが必要です。また、この二つの事実から「総合戦略は人口減少の歯止めになっていないのではないか」との見方をされる人もいるでしょう。またある人は、「施策が概ね順調に進捗しても人口減少がすすむのは、施策や戦略の立て方が間違っているのではないかと考える人もいます。しかし、そのような単純化した推測が難しいのが現実でもあります。単純化できない三つの理由があります。

第一の理由は、日本の出生数減少の現実です。2021年の全国出生数は、81万1622人で過去最少でした。2020年の全国出生数84万835人から2万9213人減っています。減少は6年連続。2020年に政府の推計よりも3年早く84万人台に突入しましたが、急速に全国の出生数が減少しています。さらに、婚姻件数は前年より2万4369組減少し、50万1138組と急減し、2年連続で戦後最少でした。新型コロナウイルスの影響も重なり、日本の少子化が加速している状況にあります。全国の出生数が、6年連続で100万人を割り込み、2020年に80万人を割り込む可能性もあります。80万人割り込みは、国立社会保障・人口問題研究所の推計では2033年とされていたので、11年の前倒しになる可能性があります。こうした全国の下で日野町だけが出生数が飛び抜けて増えると思えるのは幻想ではないでしょうか。

第二の理由は、日本全体の少子化・高齢化のなかで、日本中の市町村が総合戦略に取り組んでいるのですから今や人の奪い合い状況に陥っているという状況にあると言う事実です。人口増を実現するのは困難な仕事です。

第三に挙げられる理由は、「総合戦略の成果」が強力な磁場となり、人々を引きつけ、日野町の人口増（自然増と社会増）に直接的な結果としてあらわれるとはなかなか言いがたいところがある点です。総合戦略にできることは、「総合戦略の成果」によって、住みやすい日野町、住み続けたい日野町でありつづけることで、人口の流出の抑制やUJターンなどの移住者を増やすこと、子育て世帯を支えることで、子育てのしやすい環境をつくり、出生増につながる基本的な環境をつくりだすことなどでしょう。そうしたことを実現することこそ、人口減少に立ち向かう基本的な環境を整える総合戦略の果たすべき役割であると言えるでしょう。

5. 総合戦略の効果を高めるための提言

日本全体が少子化と人口減少に歯止めがかからない中で、農村的な地域の地方自治体において、少子化と人口減少はより一層深刻な問題です。総合戦略は、少子化と人口減少に直面する日野町にとって、住みよいまちづくり、住み続けたいまちづくりのためにも重要な施策となっています。今後、総合戦略の事業効果を高めるための4つの提言を行います。

① 地域経済の質的転換を目指す。

基本目標②は、「地域資源を活かし、地域経済の活力と暮らしを支える雇用をつくる」というものです。この基本目標②において、「基本目標・基本的方向等を踏まえての状況」の内部検証が、基本目標・基本的方向等を十分に踏まえていないものが散見されました。基本目標・基本的方向等を十分に踏まえた検証と今後の施策の工夫を求めます。しかし、踏まえていないのには理由があると推察します。この基本目標の中で、施策 No.4 は、「地域内経済循環の推進」というものであり、基本目標②の中でも最も重要な施策とも言えるでしょう。しかし、施策 No.4「地域内経済循環の推進」の取り組みの最大の欠陥は、地域内経済循環の実態を把握していないことです。地域内経済循環の実態が把握できていないので、他の施策も目指す姿を十分に踏まえることなく、施策を展開しているように見受けられます。地域内経済循環の実態を把握し、基本目標の目指す姿を踏まえて施策を展開するように努めてください。

② 住民自治の質的転換を目指す。

基本目標④の施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」、施策 No.8「高齢者のいきがいづくり」は、これからの地域における住民自治のバージョンアップを促すきっかけになると思われます。例えば、施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」は、直面している地域課題に対応しようとする新たな住民の自治活動の領域が広がろうとしています。基本目標④施策 No.8 は、外部検証で述べていますように基本目標④施策 No.5 と関係しており、重層的支援につながるような施策の工夫がなされていくと、従来の地域自治活動を基盤としながらも、新しい地域自治活動が育まれることが期待できます。新しい地域自治活動を育む、地域自治活動の質的転換が必要となってくるでしょう。

③ 担い手育成に努める。

「住民自治の質的転換を目指す」ためには、基本目標④の施策 No.4「多文化共生の推進」、基本目標④の施策 No.5「支え合いの仕組みづくりの促進」、No.7「心身の健康づくり」の取り組みは鍵となるかもしれません。内部検証の中で、質的転換の芽を見いだすことができます。施策 No.4 では、「日野高校生と日野在住外国人の方との交流の場づくりに言及されていますが、次世代の育成という観点からも注目に値する取り組みです。施策 No.5 にでてくる「生活支援コーディネーター」、施策 No.7 にでてくる「健康推進員」などは、地域における担い手育成の起点になるのではないのでしょうか。基本目標①施策 No.4「子育て支援のネットワークづくり」の中などで感じたのですが、ボランティアの掘り起こしにつながる取り組みが弱いように感じられます。担い手の育成の前段階として、ボランティアを掘り起こせる工夫を行って下さい。

④ 他の施策との連携と施策の総合性を意識した事業展開を図る。

総合戦略の施策の中には、相互に関連性が高い施策があります。外部検証でも具体的に相互関連性が高い施策は指摘をしています。第6次総合計画の実施にあたり、役場内で「総計政策連携会議」をもち、効果を高める取り組みを行っていると聞いています。総合戦略においても、施策間の連携を強め、施策の総合性を意識した事業展開ができるように工夫を行って下さい。

8. 資料編

1) 用語解説

用語	解説
K P I	「重要業績評価指標」という意味の英語「Key Performance Indicator」の略語であり、目標の実現にあたって、業務の進捗状況や成果の評価に用いる指標のこと。
U I Jターン	地方から都市へ移住したあとに再び地方へ移住するUターン、地方から都市または都市から地方へ移住するIターン、地方から都市へ移住したあとに地方近くの中規模な都市へ移住するJターンの総称のこと。
超高齢社会	65 歳以上の人口の割合が全人口の 21%以上を占めている社会のこと。
PDCAサイクル	Plan-Do-Check-Action の略称。Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。
ワーク・ライフ・バランス	やりがいのある仕事と充実した私生活を両立させるという考え方。仕事と生活の調和。
コミュニティ・スクール	学校と保護者や地域の人たちとともに知恵を出し合い、学校運営に取り組む「地域とともにある学校づくり」を進めるための仕組みのこと。学校運営に地域の声を積極的に生かすことで、地域と一体になって特色ある学校づくりを進めていくことができる。
ファミリーサポートセンター	子育ての手伝いをしてほしい人（依頼会員）と子育てのお手伝いができる人（協力会員）が会員登録し、センターのアドバイザーが橋渡し役となって、会員同士が子育てを応援しあう組織のこと。
放課後児童クラブ	小学校および特別支援学校小学部に就学している児童の保護者が労働等により昼間家庭にいない場合に、家庭に代わる生活の場を確保し適切な遊びや指導を行うことにより、その児童の健全な育成を図ることを目的としている場のこと。学童保育所。

用語	解説
放課後子ども教室	子どもたちの安全・安心な居場所をつくるため、学習支援員（地域住民）の協力のもと、子どもたちに勉強やスポーツ等、地域住民との交流の機会が提供されている。
人・農地プラン	集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための未来の設計図のこと。
おさんぽカード	日野町商業協同組合が発行するカードのこと。組合加盟店での商品の購入や飲食等によりポイントがたまる。
コミュニティビジネス	地域住民自らが地域の課題解決に取り組み、やがてビジネスとして成立させていくことであり、地域コミュニティの元気づくりの事業活動のこと。
社会的責任（CSR）	収益を上げ、法令を遵守するだけでなく、人権や環境問題への配慮、地域社会への貢献を行うなど、企業が市民として果たすべき責任のこと。
サテライトオフィス	企業本社や団体の本庁舎・本部から離れたところに設置されたオフィスのこと。
交流人口	定住人口とは異なり、通勤、通学、文化、スポーツ、買い物、観光などの人々の交流により、地域の活性化に結び付く人々のこと。
デマンドタクシー	指定の場所から目的地まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望に、バス並みの料金で利用できる公共交通サービスのこと。
SNS	Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略語であり、友だちなどと繋がり、文章や写真、動画などで自分を表現したり、コミュニケーションするサービスのこと。
関係人口	移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と継続的に多様に関わる人のこと。

用語	解説
リモートワーク	従業員がオフィスに出社することなく、会社以外の遠隔の場所で業務を行うこと。
二拠点居住 (二地域居住)	都会に暮らす人が、一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすこと。
ワーケーション	「ワーク (work) 」と「バケーション (vacation) 」を組み合わせた造語であり、観光地やリゾート地でリモートワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のこと。
多文化共生	国籍や民族の異なる市民同士が互いに違う文化を尊重し合いながら対等な関係で共に生活していくこと。
3R	ごみの発生や資源の消費をもとから減らすこと (Reduce)、繰り返し使うこと (Reuse)、資源として再び利用すること (Recycle) の総称。
アウトプット (指標)	施策・事業そのものの結果 (を表す指標)
アウトカム (指標)	施策・事業の実施によって得られる効果・成果 (を表す指標)

日野町のキャラクター



2) 日野町総合計画懇話会の開催

実施日	実施内容	場所
令和4年 5月25日	第1回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和4年 6月27日	第2回総合計画懇話会	日野町林業センター ホール
令和4年 7月27日	第3回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和4年 8月10日	第4回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和4年 9月21日	第5回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室
令和4年11月 1日	第6回総合計画懇話会	日野町防災センター 研修室

3) 日野町総合計画懇話会委員名簿

※敬称略

委員区分	氏名	所属・推薦団体等
学識経験者	会長 只友 景士	龍谷大学政策学部教授
団体等推薦	副会長 山本 身江子	日野町地域女性団体連合会
	田中 嘉浩	農業関係団体
	岡 永治郎	日野町商工会
	齊藤 雅史	日野町企業協議会
	間瀬 克	日野町青年代表
	本居 節子	子育て関係代表

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期）

— 人と人がつながりいきいきと輝くまち —



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略（第2期） 施策検証結果報告書（令和3年度）

令和4年（2022年）11月

【発行】日野町総合計画懇話会
事務局 日野町企画振興課
〒529-1698 滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地
電話：0748-52-6552
FAX：0748-52-2043
